

| | | | |
|------|-------|-----|-----|
| 天保四年 | 種子島家譜 | 廿三年 | 四十九 |
| | 名 | 迹道 | |

- 天保四年癸巳正月元日、國上村獻「野老」、
- 二日、國上村獻「瀬物」、現和村・庄司浦獻「鯨」、
- 同日、覽「馬、家老」失姓、馬役平山藤助、
- 同日、八箇寺進上、如「例」、
- 同日、泉州堺木屋平兵衛船明吉丸船長嘉兵衛・水手八人漂「到于安城村」、為「運」送唐貨「在」于長崎「欲」赴「筑後」、十二月十九日長崎開港、洋中

遇「難風」、數日漂流、幸得「好風」漂「到于此地」云、締方横目萩原喜藤太・寺師六兵衛、吾横目岩川十右衛門時行・西村七郎時民檢「察之」、事聞「于官」、

○四日、上之郡庄官・小觸進上、如「例」、

○六日、初狩、組頭西村源五右衛門時弘・上妻才次郎宗敏・羽生仙右衛門能俊、山奉行宮浦藤九郎・

美座矢太郎・知覽弥兵衛、夕狩場、名代家老前田太兵衛宗周物奉行・用、西之表庄官進上、如「例」、

○七日、下之郡・中之郡庄官進上、如「例」、

○同日、緒方善藏・國上雄五郎・美座小太郎・八板志賀助初謁見、名代家老前田太兵衛宗周物奉行・用、

姓「善藏・雄五郎獻「征矢」、小太郎・志賀助獻「火繩」、

○十一日、甲冑之賀筵、如「例」、

○同日、本源寺軍陣・温座祈念、如「例」、

○同日、蓮勝寺進上、如「例」、

○同日、贈「佳札于兩本山」、如「例」、

○同日、在郷諸寺進上、如例、

○同日、的始、家老平山傳一郎武世、用人^{失姓}、射

手一番^{美座小太郎}、二番^{日高惣四郎}、三番^{羽生治兵衛}、
^{西村軍太郎}、^{子島龍助}、^{八板志賀助}

○十七日、鶴田寛兵衛僕及池龜甚四郎納科錢各一

貫文、坐伐爲防風所植之松也、

○以西村惣次爲勝手方掛、

○廿日、名越船右衛門寺入于本法寺六箇月、坐

有過受罪身促納官村松下平之允^{將西盜之桎材}

也、

○廿一日、以種子島友右衛門時大爲用人、下

村惣太郎時憲異國方掛、羽生仙右衛門能俊再船奉

行、

○是月、萩原・寺師榮勞檢察就、榮竈九百四十五

軒、勞千九百五十二軒^{人數不詳}、

○官命可聞三位公疾病于松壽院殿、開于

左、

○二三五 藩達書

三位様御事旧蠟^蠟より御不例被遊御座候付、御隱

居様御事 公邊御伺濟之上、高輪新御殿御借受、

爲御看病去七日より高輪江被遊御逼留、三位様

御容躰別紙之通而、御隱居様被遊御配慮候得

共、於御機嫌者向、御差障茂不被遊御座候處、御

容躰御内證様・御子様方・市正殿江申越候様被仰

付候旨申来候条、松壽院殿江可申上事、

正月

○點見丁夫・病夫及有職者聞于官、如例、

○二月十二日、嚮濱津脇浦甚四郎借指宿之治三次

者船^{二枚}歸島、今日甚四郎・三吉・善平・嘉次

郎・藤七五人乘此舟濱津脇開港赴赤尾木、

中途遇風浪起、於住吉村星ヶ崎破船、五人

共乘橋舟助命、失宗門手札、事聞于

官、

○十五日、官命西村周左衛門殺坂井村百姓周

五郎之無罪、事開于左、

○二三六 二階堂行典申渡書

種子嶋伊勢名跡

家来

西村周左衛門

右者、去、卯九月十八日夜、同所坂井村江踊有之、為見物差越、小用ニ出候折、後より逢打擲候ニ付、相科目候得者、同村百姓周五郎与名乗、見物妨ニ相成候旨申掛、又、額を打擲いたし疵付候ニ付、打果存念ニ而門外江引出候處逃去候ニ付、同人宅江差越打果候旨申出、周五郎事兼而性質強氣者ニ而、其夜茂拔身を携居候由相聞得、旁之次第を以前条之始末、無相違打果候儀左茂可有之儀故、無御構候、

右可申渡候、

二月

(二階堂行典)
主計

○二三七 加藤権兵衛・肱岡仁左衛門連署

申渡書

種子嶋坂井向井門

名子周五郎

妻子親類共江

右、去、卯九月十八日夜、同所坂井村江踊有之、右周五郎見物として差越、種子嶋伊勢名跡家来西村周左衛門小用ニ出候折、後より逢打擲候ニ付、相科目候得者、同村百姓周五郎与名乗、見物妨ニ相成候旨申掛、又、額を打擲いたし疵付候ニ付、打果存念ニ而門外江引出候處逃去候ニ付、同人居宅江差越打果候旨、周左衛門申出、周五郎兼而性質強氣者ニ而、其夜茂拔身を携居候由相聞得、旁之次第を以前条之始末無相違、不屈之仕方故、向後對周左衛門挾憤間敷候、自然龜忽之儀茂有之候ハ、屹与其咎被仰付候旨、今日川田求馬取次を以被仰渡候間、此段申渡候、以上、

郡奉行

肱岡仁左衛門

二月十五日

加藤権兵衛

種子嶋

役人中

其外役、中

○十六日、叱_二猶原傳藏・林林藏_一、坐_レ催_レ富_{製札數}百千、定價賣之、定日令買者會同、盛其札于匣以針刺之、先當針者取錢、由札又有多寡、刺之亦有數、不當者空手歸、謂之富也、

○十九日、官以_二三位公疾益病_一命、各禱_レ爾于所_二尊敬_一之神社、可_レ獻_レ其符命、開_レ于左、

○二三八 二階堂行典申渡書

一三位様御不例之處不被遊御勝由_二付、御領國中諸郷崇社其所尊敬之於堂社御祈禱いたし候様被申渡、御札守之儀者月番御用人江相附被差出候様、地頭・領主・番頭より可申渡候、

二月

（隱者史）
主計

○廿二日、縮方横目税所仲兵衛・児玉與右衛門来、

○同日、令_レ僧徒於_二本源寺_一禱_中爾、三位公快愈_上、

以_二鮫島嘉左衛門足輕川口六次郎_一將_レ獻_レ符命_一、時薨去之訃到、故止_レ之、

○同日、國老諏訪治部武教告_二三位公訃_一、且命_二殺生停樂等_一、開_レ于左、

○二三九 諏訪武教申渡書

松壽院殿

一三位様御不例被為尽御養生候得共不被為叶、去_二日卯之刻_一被遊、御逝去段御到来候、此旨被奉承知候様、種子嶋伊勢名跡用頼江可申渡候、

二月

（諏訪武教）
治部

○二四〇 諏訪武教申渡書写

治部殿被相渡候御書付之寫

一忌三十日

一服百五十日

松壽院殿

右者、三位様御逝去ニ付、御忌掛右之通候条、相殘候日数被相請、日数相過候ハ、一日遠慮可有之候、此旨可申渡候、以上、

二月廿二日
(諏訪武教)
治部

○二四一 藩家老座申渡書

三位様御不例御養生不被為叶、去三日被遊 御逝去候ニ付、今廿二日より慎、左之通、

一 山野之殺生并鳴物日数三十日可相止候、

一 普請作事日数十五日可相止候、

一 漁獵并諸商賈、且又家職ニ付音高儀、日数七日可相止候、

一 御直士日数三十日月代仕間數候、

一 足輕其外一身者日数三十日月代仕間數候、又者并町人百姓等不及其儀候、

一 高輪并白金御付之面々者日数五十日月代仕間數候、

一 火用心別而可入念事、

右之通組中江可被申渡者也、

二月廿二日

御家老座印

大身分觸役所

○二四二 諏訪武教達書

三位様去三日被遊 御逝去候ニ付、御一門方并諸大身分其外月次御礼罷出候面々、今日四時登城、於席々謁御家老

太守様

御隠居様

若殿様江可被伺御機嫌候、

但大奥江兼而御機嫌伺被申上来候面々、江茂可被申上

候、江戸并京都江者御使便有来通可被申上候、

右同断

松壽院殿

太守様

御隠居様

若殿様江可被奉伺御機嫌候、

但書同断

右可致通達候、

二月廿二日

(諏訪武教)
治部

○二四三 諏訪武教申渡書

三位様御遺躰被遊 御下國、福昌寺江御入御葬式

答候、此旨向、江可申渡候、

二月

(諏訪武教)
治部

○北條織部時昭上疏、請_レ以_二家格_一 三位公喪中

使_内本源寺野諷經・坐諷經奠_二盛膳_一捧_乙祭文_甲、

開_二于左_一、

○二四四 北条時昭願書

大信院様被遊

御逝去候ニ付、種子島伊勢家之儀、御代々様江

御中陰中祭文進上仕来候間、當分名跡之儀ニ候得

共、此節茂不相替被仰付被下度奉願上候、尤平供

諸膳部盛物御菓子等、都而御物御取替を以調方被

仰付被下度、是又奉願上候、此旨被仰上可被下儀

奉頼候、以上、

巳二月

(時昭)
北條織部

○二四五 北条時昭願書

大信院様被遊御逝去候ニ付、種子嶋伊勢家之儀、

御代々様江野諷經・座諷經迄茂種子嶋本源寺江為

相動来候間、此節茂先例之通被仰付被下度奉願上

候、左様御座候ハ、飛船を以早々罷登候様可申

越、此旨被仰上可被下儀奉頼上候、以上、

巳二月

(時昭)
北條織部

○廿九日、平山村百姓次郎太宅火、人馬・宗門手札

等無_レ恙、

○按_二察一向宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○三月三日、止_二佳儀_一、以_二大信院殿喪_一也、

○十四日、令_二横目前田十九郎宗恭_一・上妻才次郎宗

敏搜^一聞亡長野才之允妻^{現和村遠藤孝右衛門女也}貞節^一、事記^二

于左^一、

○二四六 前田宗恭・上妻宗敏連署覺

覺

亡長野才之允妻聞得之趣有之候付、致聞合書付を

以申上候様被仰渡、聞合之次第左^二申上候、

一生質正直成者^二而、才之允者勿論、親類隣家江茂

平日餘程睦敷為有之由承申候、

一才之允悪疾与相成候而より、親共より可引取旨為

申由御座候得共、初發參候節無事之時^二者相親、

患難之時^二者相離候約束^二而者無之候、就而者仕

合悪敷才之允悪疾を受候逆、今更見捨罷帰候儀不

相成旨申切為申由、尤才之允至死後候而、子共茂

無之事候故可引取旨、又、親類共為申由御座候得

共、今^二跡養子致度由^二而、才之允存生之節^二不

相替、彼是家事辛勞仕申事^二御座候、

一^一所帶向茂難渋之由候得共、作式等いたし、又者他

人之布杯織候而受謝禮、才之丞一世之間始終不相替^一丁寧為有之由承申候、

三月十四日

上妻才次郎^{宗慈}

前田十九郎^{宗慈}

○十五日、収^二羽生平十郎高九斗四升七合五撮^一、

為^二西之表稅吏^二多欠^二貢稅^一、無^二償^レ之術^一、自

請^レ納^レ高故也、

○十八日、國老島津丹波久長傳^レ命赦^二荒木拙之

助^一、事開^二于左^一、

○二四七 島津久長申渡書

種子嶋伊勢名跡

德之島

廿家

荒木拙之助

右、依科遠島申付置候得共、御位階御昇進^二付、

御恩赦被仰付候、

但嶋居付願^二候^一、其訳可申出候、

右可申渡候、

三月十八日

(島津久良)
丹波

○廿二日、西之表足輕牧瀬善之進寺入于妙泉寺、
鮫島休太郎寺入于滿徳寺、各七日、坐去歲
護送七島居住人之日有_レ不正之事也、

○同日、古田村之百姓兵太郎下_レ獄二百日、於_レ
處々竊盜、且與大會寺門前弥吉共為博奕、
竟將盜舟出奔、事發覺、去年以竊盜下_レ
獄、猶未改_レ心、今又為如此惡事、欲處重
罪、以名跡中有一罪一等及茲、連及父兵左
衛門納科炭二俵、

○同日、大會寺門前弥吉納科炭十俵、與古田村
之兵太郎共博奕、且欲盜舟出奔、去歲有罪
下_レ獄猶未懲_レ而犯_レ法、故及茲、

○同日、叱池田浦之新次郎、坐商為博奕札上
也、

○廿八日、中西之表荒木休右衛門宅火、人馬・手札

等無恙、

○同日、國老島津丹波久長傳命、赦長島郷士本
村七郎左衛門妻、以太守公官位昇進也、

○同日、前田藤次郎・羽生蟻之助・美座直次・鮫島
甚七・東嘉助初謁見、獻征矢、河東太郎助・
知覽源次郎・河東三四郎・徳永小彌太・鮫島仙蔵

・上妻惣助・田上龜次郎・日高勇太郎・長野長次
・下村六郎左衛門・東茂一初謁見、獻火繩、

○以_レ大信院殿喪中為野諷經・坐諷經、本源
寺日健衆徒正覺院・宜圓院・自姓坊・蓮性坊・修
善院・堯仙坊・儀全坊赴于覺府、

○四月一日、締方横目萩原喜藤太・寺師六兵衛歸、

○八日、免為醫者以本府之格住市街中上、

○同日、異國方御用人北條織部時昭禁私商唐
貨、示系荷船漂來之日處置之法、如例、

○同日、命於本府種子島次郎左衛門就道之方
師範木上清左衛門受大的之傳、故役的始射
手輩就次郎左衛門宜學之、

○十四日、羽生七郎次學射於東郷氏、受傳、與其父平之進等、故命學之不怠、宜教導門弟、

○十五日、以異國船來之候、國老二階堂主計行典・川田信濃佐摸・諏訪治部武教・島津丹波久長・島津但馬久風傳長崎奉行之命、如例、

○國老島津但馬久風傳命、告大坂流人見放于此地、事記于左、

○二四八 島津久風申渡書

種子嶋

役人江

此節大坂より流人十人内外警固人等申付、西目筋被差越筈候、左候而右乘船京泊江致着船候上、直種子嶋江四五人、屋久嶋江五六人、人数分を以被遣所之者共江夫、預申付筈候条、去丑年流人被遣候節之振合を以配所等之手當可有之候、右付取締向等之儀者追而可申渡候、此旨種子嶋伊勢

名跡屋久嶋奉行江可申渡候、

四月

(島津久風) 但馬

○五月五日、與粽三箇寺、慈遠寺獻同品、

○十四日、大雨、油久村・増田村・安城村・島間村田地大壞、

○廿九日、武田善平於牢中病死、

○今歲五穀不登、諸民大飢、欲救之、府庫困窮無由買糶、且大坂出米金納不給事及艱難、

松壽院殿大憂出自所藏金二百兩被助費用、

○按察一向宗告于官、如例、

○六月十五日、免盆前掃除道路、以凶歲也、

○増田村・平山村・安城村・西之村・中之村有蝗、田地大損、

○松壽院殿感長野才之允妻守婦道能貞節、賜青銅五百疋、開于左、

○二四九 前田宗周・知覽行寬連署申渡書

(二四九の上)

一青銅五百疋

亡 長野才之允 妻

右、生質正直成者ニ而平日隣家江睦敷、才之允病身ニ相成候而より親共可引取為申由候得共、無事之時者相親、患難之節者可相離約速^(マツ)ニ而者無之旨申切、一世至極親切致介抱、彼是之形行 松壽院様被聞召通、持前之儀ニ者候得共心入殊勝之至被聞召上、織部様・六郎様江御相談之上、為御褒美頂戴被仰付旨被仰出候、

巳 六月

右之通被仰出候間、如例可被申渡候、以上、

六月

知覽才兵衛 ^(行寬)

前田太兵衛 ^(宗周)

御役人衆中

(二四九の下) 右御本文之通被仰出趣及掛合候間、如例可申渡

候、以上、

六月

御役所

御用人

○定武田善平罪為遠流、於處々竊盜、或破米倉小拂所、偷倉吏之金銀、然非破府庫、以士論則罪當死、善平舊雖列士林、住市街、久慣下賤之事、故難為士、今比于庶人為流罪、

○廿九日、夏越之式、如例、

○七月四日、與米二斗于船主蟹泊浦之喜左衛門・

船長池田浦之貞吉及水手十人、遣喜左衛門船

覺府一轉運救飢民一米上、七日而歸、故賞之

也、又與一斗于船主池田浦之弥次郎・船長與十

郎・水手八人、自覺府載米八日而歸故也、

○七日、飾日深公鑑于廣間、家老平山傳一郎武

世拜之、

○八日・九日、修清孝院殿七回忌于本源寺、初

日八講眞讀、結日頓寫說道、平山傳一郎武世代、于松壽院殿、河内熊右衛門代、久美・婦美・真佐一行、香、法事奉行種子島五郎衛門時義・上妻才次郎宗敏、靈膳奉行肥後惣左衛門・西村熊之助、出家三十五人、

○八日、家老西村甚五太夫時員詣、大會寺、十三日、家老平山傳一郎武世詣于慈遠寺、各祭先祖及宗祖・戰死靈、十四日、家老羽生半兵衛能寧詣于本源寺祭宗祖、十六日、家老種子島郷兵衛時雍於本源寺方丈祭祖先及戰死靈、

○十一日、鞠問舊公儀流人作兵衛、得於處處竊盜之實上、即下獄、

○十七日、美座矢太郎寺入于滿徳寺、七日、爲中之村税吏一簿中欠載米入、故罪之也、

○十八日、以三國上伴九郎爲普請奉行、田上市郎義福高奉行、西村權太夫山奉行、令鮫島孫右衛門出座于高所、

○廿三日、馬追、家老西村甚五太夫時員、物奉行美

座七郎右衛門時敏、用人上妻小左衛門定直、馬役前田次郎左衛門・遠藤壯兵衛・平山直次・平山藤助、

○廿六日、野間村百姓市次郎發狂、殺外伯父六十郎、其身自縊死、即締方横目税所仲兵衛・兒玉與右衛門、吾横目種子島友右衛門時大・岩河十右衛門時行檢察、事聞于官、

○廿七日、諏訪治部武教傳命、告尊崇大信院殿于高輪邸福壽亭、称護國權現上、事開于左、

○二五〇 諏訪武教達書

大信院様御事

高輪御屋敷福壽亭江御神殿被召建筈候段御到来、此旨可奉承知候、右三付其外一門方御礼罷出候面々、明廿八日四ツ時登城、於席、謁御家老、太守様・中將様・若殿様江恐悦可被申上候、右之通向、江可致通達候、

七月廿七日

(諏訪武教) 治部

○同日、以有現和村百姓市之允竊盜之說捕之鞫問、得盜日高孫兵衛及長野才之允妻之麥等之實、囚獄百日、

○國老諏訪治部武教命以前太守公可稱中將公、

○以濱田喜七爲組土格代々二十人歲賜米三石、賞能察府庫困窮納金三百兩也、於高後年可與之也、

○池田浦之水手利三次囚牢百日、出牢後禁旅行、坐於覺邸廐盜中間西田十助・木挽島間村之平次郎衣服也、

○檢察鬼利支丹宗告于官、如例、

○八月一日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、

二箇寺亦獻同品、

○七日、締方横目寺師六兵衛・萩原喜藤太來、

○十日、遠藤直四郎寺入于妙昌寺三箇月、八板

矢一兵衛寺入于清淨寺三箇月、去卯歲爲米倉吏時、武田善平破小拂所盜金銀、而不聞之、以護府庫之職緩事甚、故罪之也、

○同日、枅取中之村河野善左衛門寺入七日、武田善平盜小拂所之金錢之時、信倉吏禁他言不聞之、故坐之也、

○十三日、賜米各一石于西之表村・住吉村、今歲大饑、村里盡請救米、二箇村亦雖困窮慮府庫空耗、有飢者則親戚・隣里恤救之不請救米、其志至好、故賞之也、又西之表有納米粟等助府庫者數人、今褒賞之、其言開于左、

○二五一 役所物奉行覚

覚

當年凶歲付御救米拂底之砌、米并其外穀物御借入被仰渡、西之表内より数人借上御力相成、畢竟兼而心掛宜敷与相見得、殊勝之至、向後猶以御

為筋を心頭ニ掛、萬事相勵候様、銘々江可申渡候、以上、

八月十三日

御役所

御物奉行

○十五日、蓮勝寺獻ニ神酒・黍盛、

○廿日、大雨洪水、西之表村・現和村・安城村・野

間村・莖永村・平山村・坂井村・増田村・納官村

・島間村傷ニ田園ニ不レ可ニ勝算、隨ニ其損ニ減ニ賦

税、有レ差、

○九月五日夜、中之村中之塩戸十八娘焼ニ島間之周

市家之軒、行路人見レ之呼ニ叱之、隣人馳至得レ

救レ火、即鞠ニ問之、舊嫁ニ周市ニ離別、頃日患ニ

狂疾ニ如レ是、故令ニ親戚警ニ護之、

○九日、令ニ種子島五郎衛門時義講ニ法令章、如レ

例、

○十三日、横目伊集院治左衛門・同心十三人護ニ送

大坂流人十二人ニ來、即令ニ之遣ニ配所地、如レ例、

○二五二 公儀流人配所覚

覚

一 禪宗

木村惣左衛門御代官所河州河内郡
白下村正法寺隱居

右預人現和村庄屋榎本七左衛門

角文

一 淨土宗

無宿やけ五郎事 五郎兵衛

中之村庄屋遠藤武左衛門預り

一 淨土宗

天満橋幡町天満屋

古田村庄屋鮫嶋新吉預り 仲右衛門

一 禪宗

無宿伊丹之

野間村庄屋日高藤助預り 卯吉

一 柳土佐守領分幡為加東之郡淨土
寺塔中古戦真言宗歡喜院住持
知洲
安納村庄屋鎌田金兵衛預り

一淨土宗

上東町八丁目中寺町竹林寺住持
安城村庄屋長野儀兵衛預り
隨音

一日蓮宗

無宿阿波之
久兵衛
油久村庄屋西村甚兵衛預り

一淨土宗

無宿大工
徳松
納官村庄屋牧瀬紋左衛門預り

一真言宗

無宿淡路之
藤吉
増田村庄屋馬場彦右衛門預り

一淨土宗

無宿馬借之
音吉
莖永村庄屋岩坪甚左衛門預り

一淨土宗

無宿米屋奴之
善吉
西之村庄屋日高平次預り

一日蓮宗

無宿髮結之
富吉
平山村庄屋岩川市之允預り

○廿四日、油久村之周之進・喜太郎宅火、人馬及宗
門手札無_レ恙、

○同日、締方横目税所仲兵衛・児玉與左衛門歸、

○問_二田地支配之事于覺府_一、事關_二于左_一、

○二五三 給地支配ニ付伺書並答書

覺

一給地支配替之儀、依願之訳而者御免被仰付事御座
候哉、給地相對之替地者勝手次第御免被仰付事共

二而も御座候哉、

一新地拜領又者御役料地等御頂戴之節、御支配之御
仕向何様ニ而御座候哉、

一名寄帳頂戴被仰付候節者、何様之御仕向ニ而御座
候哉、

右三ヶ条、御上御仕向御内分御尋申上候、以
上、

九月

『本文支配替与申儀者一切不相成御法ニ而候、給地相對之替地逆茂同断ニ而致替地候節者、双方より賣買願申出高直相濟候、尤高賣買之儀者何ケ度ニ而も、願出次第被仰付候、高員數之儀者、依家格御定有之事ニ候、場所之遠中近与土地之上中下与、三段ニ相分入交候而被成下事ニ候、左候而荒地差引与申儀有之引方有之候、仮百斛拜領致候節、現取納いたし候高者九十九石位欸九十九石五斗位欸、残而壹石欸五斗欸、荒地より渡候持合百斛目成候仕向ニ候、
 名寄之儀者、御一門方者役人、家名方者留主居、一所持より寄合迄用頼御用ニ而、御殿於芍薬之間御勘定奉行・御勘定小頭出席有之被相渡候、御側御用人以下無役之小番御小姓與、都而其身直ニ罷出候、寄合家格之人者御側御用人以下之御役被相勤候而も用頼ニ而も相濟候、小番ニ而も當番頭以上之御役人者用頼ニ而候』

〔本文ハ前文書ノ行間ニアリ〕

○官令ニ水手喜八納ニ科錢五百文、坐_下以_三己之信牌授_三于指宿十二町村五郎、爲_三以呂波丸水手_二令_レ之_中于鬼界島_上也、

○國老島津丹波久長傳_レ命、以_三島津仁十郎_二爲_二當家差引人、事開_三于左_一、

○二五四 島津久長覺

覺

島津仁十郎

右者、種子嶋伊勢名跡樵山休太夫江被仰付置候得共、依願御役御免被成ニ付、代差引被仰付候条、諸事可致差圖候旨可申渡候、以上、

九月

〔島津久長〕
丹波

○二日、國老傳ニ縣官命_二曰、以_三新鑄_二一朱銀、持_二一步金_一者出_レ之、可_レ易_三于小判・二步判_一・一朱判等_二也、

○六日、以_三種子島友之助_二爲_二納戸奉行_一、前田次

郎左衛門・河内六郎普請奉行、羽生半左衛門山奉
行、西村太平次納殿役人高奉行
如故

○同日、以凶歲免大山野賦稅、

○國老諏訪治部武教戒私砂糖、事開于左、

○二五五 諏訪武教覺

覺

種子嶋

右者、新製砂糖取締向三付而者、是迄追々申渡置
候三付、當時不締之廉者無之候得共、追々出来増
之事候間、若哉心得違之者拔賣(密)蜜買等之不審有之
節者、実否三不(拘)拘百姓者勿論郷士家来たりとも、
屋敷内其外不審之場所者、所掛役々踏入不時為致
改方、万一不正之致取計候者茂候ハ、早速致言
上、聊不締之儀無之様、尚又嚴密行届候様、右諸
郷・私領江申渡、可承向々江茂可申渡候、

十月

(諏訪武教)
治部

取次 北條(時昭)織部

○十三日、與三米三石于住吉村、每歲不レ忘三貢
稅、頻年凶歲村々雖レ請三救米一敢不レ請、有二飢
者二隣里・親戚助三救之、且今歲大洪水傷三田
地、諸村得三府庫之助三修三築之、於三住吉村一者
不レ待三府庫之力三修三治之、故賞レ之也、

○廿四日、納官村濱津脇浦休七船三枚載三平木、

自屋久島官浦歸帆、中途遇三逆風一於三穎娃牧之

内村一破レ船、事聞于 官、

○廿七日夜、盜偷三船手財、

○按三察一向宗一告于 官、如レ例、

○官命之除三家來及又者一點檢一島戸口一記三之簿一以

可レ呈、事記于左、

○二五六 島津久備久覺

覺

屋久島

七嶋

硫磺嶋

黒島

竹嶋

種子嶋

右、從 公儀人數改之儀被仰渡候ニ付、改様之次第別紙案文相渡候間入念相改、来年二月迄之出入・生子相込、一紙くゝり帳相認、来四月限無延引可差出候、改様之次第、去子年申渡候節之通、諸事可相心得候、

右之通嶋々江申渡候様、御船奉行・屋久嶋奉行

・種子嶋役人江茂可申渡候、以上、

但種子嶋之儀家来・又者不及改候、

十一月

(島津久備)
登

○問ニ武藝檢見、或寺入逼塞、或刃傷火事、或元服官位昇進等格式于本府、事開ニ于左、

○二五七 諸土格式ニ付同書並答書
「本文御目見不相濟候而も罷出事ニ候、御家老兼御見分ニも同断
 一諸土武藝 御覽之節、未初而之御目見不相濟御衆

者^{ニ候}、被成御出儀不調事御座候哉、御家老様御見分之節茂同様成儀御座候哉、

一鹿兒嶋江致居住居候而茂、郷土之儀者諸土打込ニ郷土之儀御覽ニ者罷出候儀不調候、
 者不相調事御座候哉、

一與力之儀、是又同断、
「與力之儀御覽ニも罷出候」

一郷土之儀者、御地頭より於其郷御見分有之事御座候哉、
「郷土之儀御地頭其郷見分有之事」

一足輕之儀、御物頭より御見分有之事候哉、
「物頭見分有之事ニ候」

一隠居家督被仰付候節、御家督前者格別候得共、御隠居之御方者御病氣共ニ而御座候ハ、御名代ニ

而茂御承知相調事候哉、

一依願御役被成御免候節、老躰之御方長病ニ而御全快之期不相知、被成御出候而御承知調兼候節者、

御名代ニ而相濟候哉、

一被免之節當人病氣ニ而候ハ、被免迄親類へ申渡、快氣之上届逼塞等被仰付候仁御免之節、老躰平臥ニ而全快無申出候様申渡置、快氣之届申出候ハ、又、召出見分、長病之覚束様成節者、月代御見分何様之向御座候哉、
 人ニ候ハ、見聞役差遣、見分為致事ニ候、左候而翌日親類より御礼之事
 一 大目附様以上御役替之節、御用觸何様成御仕向候

御家老・若年寄者御家老御連名之御用觸、大目附ハ御家老よ
哉、

一御差圖ニ而、御用人より之御用觸ニ而候

一依科目御役被差免候節之御仕向、是又何様候哉、

依御科目御役御免之節ハ、後於向、宅御役御免迄之節、於御殿
御用人申渡ニ而候

一御役、差扣被成御伺居候節、御勤方者不苦由、御
差扣相候節勤方何様可仕哉、當人より伺申出、御上より、勤
月番御勤被成候ハ、御名前出候儀茂有之筈御座
方遠慮ニ不及与御申渡候ハ、御名前書出候儀不苦候、然とも
候、無御構候哉、無役之御衆御番も不苦候哉、依
遊山ケ間敷儀者不相成由、
軽重違候哉、

一寺入之儀其寺門より外ニ被成御出儀者、決而不相
寺入内住持召別、其郷内致徘徊候儀不苦与承居候、乍然徒成
成事御座候哉、警者市来ニ而候ハ、市来中、串木
場所ハ差越候儀者、遠慮可有之儀當然ニ候、
野ニ而候ハ、串木野中与申様、其一郷中者徘徊相
調事候哉、

一遠嶋被仰付候節、其身計ニ而家内御構無之節、家
家當之人遠嶋被仰付候ハ、家内都而儀ニ而候、部屋住ニ而候ハ、
内何様心得之儀ニ候哉、
妻女迄ニ而候、

一差扣・逼塞・寺入等之節、是又家内何様ニ而候
右同断

一御士衆凡下之者被成御打果候節、何分被仰渡迄儀
凡下之者打果候節者披露逐候上、依子細者何分申渡迄儀罷在
居候様被仰渡事候哉、左候而何そ無御構段被仰渡
候様被仰渡事も有之候、夫逆も月代立候ニ及間敷、何も申渡無
候節、月代見分例之通ニ而御座候哉、

之候ハ、慎沙汰二者及間敷候

一御禁断之節鉄炮稽古之儀、ふしん被差留間之由承
ふしん被差留候日數内者、鉄炮稽古被差留候、尤諸稽古方も
及居申候、弥其通ニ而御座候哉、御正統様者勿
同断ニ候

一鳴物停止与御申渡候節、音曲遊山等敷儀不相成候、
鳴物令停止与計被仰渡候御禁断も間々有之様存申
候、音曲御停止之事御座候哉、

一當年杯之様成凶歳之節、窮家之御士衆飢米御願之
引續願申出候ハ、被下候月より七ヶ月被成下事ニ候、
仕向并被下候員数何様ニ而御座候哉、

一出火之儀一軒焼失ニ而披露申出事ニ候、類火有之事候得者當
人より差扣申出、御科目被仰付事致与存候、
候哉、

一御士衆市中芝居見物之儀、表向者不相調状与相見
而差越候儀者、御當地、而も間々有之儀ニ承申候、随分身分相
得、御忍ニ而被成御越様子ニ候、不限市中右驛之
噴、不事立様可有之儀与存申候、
場所者在郷辻茂同断之筈存申候、弥其通ニ而候
哉、

一御切米御頂戴之御家者、何様之訳合有之御代、御
御切米之儀者、軍功又者依勤功被仰付事ニ候、
頂戴被成事候哉、

一町家より被召出候御小姓与之儀、市中ハ罷居候内者、高買入
立身之御士衆武士互被引移ニ而茂、外名前を以被
申儀者御免無之候、武士屋敷江引移候得者、高買入候儀御免被
致賣事候得者、高買入不相調様先日御咄為有之状
仰付事ニ候、

与存申候、弥其通ニ而候哉、

一御直元服之御方様、其御親父様よりも御太刀進上

【御直元服之親有之人者、親よりも御礼願申出被仰付事ニ候、

杯ニ而、御嫡子元服之御礼被仰上由、小番御小姓

與御衆、初而之、御目見之節茂、其御親父様より

御礼被仰上事御座候哉、

【杖御免之儀、六十歳以上ニ而歩行不自由与申出事ニ候、其以下

一御城内杖御免之御衆者、何様之訳ニ而御免有之儀

ニ而も病氣有之致快氣迄之間、御城内并御屋敷御寺方杖御免与

御座候哉、御城内御免之上者、何方逆茂御用捨無

申出事ニ候、御免之上者御上より向、江御當り有之候間、自然

之答与者相見得候得共、他人者不存儀候故、他江

他屋敷等ニ参り候節も不苦与存申候、

御見廻之節其門内者御心入有之事ニ而も御座候

之義ニ也、

○五日、官以ニ市田主税・菱刈八郎太一與ニ間家

政一、

○二五八 藩申渡覺

覺

市田主税（義近）

菱刈八郎太（龜也）

右者、種子島伊勢名跡諸事之儀、北條織部同様被

承候様可申渡候、以上、

十二月五日

○六日、以ニ野間仲左衛門・西村惣次一爲ニ兵具奉

行一、日高惣七郎馬役、

○十三日、上妻新七獻餅、如例、

○同日、家老羽生半兵衛能寧致仕、賞ニ數年勤仕一

歲賜ニ米一石八斗一、以養ニ其老一、

○同日、河野傳藏初謁見獻ニ火繩一、家老平山傳一

郎武世、

○十六日、賣ニ催馬樂下（直三百五十貫文）郎、有川長左衛門一、

○十八日、締方横目秋原喜藤太・寺師六兵衛巡ニ回

島中一、檢ニ察諸人榮勞一、東之手秋原氏、吾横目

種子島五郎衛門、郡役田上市郎・日高原七郎、筆

吏河野官兵衛、西之手寺師氏、吾横目岩河十右衛門時行、郡役上妻新七・鯨島孫右衛門、筆吏八板矢一兵衛、

○以種子島平左衛門時甫爲家老、

○官命重出銀至今年其期既終、然以官庫甚困窮從來年又三年見賦之、事開于左、

○二五九 島津久長外二名連署達書

一重出銀之儀當年迄苦合候ニ付、來年より者御用捨被仰付善候得共、近年格別之御吉凶有之、臨時之御入價致増長、御産物新右江被振向候故を以、御改革之詮今以屹与難行届、就中三都之御旧借御返金等之儀茂御取補不被帰置候而者、再重御難題御到來者顯然之儀ニ而、誠ニ不容易之儀候間、當時一統困窮之折柄、御氣之毒被 思召上候得共、又々御當地諸郷共ニ來午之年より引續三ヶ年重出米是迄之通可相心得候、

但諸郷重出米之内五合丈後居、來午之年迄上納

之筋申付置候条、右之分者是迄之通追送ニ而、來酉之年迄上納申付候、

右之通表方江致通達、奥掛御勝手方江茂可致通達

候、

(島津久風) 但馬

十二月

(諏訪武敏) 治部

(島津久長) 丹波

○國老傳ニ 縣官之令ニ、命下持ニ古判金銀貳朱銀真字貳歩判者出之、可易于新鑄金銀上、

○國老島津但馬久風命ニ學ニ譯者益無ニ怠習ニ練其道、事記于左、

○二六〇 島津久風申渡書

種子嶋伊勢名跡

種子嶋唐通事稽古二人

右者、先年唐通事御引取後、又々去年年定数右之

通被究置、御扶持米拾八俵ツ、為取置候處、人数及過上、其内三者式拾五俵重御扶持米為取置候者茂、當時格外御省略中之事候付而者、過上人数被差免、重御扶持米之儀御減少被仰付事候得共、別段之訳を以欠跡有之候節、定数立可被召加候ニ付、被得其意、猶又可致出精旨分而被申付、格別御用立候者ハ、別段御取訳茂可有之候条、已来通事断絶無之様可被取計候、右申渡、唐船改其外可承向江可申渡候、

十二月

(島津久風)
但馬

○官命、一分銀外賦銀三利一具、寺社修補之用、至今年一期既盡、然寺社有火災等、以一分銀不足修治之、故從來午歲一五越歲又賦三利銀、

○廿七日、三箇寺及廿人家・鍛冶賀歲暮進上、如例、

○歲暮、規式、如例、

(表紙)

| | | |
|------|-------|-----|
| 天保五年 | 種子島家譜 | 廿三代 |
| | 久名 | 跡道 |
| | | 五十 |

- 天保五年甲午正月元日、國上村獻「野老」
- 二日、國上村獻「瀬物」、現和村庄司浦獻「鯨」
- 同日、覽「馬」家老失姓名、馬役遠藤壯兵衛
- 同日、八箇寺進上、如「例」
- 三日、鮫島早太・羽生治助・鮫島弥七初謁「家老」、早太獻「征矢、弥七・治助火繩」、家老前田太兵衛宗周、侍席種子島平左衛門時甫、

- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如「例」
- 六日、初狩、組頭平山佐次右衛門武雄・上妻彌九郎宗徳・前田十九郎宗篤、山奉行美座玄助・河東仲太夫・西村權太夫・羽生平左衛門・知覽彌兵衛、夕狩場、家老種子島平左衛門時甫、物奉行森十郎右衛門友諒、用人西村七郎時民、西之表庄官進上、如「例」
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上、如「例」
- 十一日、甲冑之賀筵、如「例」
- 同日、蓮勝寺獻「神酒・粟盛」
- 同日、本源寺軍陣・温坐祈念、如「例」
- 同日、在郷諸寺進上、如「例」
- 同日、贈「佳札于両本山」、如「例」
- 同日、的初、家老種子島平左衛門時甫、用人前田十九郎宗篤、射手一番美坐六七西村七左衛門、二番上妻市助下村源藏、三番鮫島弥七八板十次郎
- 十二日、以「西村惣次」為「勝手方掛」、
- 十四日、嚮欲「送」此地榎於本府蠟澄所「製」蠟試中

善惡上、載三十俵于洲之崎之彌左衛門船送之、彌左衛門及水手每俵減之、以盜之賣之、事發覺、囚水手庄司浦之喜助・浦田浦之平吉于獄、彌左衛門以疾病暫需其蔭、

○十九日、日高仙太夫寺入七日、坐為覺府代官其簿不正也、

○廿六日、榮勞檢察、就榮三千六十八人、勞一萬千貳百九人、

○官命磔野間村百姓市次郎、事開于左、

○二六一 島津久風覚

覚

於種子嶋 種子嶋野間村春行門名字

一死躰磔

市次郎

右、去年七月廿六日伯父を打果、其身致自縊相果、子細不相知、乱心之筋相見得候ニ付、於種子嶋仕置申付度旨、種子嶋伊勢名跡親類より申出趣有之、他江も不相掛候付、右之通自分仕置被申付

候様可申渡候、

正月

(島津久風) 但馬

○二六二 島津久風覚

覚

種子嶋野間村春行門名字

六十郎

右死躰、無御構旨被申渡候様可申渡候、

午正月廿六日、御用人島津仁十郎御取次を以致承

知候事、

二月廿五日 同廿七日 同廿九日

右日取之内仕置被申付、親族家財片付方之儀者、

大目附江可被承合旨可申渡事、

正月

(島津久風) 但馬

○點檢丁夫・病夫・有職者等告于官、如例、

○二月四日、以前田十九郎為物奉行、

○十八日、締方横目遠武正右衛門・植村半之允來、

○十九日、隨古例、限三月晦日、物奉行令倉吏

總括諸人本出米、而欠高一石之出米者即收

高一石旧例釐欠一斗一升一合者、以當年之米價定一斗一升

一合之價、收買十五貫文之高分、

○同日、納官村春田新太郎・春田岩吉宅焼失、宗門

手札等無恙、

○廿七日、礫野間村百姓市次郎死骸、

○官命高山破見浦之紋太郎船三幾丸水手種子島

之宗次郎・仁平太・太吉・市次郎・弥次郎・善太

有罪、囚之于評定所、故點檢親族及家財、可也

呈之、令横目上妻小左衛門・上妻才次郎檢察

之、即呈之上、

○按三察一向宗告于官、如例、

○締方横目萩原喜藤太・寺師六兵衛歸、

○三月三日、使岩河十右衛門時行講法令書、

如例、

○同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、賀瀬引、西之表庄屋獻酒肴、如例、

○同日、三浦平太初目見、獻火繩、

○十日夜、洪水、現和村・住吉村傷田地、

○十八日、以火去天神丸垢、過燃着材、吹螺

鳴鐘頗騒動、諸人馳至得救之、

○納三狩所獲鹿皮于山奉行所、

○四月八日、異國方御用人北條織部時昭禁私商

唐貨、示糸荷船漂來之時處置之法、如例、

○同日、以山下要輔為代々組士、以數年勤

仕于奧醫師也、

○十二日、以羽生仙右衛門為用人、岩河九郎

助馬役、

○十四日、現和村庄司浦之弥七入牢二百日、後為

塩戸樵夫三年、旧冬十一月廿七日醉狂與母諍

論、以吸筒打母之面、傷、后十二月十八日母

患熱症死、世人傳稱、弥七擊殺、令横目鞠

問之、得病死之實、弥七性質輕薄無狀、與人

夾無行、故得此說、乃坐不孝及茲、

○十五日、以_二異國船來之候_一、國老諏訪治部武教

・島津但馬久風傳_二長崎奉行之令_一、如_レ例、

○十六日、異國方見_レ授_二阿蘭陀船圖及蘭人之圖、

南蠻船旗印及法律章_一、

○同日、遠藤源次郎以_二鐵炮_一自射_二咽喉_一死、即締

方横目植村半之允・遠武正右衛門、吾横目上妻才

次郎宗敏・西村七郎時民、檢_二察之_一、事聞_二于

官_一、

○十七日、以_二種子島五郎衛門時義_一為_二本源寺寺社

奉行_一、

○十九日、國老傳_二縣官之令_一、命_下持_二壹朱金_一者

速出_レ之、可_レ易_二于小判_一・二步判_一・一步判_一・貳

朱判等_一、

○廿三日、以_二大山野有_レ虫_一、使_下僧徒會_二于本源

寺_一誦_レ經禱_レ之、

○廿八日、以_二操姫君逝去_一、國老諏訪治部武教傳_二

松壽院殿親子之服_一、且祭_レ樂五日、事開_二于左_一、

○二六三 諏訪武教申渡書

(二六三の1)

松壽院殿

一操姫様御事御卒去_二三付、御妹之御續_二而忌廿日_一・

服九十日候處、日數相過候_二三付一日遠慮_一、

七

種子嶋伊勢

女子

右、母方御姪之御續_二而、忌十日・服三十日候

處、日數相過候付一日遠慮、

但七歲未滿之面_レ不及其儀候、

右之通可申渡候、

四月廿八日

(諏訪武教)
治部

(二六三の2)
別紙之通被仰渡候間此段申達候、以上、

喜入多門

四月廿八日

○二六四 藩家老座申渡書

種子嶋伊勢名跡

用頼

操姫様御病氣御養生不為叶、去八日被成御卒去段申来候、依之今日より日数五日鳴物令停止候、普請者不苦候、此旨組中江可被申渡候、

御家老坐

四月廿八日

大身分觸役所

○褒_二詞_一祈念僧扇壽院、以_二日_一夜勤經不_レ怠也、

○五月四日、現和村庄司浦之喜助・國上村浦田浦之

平吉出牢、各為_二其村_一横目僕、

○五日、與_二粽各_一束于_二三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○十六日、以_二羽生仙右衛門_一為_二勝手方掛_一用人如故、

○十九日、鞠_二問洲之崎浦之彌左衛門_一得_二盜_一櫛_二實_一、即下_レ牢、

○廿一日、大雨傷_二古田村・安城村田地_一、

○廿六日、公子左近君逝去、旗下士禁_二月代_一廿

日、殺生・遊興廿日、作事三日、國老島津但馬久

風告_二松壽院殿服_一、如_レ左、

○二六五 島津久風申渡書

松壽院殿

右、左近様御卒去_二付_一、忌廿日・服九十日、

右之通候間可申渡候、

五月

(島津久風)
但馬

○按_二察_一一向宗_二告_一于_二官_一、如_レ例、

○六月三日、洲之崎浦之弥左衛門納_二科錢一貫文_一、

浦田浦之平吉・庄司浦之喜助各_二三百文_一、坐_レ盜_レ櫛也、

○八日、以_二凶歲_一免_二盆前百姓掃_一除道路_一、

○同日、大崎塩戸次郎七宅火、宗門手札等無_レ恙、

○十三日、本出来下吏笹川曾右衛門・落合四郎兵衛

各寺入七日、記_レ不納_二本出来_一者之姓名于簿_上出_二

于政府_一、政府加_二證書_一屬_二之高所_一令_レ收_レ高、然

笹川・落合以_二過_一期有_レ納者_一不_レ得_レ命私削_二去_一其

笹川・落合以_二過_一期有_レ納者_一不_レ得_レ命私削_二去_一其

姓名一、故坐三不敬二及レ茲、

○官 令二八ヶ代藤七一納科錢三百文一、為二波江野源太郎船若吉丸船長一赴于德之島一、官令下居住人末吉岩崎村之權右衛門乘是船送之、而權右衛門奔逃、故坐レ之也、

○晦日、賀三夏越一、西之表庄官進上、如例、

○七月七日、飾三日深公鎧一、家老西村甚五太夫時員拜レ之、如レ例、

○同日、西村兵藏・八板十次郎初目見、兵藏獻征矢一、十次郎獻火繩一、

○八日、納官村濱津脇浦之孫右衛門納科錢二百文一、坐過三定價一買馬也、

○同日、家老西村甚五太夫時員祭先祖及宗祖・戰死靈于大會寺一、

○九日、洲之崎浦之仙吉納科錢二貫文一、以レ亡三船札一也、

○十二日、第二女子_{文患痘}、

○十三日、家老前田太兵衛宗周詣于慈遠寺祭先

祖及宗祖・戰死靈、十四日、家老種子島郷兵衛時

雍詣于本源寺祭宗祖一、十六日、家老前田太兵衛宗周於本源寺方丈祭祖先及戰死靈一、

○十三日、令下三箇寺僧徒會于本源寺一、祈_中二女子疱瘡輕安上、

○十七日、促飛船令醫師柳田喜碩・山下要輔赴于本府邸一、以女子疱瘡也、

○十九日、與米貳斗于飛船船頭仁三郎及水手五人一、令告急于本府四日而往來故也、

○廿三日、現和村庄司浦之弥七出牢、為西之村砂坂塩戸僕一、

○以下村太左衛門為馬役一、以製甲冑屬御兵具所一、又多年在覺府邸勤仕火消等之事一、故賞之也、

○國老諏訪治部武教傳命、為興國寺火消一事開于左一、

〇二六六 諏訪武教覺

覺

種子島伊勢

名跡

右、興國寺火消嶋津右門江被仰付置候得共、江戸詰ニ付被成御免、代被仰付候条、次渡等可被有之旨申渡、可承向江も可申渡候、以上、

七月

(諏訪武教)
治部

〇廿九日夜、本府家中長野嘉平次與ニ下町波江野利右衛門ニ諍論殺レ之、即自殺、事聞ニ于 官、官使檢ニ見之、見レ命ニ土中覺護、

〇點檢鬼利支丹宗ニ告ニ于 官、如レ例、

〇八月一日、與ニ中紙各ニ束于慈遠寺・大會寺、

二箇寺亦獻ニ同品、

〇四日、第一女子與患レ痘、

〇八日、第三女子字政患レ痘、

〇十一日、與ニ米ニ斗于島間浦之清六一、運ニ漕米于

本府ニ敢不レ損レ儀故也、

〇同日、馬追、家老前田太兵衛宗周、物奉行森十郎

右衛門友諒、用人上妻才次郎宗敏、馬役羽生新四

郎・知覽才之允・日高周左衛門・日高惣七郎、

〇十五日、蓮勝寺獻ニ神酒・麥盛、

〇十八日、謀下有ニ錢貨者納之于府庫、宜贖中返

假所賣ニ于原田氏之高上、事聞ニ于左、

〇二六七 鹿兒島役所覺

覺

先年原田氏江被渡置候八百石高、種子嶋之者上下

無搦受返候儀、御吟味之趣有之、代錢尅斛所ニ付

拾五貫五百文替ニ漸被聞濟、右高式石所受返差上

候人江者、種子嶋御高之内尅石所被成下、可然吟

味之趣御掛合申達候處、現地面御渡方ニ相成候而

者、百姓仕ふりニ付難被黙止訊合有之、於其御元

御吟味之趣式斛所差上候人江者、其御元ニ而高尅

石之所務六斗題ニシテ出来引、御渡方之筋可然与

之御吟味御尤千萬ニ御坐候、右高之儀も速ニ御受

返不相成付、池田十次郎殿相頼、皆同受返ニ相成

候、式石三石宛ニ而も代錢入付候節、高御渡被成

度申込置候、去々年以来打續之凶作ニ而、高受返

之儀も面々不及力筈、當年共より者年柄も直り立

候付、受返度心入之人も可有之、先右之趣一統御

觸流を以被仰渡置ニ而も有御坐間敷哉、右高種子

鳴中より受返申ニ付而者過分之御為筋ニ相成、御

案内之通弥受返差上候節者、借目録外ニ慥成御證

書被仰付筋無之候而者、諸人之心入茂染付申間

敷、一日も早々右之御高御手ニ入候儀、折々御吟

味も有之事御坐候ニ付、又々御掛合申達候、以

上、

但

此元受返度願代錢入付候者立者、高受返し為致

御吟味之通、御鳴元ニ而御渡方ニ相成筋取計申

候而可然哉、何分御掛合有之度存申候、

八月十八日

鹿見島 御役所

種子嶋 御役所

○廿五日、締方横目堀八左衛門・吉田孫右衛門来、

○前太守公 被_レ賞_下知覽才兵衛行寛十七年来在本

府勤勞上、且見_レ命_下猶在_二覺府_一盡_レ力宜_レ助_二家
政_一、事開_二于左_一、

○二六八 北条時昭達書

知覽才兵衛 (行寛)

右者、十七ヶ年定府相勤致精勤、當時專御用立候

旨 白金御隠居様御内々被聞召通、御褒美被

思召上、當時者御名跡之儀候間、一涯致精勤、往

々相勤候様可申付置旨、御内沙汰被為在候段致承

知、誠以恐入次第難有可奉承知、多年定府相勤、

最早追々老年ニも趣候得共、右式故、當分之通被

召置候ニ付、猶又致精勤候様被仰付候、

八月

(北条時昭)
織部

○二六九 北条時昭申渡書

知覽才兵衛(行寛)

右者、多年定府相勤正道致精勤、當時專御用立候
ニ付、乍例外御役人上席御扶持重被仰付候段者、
先達而申渡候通候、然處才兵衛勤功之次第、細々
白金御隠居様御内々被聞召上、別而御褒美被思召
上、當時者御名跡中之儀ニも候間、猶又致精勤、
往々相勤候様可申付置旨、御内沙汰被為在候段、
御内々致承知、誠ニ以不輕次第奉恐入候、依而
當分之通被召置候ニ付、致精勤候様被仰付候間、
各被得其意、於鳴元夫々可承向江不洩様可申渡
候、

但

此節定府御暇之儀願申出、旁無據趣相見得候得
共、本文之成行故不取揚、願書相下候間、此段
も申達候、

八月

(北条時昭)
織部

種子嶋御役人中

其外御役々中

○同日、御用人北郷勘解由傳ニ大島代官之言、告
種子島流人櫻井善太右衛門四月廿四日病ニ死于彼
地、

○國老島津但馬久風禁狼商ニ唐貨、事開于左、

○二七〇 島津久風達書

一唐物御賣捌之儀、来未之年迄御年限合候ニ付、
此節永續御商法之方ニ御願立有之候處、永續商法
者難相調候段、段々申立之儀も有之候ニ付、格別
之訳を以來々申之年より卯之年迄、式拾ヶ年之間
賣捌候様可致候、尤元極斤数不相増様相心得、拔
荷取締之儀弥嚴重ニ重々申付、年限中ニ而も差支
之筋到来之節者、唐物賣捌之儀御差留可被成旨被
仰渡由ニ付、猶又拔荷等一切無之様一涯嚴重取締
可致候、自然違背之者も候ハ、可被行敵科候条、

其旨を存、未々之者共聊取違無之様、向々江不洩様可致通達候、

八月

(島津久風)
但馬

○九月六日、令山奉行美坐矢太郎代三家老・物奉行・用人_二赴_三本府_一、賀_中女子疱瘡輕安_上、

○九日、使_三羽生仙右衛門講_二法令章_一、如_レ例、

○十九日、平山村横目羽生九十郎_{宿中}・同郷土柁原孫

右衛門寺入各七日、近歲驕奢之風移_レ下、諸村

造_レ家過_三其分_一、故命_二造_レ家者請_レ命而后宜_中造_レ

之上、今九十郎・孫右衛門共為_三村吏_二而不_レ受_レ命

營作、故坐_レ之也、連及叱_二横目上妻治左衛門_一・

庄屋日高休右衛門_一、

○廿三日、以_三中西之表之彦七_一為_三一世足輕_二與_三岩

原氏_一、初製_三砂糖_二之年為_三爨夫_二不_レ受_レ賃米錢_一、

翌年受_レ米不_レ受_レ錢、從_三其翌年_一為_三爨夫長_二勤

仕、故免_レ税墾_三山野_一、后自製_レ糖賣_三之于府庫_一、

故賞_レ之也、

○同日、以_三西之表一世足輕中原諸次郎_一為_三代々足輕_一、從_三初製_レ糖年_一極_二力蕃_一殖甘蔗_一、且為_三爨夫長_二數年勤仕_一、故及_レ茲、

○同日、以_三莖永村足輕岩坪次左衛門_一為_三一世郷士_一、從_三初製_レ糖年_一不_レ受_レ賃米錢_一為_三爨夫_二數年勤仕_一、故賞_レ之也、

○平山村百姓勘太郎免_下墾_三山野_一所為_レ圃賦稅上、從_三初製_レ糖年_一不_レ受_レ賃米錢_一多年役_三爨夫_一、故賞_レ之也、

○以_三西村蔵多_一為_三高奉行_一、猶聽_三山奉行之事_一、賞_下雖_三若輩_一勤職不_レ怠守_中正道_上也、

○褒_二詞柳田喜碩_一、從_三祖父三世業醫普救_一諸人病苦_一、以_三今歲_一三女子患_レ痘、役_三于本府邸_一保護不_レ怠、令_三三女子快平愈_一、故賞_レ之也、

○與_三永代扶持高三石于山下寬齋_一、以_三女子疱瘡_一指_三醫師二人_一命_三出府_一、柳田喜碩即奉_レ命、一人辭_レ之、令_三寬齋代_一以_三時造_レ家辭_レ之、后聞_レ無_レ奉_レ命者_一、止_三營作_一自請役_三于覺府_一、與_三喜碩_一

共保護令_二痘全瘳_一、故及_レ茲、

○十月一日、以_二凶歲_一免_二大山野賦稅_一、

○六日、以_二岩河十右衛門時行_一為_二異國方掛_一、

○九日、國老市田美作義宜・島津但馬久風・菱刈安

房隆觀・諏訪治部武教傳_レ命、免_下從_二來未年_一

匁出銀上、事開_二于左_一、

○二七一 諏訪武教外三名連署覽

覺

近年御世帶向御難渋、公邊御勤向も不被為整程

之御時節故、一統困窮之折_二候得共_一、無御據去亥

之年諸人老兩出銀被仰付置、未全御所帶御立直之

期_二者不被為及候_一付、今程者是迄之通可被仰付

事候得共、餘り御不便_二被_一思召上、且者 中將

様より被仰出趣も有之候_二付_一、別段之 思召を以

當年迄者是迄之通、来年より出銀御免被成候故今

朝 被仰出、誠_二以厚御趣意之程奉恐入儀_一候

条、一統難有可奉承知候、右_二付御一門方并諸大

身分、其外月次御礼罷出候面々、今日御礼後居席

謁_二而_一 御三殿様江御礼可被申上候、左候而諸士

・諸與與力・諸郷者、夫・支配頭江相付御礼可申

上候、此旨表方江致通達、奥掛御勝手方江も可相

達候、

(市田義宜)
美作

十月九日

(島津久風)
但馬

(菱刈隆觀)
安房

(諏訪武教)
治部

○同日、家老種子島郷兵衛時雍詣_二于本源寺_一、盛平

供_二宗祖日蓮_一菓子上、

○十一日・十三日、家老前田太兵衛宗周詣_二于本源

寺_一、祭宗祖日蓮、

○廿四日、締方横目遠武正右衛門・植村半之允歸、

○廿九日、割_二中之村_一為_二三村_一、以_二遠藤仁左衛

門_一初為_二上中之村庄屋_一、

○官流ニ波見浦之紋太郎船ニ幾丸水手種子島之善

吉・太吉于徳之島、市次郎・彌次郎于大島、宗次

郎于沖之永良部島、以レ盜ニ官所ノ載之昆布一

也、仁平太者於ニ牢中ニ死、

○國老市田美作義宜・島津但馬久風・菱刈安房隆觀

傳レ命、禁ニ竊商ニ唐貨、事開ニ于左、

○二七二 諏訪武教外三名連署達書

唐物拔荷取企候者者可被行嚴科旨、従前々段々申

渡置候通候處、輕き依品物而者不苦儀与心得違、

拔荷取企候者も有之候而者不可然事ニ候、此段従

公邊も分而被仰渡趣有之候ニ付、向後猶又屹与可

相守候、萬一違背之儀共於有之者、御法令之通可

及取扱候条、其旨を存末々之者共聊取違無之様、

支配頭主人より得与申付、諸郷・私領之儀者其所

役々より可申聞候、

右之通向々江不洩様可致通達候、

(市田義宜
美作)

十月

(島津久風
但馬)

(菱刈隆觀
安房)

(諏訪武教
治部)

○國老市田美作義宜・島津但馬久風・菱刈安房隆觀

・諏訪治部武教傳ニ縣官之命、示ニ異國船到来之日處置之法、

○二七三 幕府異國船打払令写

覺 仰渡之写

一吳國船渡來之節取計旨、前々より数度被仰渡趣有

之、おろしや船之儀ニ付而者、文化之度改而相觸

候次第も候處、いきりす之船先年於長崎及狼藉、

近年者所々江小船ニ而乗寄、薪水食祈を乞、去年

ニ至候而者、狼致上陸、或者廻船米売嶋方之野牛

馬奪取候段、追々横行之振舞、其上邪宗門勸入候

致方も相聞得、難捨置事ニ候、一躰いきりすニ不

限、南蠻西洋之儀者御制禁邪教之國ニ候間、浦方
 ニおいても吳國船乗寄候与見受候ハ、其所江有
 合候人夫を以、不及有無一圖ニ打拂、逃延候ハ、
 追船等不及差出、其分ニ差置、若押而致上陸候
 ハ、擲取、又者打留候而も不苦候、本船近く付居
 候ハ、打潰候共、是又時宜次第可取計旨、浦方未
 之者迄申合、追而其段相届候様改而被 仰出候
 間、得其意、浦々備手立之儀、土地相應実用專一
 ニ心掛、手重過不申様、又怠慢も無之永續可致便
 宜を考、銘々存分可被申付候、尤唐・朝鮮・琉球
 杯者人物も可相分候得共、阿蘭陀船者見分も相成
 兼可申、右等之船萬一見損打誤候共、御察度者有
 之間敷候間、無二念打拂候 心掛、圖を不失様取
 計候處專要之事候条、無油断様可被申付候、

(文政八年
 二月)

○二七四 諏訪武教外三名連署申渡書

吳國船國、江渡来、或者於海上出會之節、向々よ

り之届書多分荒増之儀而已申間、内実之事情者難
 相分儀も有之候間、以来未々迄も不相包有躰可申
 出旨兼而申合置、兎角事実無相違様申間候儀可為
 專要候、今度吳國船打拂之儀被仰出候も、事を好
 候筋三者無之候得共、近来之様子難被捨置次第ニ
 付被仰出事候間、精々入念可被申付候、
 吳國船漂来之節取計向之儀、寛政五年從 公儀被
 仰渡趣有之、追々申渡置候處、別紙式通之通文政
 八酉之年改而被 仰渡候付、其段者申渡置通ニ
 候、依之以来漂来も候ハ、役々者勿論未々迄
 も、猶又前文被仰渡候御趣意、心得違無之堅固相
 守、急事御用無滞可相勤候、若大形之聞得も候
 ハ、屹与可及沙汰候、此旨浦抱候諸所地頭・領主
 ・大番頭江申渡、可承向も可申渡候、

(市田義宣
 美作)

十月

(島津久風
 但馬
 兼別後重
 安房)

- 褒詞祈念僧宜承院、奉祖先一日夜勤行不怠、且誦經千部、祈女子瘡瘡輕安、故及茲、
- 十一月十四日、以島間村足輕柳田甚之進為一世郷士、二為島間村庄屋、一村之教令能整、近年司甘蔗蕃殖、致力勤仕、今歲雖辭其職、村吏輩皆年弱而無可代之者、故舉之以命三四年益守其職、令村民蕃殖甘蔗、
- 五日、大山五左衛門婢為增田村塩戸婢、大山善太婢安城村川脇塩戸婢、柳田五平次婢安納村沖濱田塩戸婢、共坐盜甘蔗也、而叱五左衛門・善太・五平次、以平日教訓不厚也、
- 十三日、西之村村吏告立石塩戸長太郎男子患瘡似痘、使醫中田圓泰・柳田喜碩察視之、報曰、痘也、時村吏請曰、今年凶歲無養患痘者米、願以官之力止流行、令曰、何能為止之、勿只使未患痘者出之入其家、且患痘

者則能保護必勿忽之也、

○十六日、官見命貯真字貳朱判金者限來未九月出之、可也易于新鑄金銀上、

○十七日、異國方招家老名代渡邊勘右衛門直・横目前田十九郎宗篤、見命異國船到來之時處置之法、故又傳之于種子島、事開于左、

○二七五 渡辺直・前田宗篤連署請書

吳國船漂來之節取計向之儀三付、極御隱密三被仰渡趣、謹而奉承知候、

種子嶋伊勢名跡横目

前田十九郎

午
十一月十七日

役人

渡邊勘右衛門

○二七六 鹿兒島役所覚

覚

吳國方御坐より役人・横目御用被仰渡、病氣ニ而取馴候人罷出、可然御吟味ニ而役人代渡邊勘右衛門・横目代前田十九郎罷出候處、取計之趣文政八年酉五月御添書を以被仰渡置候趣意、役人・與頭・横目公邊仰渡之通致手當置、御添書之通龜忽之働無之様相心得、無難ニ可為致帰帆候、御添書之趣、右役々外曾而他言不致様堅被仰渡候、左候而右添書之儀も致返納候様被仰渡候間、御登可被下候、扱又御請書并役人・與頭・横目名前申出次第、惣而差下申候、此段御掛合申達候、以上、

十一月廿三日

鹿兒嶋

御役所

種子嶋

御役所

〇二七七 渡辺直・前田宗篤連署届書

吳國船漂来之節取計向之儀ニ付、文政八年從公

儀被仰渡趣有之、右御添書相しらへ申候得共、此元江帳留迄ニ而御座候間、早々嶋元江申遣可申候、尤帳留之儀者早速消除申候、此段御届申上候、以上、

横目

前田十九郎(宗應)

十一月十七日

役人

渡邊勘右衛門(重)

〇十九日、現和村庄司浦之彦右衛門宅火、焼宗門手札三枚、事聞于官、

〇按察一向宗告于官、如例、

〇十二月十日、割中之村置上中之村、以三百姓二十七人属于下中之村、以三十人属于上中之村、定境如左、

○二七八 知覽行寬外十四名連署覺

覺

中之村

東者、大どふ之峯よりほんでん之峯下り、からふの峯下り、川横之年府小田之尻一畦六歩、清五郎先之畔限、新仕明寺田彦畦式歩半、太平次先上隈、同前彦反八歩、部々畑田成、宇右衛門先之田中之土手之俣寺田之人家西之峯上り、大あらし坂道上り、平谷之山頭上り、北之角牧堀下り、塚石之俣むこ西之添川下り、平右衛門橋川下り、すがさこ流合迄、

右之通上下串目村合ニ而式ケ村ニ被召立置候間、後年違論有之間敷者也、

郡方

貳嶋孫右衛門

天保五年午十二月十日

日高源七郎

貳嶋甚之允

西村太平次

羽生新十郎

川内覺右衛門

知覽源太兵衛

羽生嘉右衛門

上妻新七

田上市郎

右之通無別条者也、

平山傳一郎

西村甚五大夫

種子嶋郷兵衛

前田太兵衛

知覽才兵衛

○十一日、家老上疎、請レ止レ養ニ製レ絹蠶ニ、比年

有下喰ニ甘藷之葉ニ虫上、傳稱蠶化為害、下民大憂

悶、故及レ茲、

○十三日、上妻新七獻レ餅、如レ例、

○廿六日、二枚帆一艘無燒印漂來于納官村長濱、舟

中有漢子死、可三十歲、載鎌一刃、締

方横目吉田孫右衛門、吾横目平山新兵衛・上妻才

次郎、船奉行西村九郎檢見之、事聞于官、

○國老諏訪治部武教傳令、以吉利主馬為當家

差引人、事開于左、

○二七九 諏訪武教申渡書

吉利主馬

右者、種子嶋伊勢名跡差引、嶋津佐渡江被仰付置

候得共、轉役二付代差引被仰付候条、諸事可致差

圖旨可申渡候、

(諏訪武教)
治部

○以渡邊勘右衛門直為家老格、猶聽物奉行之

事與俸祿十五石、以下委身奉上守職不

怠、數役于大坂勤勞于出米金納等也、事記

左、

○二八〇 市田義近達書

渡邊勘右衛門

一役人格

一物奉行勤

一役祈高拾五石

右者、當務致精勤、其上大坂表江も度、被差遣骨

折相勤候段、

松壽院様も被 聞召通、別段之御取訳を以右之

通被仰付候、

右御格之通申付、
(候脱之)

十二月

(市田義近)
主税

○廿七日、三箇寺及二十人家・鍛冶賀歳暮進

上、如例、

○歳暮、規式、如例、

天保六年 種子島家譜 廿三名 道跡 五十一

- 天保六年乙未正月元日、國上村獻_二野老_一、
- 二日、國上村獻_二瀨物_一、現和村庄司浦獻_レ鯨、
- 同日、覽_レ馬、家老_{失姓名}、馬役日高周左衛門實滿、
- 同日、八箇寺進上、如_レ例、
- 四日、上之郡庄屋・小觸進上、如_レ例、
- 六日、初狩、組頭西村甚五右衛門・前田新五兵衛
・種子島次郎左衛門、山奉行美坐矢太郎・西村權

大夫・知覽_レ弥兵衛・河東仲大夫・宮浦藤九郎、夕狩場、家老西村甚五太夫時員、物奉行美坐七郎右衛門時資、用人上妻才次郎宗敏、西之表庄官獻上、如_レ例、

○七日、中之郡・下之郡庄官獻上、如_レ例、

○十日、以_二阿世知圓右衛門_一為_二勸農方_一、以_二日高杉右衛門_一為_二上臈_一、下之郡坂井村・中之村・西之村等有_下怠_二農耕_一之說_上、教_二導_一之_レ為_二高奉行_一之職、然以_二多事_一不_レ能_二淹留_一勸_レ之、令_下圓右衛門巡_二回諸村_一、教_二導_一之_上、杉右衛門以_二船奉行_一常在_二于島間村_一、故司_二其事_一、

○同日、納_二三狩所獲鹿皮一枚于官_一、

○十一日、甲冑之賀筵、如_レ例、

○同日、古田村蓮勝寺獻_二神酒・棗盛_一、

○同日、在鄉諸寺獻上、如_レ例、

○同日、本源寺軍陳・温坐祈念、如_レ例、

○同日、的始、家老前田太兵衛宗周・用人種子島友右衛門時大、射手一番_{美坐五兵衛}、二番_{駿島仙造}、
右衛門時大、射手一番_{川内六七}、二番_{大牟禮良七}、

三番日高勤太郎、八板多平太

○同日、贈佳札于兩本山、如例、

○十二日、官免二匁出銀及三利出銀、

○十三日、令野間村土鎌田周左衛門為坂井村庄

屋、歲與米一石、以坂井村風俗不正怠農

欠稅、故令周左衛門為村吏正其風、

○十八日、令納高役銀、自八月至翌年七月

為二期、過期不納者月加三割之息、

○廿日、以大信院殿三回忌、見赦以呂波丸

船頭甚五左衛門水手長五郎・新九郎・為四郎・周

藏・喜太郎・正太郎・甚藏・儀兵衛・宗五郎・勘

左衛門、

○按察一島丁夫・病夫・有職者等告于官、

如例、

○二月五日、納官村牧川之鄉八宅火、馬一疋燒死、

宗門手札無恙、事聞于官、

○七日、以下西之表百姓良七、為一世足輕道具

番、與江崎氏以能拳法也、

○十一日、以西村九郎・下村惣太郎為組頭

船奉行、如故

○十三日、下村貞之助寺入于本蓮寺二七日、坐

夜中無故徘徊于砂糖方横目旅館庭中也、

○十四日、締方横目平瀬八郎右衛門・江田清右衛門

來、

○廿日、種子島直太郎兄弟對當家無禮、故禁

出入、驚頭等水憂之、就市田美作義宜頻謝

其罪、義宜達之于松壽院殿、於是見許下到

納殿候安否、義宜招菱刈八郎太命曰、家老

・物奉行有事則可到彼宅、其餘切禁之、

○廿一日、記上中之村田地石數達于覺府、如

左、

○二八一 種子島役所覺

覺 上中之村

『松壽院様・主税様達御聞候』

高四百八拾三石式斗式升六合五勺

外四拾八石五斗四升三合三勺式撮

鳴間川内預地

合高頭五百三拾壹石七斗六升九合八勺式撮

右者、先達而問合申越候通、上中之村高頭清算之上、右之通御坐候段、郡奉行より此節申出候間、此段御問合申越候、以上、

二月廿一日

御役所

鹿兒嶋
御役所

○廿四日、家老種子島郷兵衛時雍・平山傳一郎武世

以疾致仕、然歲與二米一石八斗于時雍、以數年勤勞于家老職、也平山壯年得快意之日為復舊職不與米

○廿五日、以極樂寺為上中之村本寺、

○締方横目堀八左衛門・吉田孫右衛門掃

○按察一向宗告于官、如例、

○三月朔日、鮫島直次初目見、獻火繩、

○三日、令種子島五郎衛門讀法令書、如例、

○同日、與艾餅三箇寺、慈遠寺獻同品、

○七日、野間村之熊之助盜本源寺僧守善院衣裳、即囚牢、

○十九日、以子島龍助為納戸奉行、東市郎右衛門兵具奉行、

○廿九日、西村勇八郎元服、諸式如例、

○同日、官流樋口六郎左衛門船三神丸船長足輕字多津善太郎于沖永良部島、載大坂流人到于種子島之日、與水手壹岐之利兵衛共盜流人之錢貨、故罪之也、

○晦日、所賜于油久村庄屋大坂流人阿波之久兵衛病死、締方横目江田清右衛門・平瀬八郎左衛門、吾横目種子島友右衛門・羽生仙右衛門檢察之、事聞于官、然官命賣其資材附中所葬之寺、

○以渡邊勘右衛門直・日高源右衛門為武為家老、

○四月二日、國上村足輕中村市左衛門宅火、燒宗

- 門手札一枚、事聞_三于官、
- 八日、異國方御用人島津主計禁_三私商_二唐貨_一、示_三糸荷船漂來之時處置之法_一、如_レ例、
- 十五日、以_三異國船來之候_一、國老菱刈安房隆觀・島津但馬久風傳_三長崎奉行之令_一、如_レ例、
- 同日、家老・物奉行・用人・組頭觀_三射禮于本源寺弓場_一、羽生平之進太冑腑當束矢、日高惣四郎軍勢書入束矢、
- 廿一日、免_下鄉士與_三足輕_一互賣_中買_上祿地_一、以_三追_レ年鄉士高増足輕高減_二也、
- 廿五日、島津新八郎家來圖師小四郎以下尊_三崇_一一、向宗_上罪_上見_レ放來、即令_レ居_三油久村_一、
- 廿六日、家老・物奉行・用人・組頭觀_三武藝_一、鏡智流師範羽生紋九郎・種子島五郎衛門、天真流劍術日高源七郎・遠藤壯兵衛、示硯流吉良勝兵衛・大牟禮良七_{代官浦}半之允、性一流西村惣次、水野流羽生嘉右衛門・下村黒人・知覽才之允、真影流知覽龜太郎、無双流拳法足輕大瀬源兵衛、

- 與_三高一石于知覽小右衛門_一為_三一世濱崎邸番人_一、數年守_レ邸掃除等不_レ怠、特今年秋以_三前太守公歸國_一故、命_下益致_レ力可_レ守_三護邸_一、
- 五月五日、與_三粽各二束于三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、
- 十三日・十四日、修_三放光院殿七回忌于本源寺_一、初日八講真讀、結日頓寫說道、渡邊勘右衛門直代_三于松壽院殿_一、平山新兵衛代_三久美・婦美・真佐_一行_レ香、法事奉行羽生仙右衛門・種子島五郎衛門、靈膳奉行美坐十左衛門・肥後惣左衛門、出家三十五人、
- 十四日、大風、本源寺境内墓所松倒、古田村・國上村・安城村多損_レ禾、國上村湊塩戸善次郎者刈_レ秣歸路松倒所_レ壓死、締方横目平瀬八郎右衛門・江田清右衛門、吾横目種子島友右衛門・種子島五郎衛門檢_レ見_レ之、事聞_三于官_一、
- 廿六日、官令_三野町人六次郎納_二科錢二百五十文_一、為_三寶神丸船頭_一自_三德之島_一帰之日、令_三秋

目之直次郎乘_レ之、時直次郎無_レ信牌_一、故坐_レ之也、

○廿八日、赦_二篠川弥五右衛門_一、以_二放光院殿七回忌_一也、

○以_二上妻小左衛門・平山新兵衛_一為_二物奉行_一、令_二岩川十右衛門出_二席于物奉行所_一、岩川嘗為物奉行見習

○按_二察一向宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○六月四日、與_二米三石于森十郎右衛門_一、嘗役_二于大坂之時_一、借_二于府庫_一以備_二費用_一、憐_二其貧_一及_レ茲、

○七日、赦_二上妻角太母_一、

○同日、於_二覺邸_一觀_二諸士武藝_一、由_二島津啓之助君忠剛_一、今和泉曾子・市田主稅義近之請_二也_一、人數三十五

人、公子頻見_レ賞_二諸士嗜_レ武_一、又請_二教授市來先生_一、字源右衛門講_二小學_一、令_二諸士聽_レ之_一、忠剛及義近亦臨_レ席、

○九日、以_二放光院殿七回忌_一、赦_二池田浦之利三次旅行之禁_一、

○十六日、與_二米二斗于飛船々頭新左衛門及水手_一、有_レ事告_二急于本府_一速往來、故及_レ茲、

○廿三日、島間浦之庄作科仕三七日、坐_二屋久島船來之日_一與_二彼輩_一賣_レ買_レ也、

○同日、西之村_士鮫島五右衛門以_レ有_二不_レ好風說_一、寺_二入于本法寺_一三年、

○廿六日、以_二西村甚五右衛門・種子島次郎左衛門_一・前田新五兵衛_一為_二用人_一、

○同日、與_二染布一端于吉良休四郎_一、以下為_二內橫目_一數年勤勞_上也、

○同日、令_二上中之村犯_レ法為_二俳優_一者、自_二今日_一繕_中道路_上、

○廿九日、歲與_二米二石于西村甚四郎_一、雖_二以_二困窮_一辭_レ職不_レ許、與_レ之以救_二其貧_一、

○廿八日、油久村阿高礮塩戶休四郎女縊死、締方横目平瀨八郎右衛門・江田清右衛門、吾横目西村甚五右衛門・西村七郎檢察、事聞_二于官_一、

○與_二高三斗于野間村_士鎌田藤市_一、以下為_二松壽院

殿僕數年勤仕、今請暇歸也、

○晦日、賀夏越、西之表庄屋獻燒酒・西瓜、

○七月二日、以上西之表百甚藏、為二世足輕與

福永氏、以自製糖價三十納之于府庫也、

○四日、以旱魃令三箇寺僧徒禱雨、至廿一日得雨、

○六日、公義流人卯吉以下入于野間村瀧屋野之寺

竊盜上下獄、

○七日、飾日深公鑑、家老渡邊勘右衛門直拜之、

○八日、家老西村甚五太夫時員詣于大會寺、祭

祖先及戰死之靈、

○十三日、家老渡邊勘右衛門直詣于慈遠寺、祭

祖先及戰死之靈、

○同日、因尊信一向宗之咎所放來宮之城百姓

猪之助、於配所平山村病死、葬于善福寺境

内、即聞于官、

○十四日、家老渡邊勘右衛門直詣于本源寺祭宗

祖、

○十六日、家老西村甚五太夫時員詣于本源寺方丈、祭祖先及戰死之靈、

○十九日、以吉良休四郎為船手檢者、以東市

太夫為普請方檢者、與扶持米一石八斗、

命為下吏者忽錢穀出納、各宜勵精而監之、

○廿七日、本府之官吏岩本市十郎藏方・春山休兵衛

廻方、屬吏篠崎万次郎西田・谷村八十右衛門下町

以大泊飛船來、即命家老云、為點見所植

之甘蔗及諸舟出入而來、今當駐在港之舟、

故達之於橫目・船奉行、且豫令諸奉行數人

點見一統甘蔗地、

○同日、以家老西村甚五太夫時員・渡邊勘右衛門

直為勝手方掛、命云、今倉廩困窮、雖マヤ微細

事與物奉行相議宜計所興起、又命物奉

行云、倉廩困乏家用不給、故今令家老屬勝

手方、事無大小共能商議、宜計興起之基、

○按察耶蘇宗告于官、如例、

○閏七月三日、與_二米五斗於安納村庶民_一、賞_二村吏_一云、以_二平生教令能至_一一村風俗質素直諒、故憐_二想府庫困窮_一能納_二滯米_一、又能植_二甘蔗_一、是以及_レ茲、向來益宜_レ教_二諭村民_一、

○四日、與_二米五斗於國上村庶民_一、賞_二村吏_一云、嘗_二一村風俗懶惰人氣無賴多_一怠_二年貢_一者、自今年人氣向_二純固_一、納_二滯納米三十石餘_一、又能植_二甘蔗_一、故賞_二其志_一而及_レ茲、向來益宜_レ教_二戒之_一、

○同日、與_二金子百疋國上村鄉土榎本元右衛門_一、是累歲為_二村吏_一今辭_レ吏、然平生以勵_二精吏務_一不_レ免、向來益勸_二勉勵_一而及_レ茲、

○五日、從_レ昏至_レ曉大風、

○六日、曩所_レ來之官吏岩本市十郎・春山休兵衛屬吏二人、欲_レ巡_二見一統甘蔗地_一發_二府下_一、吾橫目前田新五兵衛陪從、

○十四日、野間村之熊之助於_二牢中_一死、

○十六日、以_二凶歲_一止_二馬追式_一、唯執_レ及_二二歲_一

駒上、

○廿日・廿一日、大風、

○八板盛右衛門船寶榮丸^{十四載}官米_二赴_二于德之島_一、五月十七日發_二川内_一洋中遇_二逆風_一、七月廿日來_二此地_一、今月廿日大風、諸有司及締方橫目且藏方目附岩本氏・春山氏等相議、集_二水手數百人_一保_二護_一之、綱索盡斷、廿一日觸_レ磯船底破米盡沒、春山等促_二水手數百人_一揚_レ之、減_レ價賣_二之、事聞_二于官_一、

○本府市人桑原金左衛門船圓山丸船長當地之山縣藤兵衛、到_二于大坂_一歸路來_二于此地_一、廿一日大風、逼_レ磯殆損壞、春山・岩本等令_二役夫_一假納_二于米倉_一、事聞_二于官_一、

○廿七日、莖永村田地百七十九賦^{以五石為一賦}、不_レ入_二賦田八百十區、上里村八賦、不_レ入_二賦田五十一區、下西之表四十六區、上中之村四十五賦、不_レ入_二賦田四百九十八區、下中之村百十四賦、不_レ入_二賦田二百七十一區、平山村百二十六賦、不_レ

入_レ賦田五百七十五區、住吉村二賦、納官村二賦、増田村三十七賦、有大風旱魃潮水等殃、減_二賦稅_一有_レ差、

○八月朔日、與_二中紙各二束于慈遠寺・大會寺_一、
二箇寺亦獻_二同品_一、

○四日、以_二河内源四郎_一為_二文書方掛_一、

○八日、以_二前田新五兵衛_一為_二慈遠寺社奉行_一、
美坐十左衛門・西村熊之助船奉行、

○十五日、蓮勝寺獻_二神酒・黍盛_一、

○廿二日、以_二阿世知仲五郎_一為_二船手檢者_一、

○官令_二八板盛右衛門納_二科錢五貫文_一、奉_二運漕官米于德之島_一命_上、_二饑_レ船不_レ速、終為_二大風一破船、大費_二官米_一、故及_レ茲、

○以_二野間村足輕上妻賢左衛門_一為_二代々郷士_一、賞_レ納_二錢五十貫文_一也、

○九月二日、以_二河内十助・日高周左衛門_一為_二稽古講談役_一、

○九日、令_二前田新五兵衛講_二法令書_一、如_レ例、

○同日、官命禁_レ商_二赤髯_一也、高限萬年青・金山萬

年青・蘇鐵・松葉蘭于他邦、且納_二河雜魚_一、

○十一日、納官村足輕日高善右衛門、野間村郷士鎌田喜七・平山弥平太・日高和七、有_レ罪罷_二牧見舞役_一、

○十七日、議_レ定於文書方掛・異國方掛・僉議方掛・寺社奉行者不_レ為_二加役論_一人品可_レ命_レ之、

○廿日、以_二凶歲_一免_二大山野賦稅_一・諸村未進米、

○廿七日、與_二高二石于惣大工柳田今右衛門_一、從_二六月_一出府役_二邸之作事_一、以_レ有_二前太守公貴臨

之命_一、市田義宜父子司_二管作_一盡_レ精微、今右衛門應_レ命令_二小工_一無_二過差_一盡_レ力勤_二工事_一、市

田父子大感賞_レ焉、日悟公擢_二之於小工中_一為_二棟梁_一、且厚扶_二持之_一、其先見亦足_二驚歎_一、故割_二

扶持高之中_二二石_一以為_二永代_一、又與_二金子百足于小工井元新吉・池龜平治・武田權助・濱田吉次郎

・平瀬次郎七・阿世知新五郎・武田清太郎・熊野谷市藏・柳田善次郎・柳田平五郎・日高勳兵衛・

日高四郎・馬場善之進・名越仲兵衛、以充二一夕之酒價一賞各致レ力勞レ役、

○同日、以二少將公之命一獻二驢一疋也_{牛馬}

○廿九日、締方横目三崎鹿之助・松元次兵衛來、

○入来院平治家來松元實右衛門、以下尊二崇一向宗一罪_見放來、

○國老島津但馬久風傳_{レ命禁レ用二朱墨一、}

○官令三金山丸水手世吉・善六・多三太・伊兵衛・

弥兵衛納二科錢各一貫文一、坐_下於三琉球一私商_中綿茶煙草等_上、

○十月五日、官命_下遣二唐物方横目一人一、_且

檢_中察有_乙竊賣_三買唐貨及砂糖・鬱金_一者_甲否_上、事開_二于左_一、

○二八二 藩申渡書

此節御吟味之訊有之、唐物并砂糖・鬱金拔荷為取締、唐物方掛見分役者一人往種子嶋江被差越候条、右之趣種子嶋伊勢家跡用頼江申渡候様、但馬

殿御差圖を以被仰渡候間、此旨申渡候、

十月五日

○同日、公儀流人富吉於二處々一竊盜、故囚獄、

○十日、唐物方横目黒木源右衛門來、

○十三日、奉_二官命_一令_三高奉行・山奉行巡_二回島中_一断_二鬱金之苗_一、

○同日、以_三鮫島九郎次_一為_二物奉行_一如_持故_而免_二寢府

之役_一、羽生仙右衛門加_二本源寺社奉行_一、

○十四日、與_二木綿布一端安城村宿_中長野儀兵衛_一、

以_レ納_二所_レ畜牛馬_一也、

○十五日、藏方目附岩本市十郎焔、

○廿日、以_三羽生紋九郎_一・上妻源吉_一為_二納戶奉行_一、

河東仲太夫普請奉行、

○廿二日、叱_二樋口長五郎_一・猶原五平_一、以_レ商_二粉

朱_一也、

○同日、叱_二納官村_{濱津脇浦漁人}嘉太郎_一、坐_レ商_二海人草_一也、

○廿五日、島間村足輕岩坪甚兵衛宅火、燒_二宗門手札十枚_一、事聞_二于官_一、

○廿七日、締方横目平瀬八郎右衛門・江田清右衛門焔、

○於_二覺府邸_一現和村人足喜平次盜_二住吉村郷土田上仲之進・中宿能野七郎次衣服、國上村人足市太郎錢六貫文餘_一、即加_レ枯婦_二之種子島_一、

○官令_二金山丸船頭猶原彦太郎納_二科錢二貫文_一、坐_下赴_二琉球_一之水主等載_レ無_二信牌_一貨物_上也、

○官令_二池村惣太郎納_二科錢二貫文_一、禁_レ之_二琉球及道之島_一、坐_下為_二寶盛丸水手_一赴_二琉球_一買_レ鬱金_上也、

○十一月三日、叱_二西之村横目濱田萬之進_一・日高藤右衛門・名越半助・羽生十左衛門、庄屋日高平次、作見舞名越宗四郎・犀川甚作・濱田藤太郎・河東休次郎、嚮大風潮水大湧、塞_レ川追_レ日損_レ塘、彼輩黯然不_レ知_レ決_レ之、諸有司檢_二見中之村田地修築之場_一之日、聞_二此事_一、偶到_二彼地_一即

集_二一村之役夫_一、不_レ日得_レ決_レ之、村吏等怠惰之罪太重、今有恕及_レ茲、

○廿二日、與_二米二斗于洲之崎浦之休太郎・海土泊之嘉吉・平太郎・嘉太郎_一、去十八日夜西風大起、所_レ繫_二港内_一船繩索絕幾破、彼輩深夜犯_二風濤_一能保護、終得_レ全、故與_レ之以賞_二能守_レ職_一、

○廿三日、叱_二坂井村横目古市源助・德永喜之助・池山作太郎・鎌田周左衛門、庄屋下村善右衛門、作見舞上妻惣太郎・德永只次郎・柳田吉左衛門・安尾六之進_一、官以_レ有_下可_レ絶_二鬱金苗_一之命_上令_二之村吏_一、村吏懶惰不_レ守_二其命_一、當_二春山氏等檢察之日_一、益有_二緩怠之事_一、故坐_レ之也、

○同日、令_二猶原五平・樋口長五郎納_二科銀各一貫文、猶原六郎次三貫文、濱津脇浦之常次郎二貫文、同浦之孫次郎・嘉太郎各一貫文_一、坐_レ商_二粉朱・山婦来・海人草・朱墨等_一也、

○廿七日、森十郎右衛門嫡子森柔太郎元服、諸式如_レ例、賜_二字周八_一、

○同日、長野喜太郎・河野新次郎・長野次郎・長野

孝之助・榎元藤太郎・桑山貞市・羽生喜十次・鶴

田新次郎初謁見家老平山傳一郎武世、各獻_二火

繩_一、

○按_二察一向宗_一告于官、如_レ例、

○十二月朔日、官命_レ禁_二竊商_一唐貨、事開_二于

左_一、

○二八三 異国方掛申渡書

唐物^(密)拔荷蜜賣買之儀者、前_レ被 仰出重御制禁候

處、いつとなく相弛、近来專不正筋取扱候者も有

之哉_二相聞、不屈之至候、今度改而御取締被仰付

候_二付而者、屹与穿鑿をも可被遂事なれ共、格別

之御宥免を以、是迄之儀者先其沙汰_二不被及候、

已来拔荷直買、或者拔荷等不正之筋携之者於有之

者、吟味之上聊之品たりとも可被處嚴科候条、心

得違無之様可致旨、此節在勤長崎御奉行より於被

地改而被仰渡候段申来候条、得其意、兼而申渡置

候通弥堅固相守、聊大形相存間敷旨、不洩様屹与
嶋中江可申渡者也、

十二月朔日

吳国方掛

種子嶋

役人

○三日、前太守公及_二子少将公獵_一于磯山、松壽院

殿奉_レ命從_レ舟觀_レ焉、船中植_レ日之丸_二下着三色_一、青赤白

吹貫_二船幟_一、公語松壽院殿曰、種子島家之船幟日之丸也、故新

家船、設_二十文字幕_一、出自官庫高燈_レ灯、世々相傳為當曉發_二前之濱_一到_二

磯山之渚_一、用頼家村清兵衛・染川伊兵衛、家老

知覽才兵衛從_レ之、又奉_レ命為_レ執_二入_レ海麋鹿_一、

別設_二快舟_一植_二日之丸_一船幟、組頭_二下村惣太郎時憲

從_二上妻源兵衛・足輕濱田伴二及水梢五人_一指_二揮

之_一、時 前太守公以_レ銃所_二僅傷_一之鹿入_レ海、別

又有_二執_レ鹿舟數艘_一、故噪呼誼諍爭_レ之、上妻源

兵衛其余水梢等、脱_レ衣入_二海中_一、忽執_レ之、衆皆

賞_レ之、少焉又入亦執_レ之、即獻_二于 公所_一、獵

罷 公泛_レ舟乘_レ之、召_二松壽院殿_一大歎賞、賜_二后

執_レ之鹿_一、且賜_二公所御之肴于執_レ鹿徒_一、松壽院殿亦大褒賞、恩賜有_レ數、割_二所賜之鹿肉_一、賜_二邸中及在_レ本府家士_一、是日獲_二猪鹿三十余頭_一、

○六日、東市街之宇多津傳次郎禁_二旅行_一一箇年、嚮渠舟載_二倉米_一赴_二于覺府邸_一、洋中風浪烈瀾入_レ舟、着_二于山川港_一而賣_二其所濕米五石_一、坐_レ不告_二其狀於府邸_一而密賣_レ之也、

○十日、前太守公賜_二金子千足于知覽才兵衛_一、以見_レ賞_二致_レ力勤勞_一、諸家無_二如_レ是例_一、世以爲_二美談_一、

○十三日、上妻新七獻_レ餅、如_レ例、

○同日、廻方横目春山休兵衛・屬吏篠崎万次郎、町横目谷村八十右衛門婦、

○十七日、令_二横目西村甚五右衛門・上妻才次郎鞠_一訊中之村人足甚吉_一、得_レ盜_二杉板等_一實_上、

○廿七日、巳之刻 前太守公微行入_二于濱崎邸_一、用頼・家老・物奉行・用人・取繼番奉_レ命於_二

門前_一拜謁、撰_レ兩市街中善_二絃歌_一婦女十余人_上奏_二歌曲_一、公喜、公子啓之助殿・又次郎殿侍_レ宴、第三女亦初拜謁、公愛_二憐焉_一、松壽院殿獻_二青籠_一以生竹製之盛有數品・太鼓・煙草入十顆_一、公賜_二陶器燈爐_一・金子三千足于松壽院殿、紙臺一・筭一柄第一女、煙草盆・筭一柄于第二女、筭數品于第三女_一、又賜_二金子各百足于家村清兵衛・染川伊兵衛・年寄岡田、金子二百足于知覽才兵衛、五百足于物奉行・用人・取次番、五百足于侍女、千足于歌舞之女子_一、亥刻帰館、

○廿七日、三箇寺・廿人家・鍛治賀_(マツ)歲暮_一進上、如_レ例、

| | | |
|----|-------|-----|
| 天保 | 種子島家譜 | 廿三代 |
| 七年 | 名 | 跡道 |
| | | 五十二 |

- 天保七年丙申正月元日、國上村獻「野老」、
- 二日、國上村獻「瀬物」、現和村庄司浦獻「鯉」、
- 同日、覽「馬」、家老前田太兵衛宗周、馬役羽生新四郎、
- 同日、八箇寺進上、如「例」、
- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如「例」、
- 六日、初狩、組頭西村源五右衛門時之・種子島友

- 右衛門時大・西村九郎時起、山奉行知覽彌兵衛・羽生半左衛門・西村權太夫、夕狩場、家老渡邊勘右衛門直、物奉行前田十九郎宗篤、用人羽生仙右衛門能俊、西之表庄官進上、如「例」、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上、如「例」、
- 十一日、甲冑賀筵、如「例」、
- 同日、本源寺軍陣・温座祈念、如「例」、
- 同日、在郷諸寺進上、如「例」、
- 同日、贈「佳札于兩本山」、如「例」、
- 同日、的始、家老渡邊勘右衛門直、用人種子島友右衛門時大、射手一番美座小太郎西村七左衛門、二番上妻惣助國上雄五郎、三番羽生治兵衛八坂常右衛門、
- 十六日、納「三狩所獲鹿皮于官」、
- 廿一日、上西之表一世足輕福永甚蔵、爲三代々足輕、以「納」錢二十貫文也、
- 官 命下雖「諸郷・私領」命「宗門職」、則可「請」掛御用人上、

○二八四 菱刈隆観・市田義宜連署申渡書

諸郷并私領宗門方掛役、之儀、是迄地頭・領主取
しらへ被申付事候得共、以來退役又者役目代等ニ
付、跡代人柄宗門改掛御用人ニ相附被得差圖候様
被仰付候条、此旨地頭・領主・大番頭へ可申渡
候、

正月

(市田義宜)
美作

(菱刈隆観)
安房

○每歲與米一石于船奉行日高杉右衛門、數年以
近習役ニ奉侍于日悟公、又勤仕松壽院殿于納
殿役人、后以困窮自請役于島間浦在番所、
今愛其才、與之以救貧、勤仕于府下船手、
○國老市田美作義宜・島津但馬久風・菱刈安房隆
観、傳縣官之命禁竊商唐貨、事開于
左、

○二八五 菱刈隆観外二名連署申渡書寫

寫

種子嶋伊勢名跡

唐物技荷御制禁之段者前より度々仰出有之、別
而安永・享和之度嚴重ニ相達候趣有之、且又近年
琉球國為救助唐物類長崎表賣捌方被申立候節、
抜荷取締方之儀嚴重ニ申付度相達置候、然處薩州
邊密賣多、同國嶋々等江漂着之唐船ニも疑敷筋有
之、鹿兒嶋邊江唐物仕入ニ罷越候者も有之、并長
崎表交易代り物ニ可相成松前産之俵物類、薩州江
抜候儀有之哉ニ相聞得、弥相違於無之者以之外之
事ニ候、前々被仰出候御趣意行届候様厚世話有
之、領分中者勿論、屬嶋并琉球國共密賣之筋相
止候様嚴重取締可被申付候、若向後右之風聞於有
之而者、遂吟味屹与御沙汰之品茂可有之候条、可
被得其意候、
唐物技荷御制禁之段者毎度被仰渡事候處、此節別
紙之通從 公儀被仰渡候、依之右之御趣意ニ基、

唐物并松前産物俵物類密賣買無之様取締肝要候、若不締之向、公邊ニ相聞得候而者、御難題ニ相掛事候間、取締嚴重ニ可有之候、若違背之者於有之者、糺方之上可被處嚴科候、左候ハ、掛御役、迄茂可為越度候条、聊緩之儀有之間數旨被、仰出候間、御趣意之程深奉汲受、吃与取違無之様可申渡候、此旨表方江致通達、奥掛御勝手方へも相達、諸郷・私領へも不洩様申渡、琉球嶋、迄茂申渡、琉球館間役へも可申渡候、

市田義直
美作

正月

(馬津)風
但馬
兼刈備前
安房

○以ニ知覽覺之允ニ爲ニ用人ニ、以ニ弱年然義父才兵衛數年勤勞之故也、

○點ニ檢丁夫・病夫・有職者等ニ、告ニ于官ニ、如レ例、

○二月六日、前太守公實ニ臨于邸、卯之刻用頼家村清兵衛朝ニ儀之館ニ安否、巳之刻發、駕、近侍之徒數輩從レ之、市田主稅奉レ迎于門外、先導入ニ門内、市田美作奉レ迎于書院、先導到ニ奥鎖口、松壽院殿奉レ迎于鎖口、先導入ニ于奥書院、公就レ位、獻レ茶后、松壽院殿及久美・婦美拜謁、獻ニ盃羹ニ設レ邊豆ニ如レ禮、今泉公子啓之助殿・御城代市田義宜倍侍、獻ニ盛膳ニ又捧ニ盃酒、侍妾於百十御方及侍女十余人侍席、撰下市街中善ニ歌舞妓一女子上奏レ舞、公宴樂焉、入レ夜又獻レ膳、公賜下肴代金子千足盛ニ色紙一筐一盛ニ短冊一筐一于松壽院殿上、柳條縮緬各一端・文庫盛數各一于久美・婦美、縮緬一端・笄數顆于真佐、縮緬一端・作レ袴帛一端于市田義直見謝司令實、金子各百足于菱刈八郎太・家村清兵衛之事勞也、

・染川伊兵衛、金子三百足于知覽才兵衛、別又賜ニ二百足、見賞司令實、賜ニ金子千足于物奉行以下在邸家中、金子二百足于岡田、金子百足于多

代、金子千足于惣女中、松壽院殿獻見臺一・紅白綸子二本・鮮魚、女子獻肴一折、是日請少將公亦貴臨、以東行日逼被辭之、即獻樽酒及肴菽盛于箱、又獻同品于御内證御方、夜戌之刻、歸館、松壽院殿奉送于鎖口、從鎖口市田義宜奉送于書院、從書院市田義近奉送于門外、即義近朝于儀之館候安否、翌日松壽院殿亦朝謝昨日貴臨之辱、然贈鮮魚一臺・酒一樽・綸子一本于市田義宜、紗綾二端・肴一折・金子五百足于市田義近、鮮魚一臺・糖餅一箱于伊集院中、紗綾二端・肴一折・金子二百足于岩下巨、紗綾各二端・金子各三百足于須磨・壮右衛門・伊藤宗善、金子各百足于上野次悦・佐野銀悦、金子各百足于折田善庵・柴山善友、金子五百足于祢寢周右衛門、金子二百足水間清右衛門、金子各三百足于水間休右衛門・大山甚兵衛、二百足于湯地九兵衛、金子各二百足于安樂喜三太・山之内藤兵衛、青銅各百足于隈元八左衛門・黒

川十次郎、白銀一兩于松下源助、青銅百足于焚夫等上、贈鮮魚一臺・酒一樽于三原藤五郎、肴一折・金子二百足于伊集院八藏、肴一折・金子二百足于澁谷次郎助、金子各百足于安樂次郎右衛門・市來惣之允、縮緬一端・金子二百足于菱川八郎太、金子各二百足于家村清兵衛・染川伊兵衛、金子一兩于市田家家來牧野鶴右衛門調菜、贈毛氈二枚・金子三百足于於百十之方、毛氈各二枚・金子各二百足于染川・關尾、太鼓煙草入各二・金子各百足于女中八人、毛氈二枚・金子百足于園田、太鼓煙草入各二・金子各百足于御側女中兩人、太鼓煙草入二・金子百足于御末女一人、

○九日、巳刻御内證御方入于邸御廣敷御用人池田市兵衛等從駕、種子島六郎奉迎于表門内、入中門、導書院、松壽院殿迎于西奧休息所二之間敷込涯二女子從之、導于書院、賓主就位謁焉、點茶獻盃羹、酬酢畢獻盛膳、又勸盃催歌舞、入夜又獻膳、侍女數輩倍宴、賜肴一折・三幅對面探信筆・

廣蓋二重、盆于松壽院殿、縮細一端、懷中紙等于久美、品物各數封于婦美・真佐、金子百疋・衣裳一領于岡田、金子百疋・包物于多代、金子三百疋于惣侍女、亥刻歸城、松壽院殿贈金子・毛氈・煙草等于侍女等、有差別格、

○廿日、令遠藤壯兵衛代于家老・物奉行・用人・諸奉行、河野佐助代于諸士到本府賀前太守公賁臨、

○與米二斗于飛船船頭樋口長五郎及水手、賞不日而往來于覺府也、

○前太守公賜所著之速志篇於松壽院殿、

○褒詞平山新兵衛與上下地一端、賞俄出府勤勞于賁臨之事也、

○褒詞長野源角・山崎筑右衛門與染木綿各一端、賞隨平山新兵衛出府勤勞于賁臨之事也、

○中之村鮫島七左衛門以調菜勤勞于賁臨之事、故許納私製上中之村・下中之村砂糖于府

庫上、

○按察一向宗告于官、如例、

○晦日、締方横目堀八左衛門・鎌田納右衛門來、

○三月三日、使西村甚五右衛門時哉讀法章廣問、

○同日、西之表保正進上、如例、

○同日、與草餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○十八日、流人卯吉以破獄出竊盜新造獄梏囚其中、

○官賜金子二百疋家老渡邊勘右衛門直、以下客歲

横目岩元市十郎・春山休兵衛來監察唐貨之日

勤勞官事也、

○納三狩所獲鹿皮于官、如例、

○四月一日、叱長山甚太夫其妻入城之山見採薪、雖制之不惶、却爲不遜言輕上命故也、

○六日、長野源角寺入于妙昌寺・林次右衛門于清淨寺各三七日、長野爲蠟澄屋下吏、林爲覺

邸庖人、共坐簿書不_レ正也、

○七日、締方横目三崎鹿之助・松元治兵衛歸、

○八日、異國方御用人島津矢柄久計依_レ舊例_一傳_二糸荷船令_一、如_レ例、

○同日、狩_二馬毛島_一、

○十五日、以_二異國船來候_一、國老菱刈安房隆觀・

島津佐渡久明・島津但馬久風・市田美作義宜、

傳_二長崎奉行令_一、如_レ例、

○十八日、現和村郷士鮫島休治以_レ恣伐_下爲_レ防_レ風所_レ植樹_上爲_レ園、使_下納_二錢一貫文_一贖_レ罪、

○廿七日、以_二圍中猪鹿少_一、從_二舊法_一禁_レ狩_二于圍中_一、事記_二于左_一、

○二八六 鹿兒島役所覺

覺

一山方取締之儀_二付而者先御代_一、様被_レ仰出置、

御先君様_二茂段_一被_レ仰出趣有之、每_レ御取締向被_レ仰渡置候處、至此比山_レ猪鹿餘程致減少、適被

立置候御鹿倉之詮も無之、前方御取締等之儀、主

税様より八郎次様江御沙汰有之、其上役_レ方江御

糺有之、幸山奉行美座矢太郎私用_二付罷登居申候

間、相糺可申上旨申置、矢太郎相糺候處、弥双方

山_レ猪鹿共_二致減少候段申出_二付、右之趣申上候

處、追_レ御家督様_二茂可被_レ爲入_一、御先代被_レ仰渡

置候御趣意立兼候、誠_二不本意之儀_一、此渥御趣意

通可致取締、當時作障も無之由_二付而者一往狩山

可致停止、左候而取締仕向御聞通可被_レ成候条、右

之趣掛合可致旨主税様より致承知候、御尤之事細

_レ被_レ尽御吟味、掛役_レ取締向等御届御申被_レ成度、

此旨御掛合申達候、

但_レ島元之儀者餘程飼犬多所与御聞及被_レ成、勿論御

鹿倉内_二者犬飼候事者不相成筈、其外之處餘_レ

犬多所者不入事思召候得共、是等者御役_レ御吟

味可有之与之御沙汰_二而、為御心得此等も申越

候、

四月廿七日

○廿八日、唐物締横目・中村早太・附役永井主左衛門
来、

○與上下各一領家老知覽才兵衛行寛・日高源右衛
門爲武、物奉行美座七郎右衛門時資、側用人下村
惣太郎時憲・知覽覺之允・美座矢太右衛門、又時
服各一、納戸奉行野間仲左衛門及長野兩助・濱田
盛右衛門・梶原小一郎・西村九左衛門・河東雄助
・柳田休五右衛門・武田平藏・古市喜兵衛・吉良
甚助・上妻源兵衛、又金子三百足末之冬詰士中、
同百足足輕中、青銅百足丁夫中、白銀二兩足輕中
中彦右衛門、前太守公光臨邸之日以勤勞
也、

○以_二前太守公命_一令獻_レ楚呂之木杖・楪之木杖
各五
十本
川躑躅之材同板、及海物鮓之家貝・楸木貝
之類・石蛤、有_二鉗足_一小海老・寔蟹_上、

○晦日、赦_二林次右衛門・長野源角_一、

○五月五日、與_二粽各二束于三箇寺_一、慈遠寺獻_二同
品_一、

○六日、官命 前太守公欲_レ賀_二領國中男女貴賤
九十歲以上壽_一、書_レ有_二其壽_一者字_上、以可_レ呈_レ
之、事開_レ左、

○二八七 大身分觸役所達書写

写

此節老人御祝ニ付、家来末々之者者百歲以上より
御祝被成下候得共、厚 思召を以九拾歲以上より
被成御祝与之御事候間、来廿五日限名前取調へ申
出候様向_レ江可申渡事、

右条々各被得其意、私領有之向者私領迄、何分之
届来十八日限可申出候、此書付刻付を以致廻達、
留より佐渡方江返納可有之候、

五月 大身分觸役所

○牧藤五郎寺入于淨光寺二五七日、坐_下爲_二覺邸作
事方下吏_二簿書不_レ正也、

○八日、自_二先年_一以_レ命_三直元服于家老組之嫡子_一、
命_三禮容家羽生六郎左衛門_二云、書_三其式法_一而呈_レ
之、今編_三集年中行司附錄三卷_一・年中行司屬類雜
記一卷・元服式考一卷_二以獻_レ之、

○九日、使_三上中之村中間日高與平太_一、一世免_レ稅
墾_三關山野_一、分_三中之村_一爲_三岡村_一、號_三上中之村_一
・下中之村_一、欲_レ造_三假屋于上中之村_一、日高獻_二
己之宅地_一以備_三假屋_一、故感_三其志_一及_レ茲、

○廿五日、唐物方横目黒木源右衛門歸、

○廿九日、叱_三國上村村吏笹川善之進_一・黒木惣之進
・日高休左衛門・榎本元右衛門・落合治五左衛
門・嚮_レ官被_レ命_レ絶_二一統鬱金根_一、故當春郡役
到_三彼村_一、嚴_二令是事于村吏_一、其后官横目按_下察
藝_三甘蔗_一之畑_上之日、偶見_三鬱金_一而有_二緩怠_一之
責_一、故及_レ茲、

○按_三察一向宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○六月六日、松壽院殿命云、從_レ古貴賤奉_二事于藩
邸_一多_二死者_一、葬_三其骸骨于正建寺_一、在_三先公墳
墓之側_一者以下_レ祭_三先公_一之殘水上祭_レ之、然古墳若
干悉不_レ能_レ祭、由_レ是欲_レ吾生涯當_三蘭盆會_一不_レ
依_二倉廩費用_一、以_三吾貨財_一建_三花筒_一、為_中施餓鬼_上
既多年、今問_三其事_一藏_力否于用聞菱刈氏_一可_レ之、故
從_二今年_一爲_レ創_レ之、

○十二日、以_三西村源五右衛門時之_一爲_二用人_一、美
座十左衛門・渡邊長助・西村熊之助・野間仲左衛
門組頭、上妻新七船奉行、

○十七日、野間村下田塩屋之善左衛門童兒吉松、
與_二同輩_一出_三海濱採_レ貝、過投_レ淵而死、即聞_二
官_一、

○廿日、書_二日高仙太夫母九十四歲、鮫島市次母九
十歲、安藤桑右衛門九十歲、安藤六藏祖母九十
歲、古市善之進九十歲、足輕柳田善五郎九十二
歲、同徳永彦右衛門九十一歲、牧瀬源十郎祖母九
十歲、湊泊浦之水手嘉吉祖母九十二歲、庄司浦之

水手五兵衛九十一歲各年齡一以呈、官、頼、前太守公之命也、

○廿三日、流人富吉於配所坂井村竊盜、令吾横目糺之下獄、

○廿六日、前太守公假吾邸設架于厩之西、覽祇園囃之過、街本府祇園祭禮每歲以十五日爲恒、前太守公在於田舎浴於温泉、故延及今日、

○廿九日、賀夏越、西之表庄官獻上、如例、

○七月三日、褒詞遠藤壯兵衛、屢到於本藩、學天真流劍法於加藤清定、今又傳授奧秘、由是松壽院殿甚感之、以市田義近傳其意、

○七日、飾日深公鑑于廣間、家老西村甚五太夫時員拜之、

○同日、西風大吹、雨又甚、一島五穀大損、

○同日、大船一艘漂來而推于西之表花里崎海岸、

阿久根之孫太郎、船長・水手二十二人、便人二人、爲商賣渡于大島所還之舟也、又大船一艘爲三風浪、所打壞、潮水充溢漂到于平山村海涯、是船坂取還之舟也、船主湊之太平次、船長・水手二十三人、監船官自大坂取還之舟也、又御廣敷番頭川口新石衛門主從乘船、是暫奉仕于東都司三人、

之官邸、欲還鄉而自大坂所乘船也、

五枚帆一艘推于西之村角倉崎之海岸、是舟從大坂所還也、船主本府下、十八端帆一艘、一町之西橋藤吉、船長・水手八人、

推于島間村稻子泊之海岸、是舟官船、支配人本府下町、今井嘉三、漕運砂糖於大坂而所還也、船長・水、

大船一艘碎于同村小平山海岸、送砂糖于大坂而所還舟也、船主山川之佐々木源助、船長・水手二十三人、便人八人、監船官司二人、其內一人溺死、

擇地厚、皆所載之貨物沈沒流失、又輕舟二艘漂到

于長濱、一艘船主坊津之助左衛門、舟子十六人、其內二人溺其內十七人溺死於洋中、一艘船主坊津之長濱良藏、舟子二十人、令村民葬其骸骨、令吾横目及村吏等監之、事聞于官、

○八日、家老西村甚五太夫時員詣於大會寺、祭祖先及宗祖・戰死靈、

祭祖先及宗祖・戰死靈、

○十三日、家老日高源右衛門爲武詣於慈遠寺、

祭祖先及宗祖・戰死靈、

○十四日、家老種子島平左衛門時甫詣於本源寺、

祭宗祖日蓮、

○十六日、家老前田太兵衛宗周詣於本源寺方丈、

祭祖先及戰死靈、

○同日、西市街之大木七太郎借平山村濱田浦之太

次右衛門舟、欲往鹿籠爲商買、而出舟

遭^二先日之大風^一、於^三顯娃脇浦^二破^レ舟、由^レ是顯娃之吏告^レ之、

○十二日、男死骸一寄^二來于納官村海濱^一、同一于野間村下田之海濱、同一于島間浦古川之海濱、

是先日所^レ漂到之鯉舟舟子溺死者乎、其肌膚爛壞、不^レ分^二其顔色^一、即葬^レ之聞^二官^一、

○十七日、下^二西之表之百姓孝七于獄^一、五十日、坐^三竊伐^二破船之桅^一也、

○十九日、赦^二公義流人藤吉^一以出^レ獄、

○廿日、嚮書^下有^二長壽^一者姓名^上而獻^二于官^一、今前太守公賀^二其壽^一、賜^二青銅各三十四^一、國老島津

佐渡久明傳^レ命、事開^レ左、

○二八八 島津久明^久申渡書

種子嶋伊勢名跡

名代江

一青銅三十拾足ツ、

種子嶋伊勢名跡

家来

日高仙大夫

右同

鮫嶋市次

母

右同

安藤桑右衛門

母

右同

安藤六藏

右同

祖母

右同

古市善之進

右同

柳田善五郎

右同

徳永彦右衛門

右同

牧瀬源十郎

祖母

中将様今般 御下向被為在候處、右者共及九十歳以上之段被 聞召上、思召を以御祝右之通被下候条、難有頂戴可為仕候、

右之通、於役所役、出席之上申渡、婦人之儀者

仕来候向を以申渡候様可取計候、此旨御格之通

可申渡候、

七月

(島津久明)
佐渡

○二八九 島津久明久申渡書

種子嶋浦人

青銅三拾疋ッ、

嘉吉
祖母

右同浦人

五兵衛

右書前同断

七月

(島津久明)
佐渡

○廿八日、嚮所漂到于長濱之鯉舟舟子歸于郷之日、因告接遇之形勢、坊津之吏木下覺左衛門・長井林右衛門、贈謝禮手簡於家老、事記左、

○二九〇 長井林右衛門・木下覺左衛門連

署書状

去六日坊津浦之助左衛門并良藏船、鯉獵方として

沖立いたし候處、俄ニ大風ニ付洋中ニ而及難船、同八日其御元江致漂着、助命之者共者則より預御介抱、其上衣類等迄も御見次給候衆茂有之候由、何欵御叮嚀之御取計被成給候由、右之者共より細(共之)承屈、右付而者厚御世話罷成、御懇志之程不淺忝存申候、尤助命之者共并船主より我々江相付、厚御禮申進呉候様申出候間、御礼旁為可申進如此御座候、以上、

坊津浦役
木下覺左衛門

七月廿八日

同所郷士年寄

士長井林右衛門

種子嶋

御役人衆中

○點檢鬼利支丹宗告于官、如例、

○八月一日、慈遠寺・大會寺獻中紙各二束、與

同品于二箇寺、

○四日、馬追、家老種子島平左衛門時甫、物奉行・

用人・馬役不詳姓名

○八日、令河内熊右衛門兼勝手方、

○九日、前太守公光臨于邸、自午時至三人定

鐘歸館、自松壽院殿至家老及賤臣賜金帛、各有差、

○同日、自下町會所召家老、命云、於日州飯

肥領內種子島舟難船、彼地之吏三人送來水手仲之允、故託之于家老、於是携還于邸、糾

其狀、答云、阿高磯塩屋之新八・源太郎三人

欲渡於山川而為商賈、五月廿六日發赤尾木港、洋中遇逆風漂到于處々、遂七月六日

於日州飯肥領內宮浦洋一舟顛覆、三人望陸游、

二人溺死、幸我一人得免、即從國主賜單衣浴衣帶手巾類、且留滯中賜盛膳、去十五日

得新八死骸、自國主令僧徒十五人葬之、

源太郎死骸終不得、於是見送還矣、故問可謝彼國之恩、否於用頼、答云、謝禮者官

宜計之、數日而官命釋仲之允、由以歸於種子島、

○十日、前太守公將發駕于東都、由是松壽

院殿贖獻乾魚一匣・陳鼓形火鉢二・大鼓形飯鉢

二各種子島座也・花臺一・長盆二十、久美・婦美大鼓形

煙草入五十種子島座也・刻煙草二匣・枯魚一匣、真佐

刻煙草二匣、又松壽院殿及女子贈品物於侍妾及近侍之臣、各有差、

○十三日、以現和村足輕鮫島周右衛門為代々郷士、憐察倉廩困窮、賞納錢五十貫文也、

○十五日、蓮勝寺獻神酒・棗盛、

○十六日、以三年穀不登減國上村・納官村・安城村賦稅、各有差、

○同日、池村甚之進寺入于妙昌寺三七日、坐覺府之士池田十次郎所請材自住吉港運漕於赤尾木港之質米重復也、

○十七日、下村惣十郎寺入于妙泉寺一七日、坐

為覺邸作事方下吏簿書不正也、

○廿三日、野間村百姓新太郎宅火、人馬・手札無恙、

○九月三日、前太守公有命、頻求_レ柳田五平次女千代所_レ畫画、直繪以獻_レ之、甚賞_レ譽之、賜_レ金五百疋、

○九日、令_レ種子嶋次郎左衛門讀_レ法令書於廣間、

○十二日、令_レ上妻新七爲_レ船奉行、勝手方如_レ故、

○十三日、坂井村村長鎌田周左衛門・横目柳田吉左衛門・橋口吉次郎各寺_レ入善福寺_レ七日、相議毀_レ同村之有留與_レ三太宅、由_レ是與_レ聞村之事、諸有司告云、村吏所爲暴戾、宜_レ重_レ罰、然有_レ之及_レ此、

○十五日、令_レ油久村兵太郎・兵十郎、坂井村_レ三藏・淺之進修_レ理府下之路、各七日、坐_レ冒_レ法而爲_レ中博奕_レ也、

○十六日、叱_レ八板盛右衛門、爲_レ漕_レ運野間村製糖樽府下_レ船功者_レ、在_レ彼村大町之津_レ待_レ三和風_レ、所_レ圍_レ津之糖樽許多、近隣幼子等欲_レ嘗_レ糖、而穿_レ蓋者_レ一二樽、點_レ檢其樽_レ以達_レ之於村

吏、其后幼子等親懼_レ其子遭_レ罪謀_レ于八板、八板亦憐_レ幼子_レ不_レ首實_レ、故及_レ茲、

○同日、徙_レ坂井村有留與_レ三太宅於邑外、預_レ上妻増次郎錢_レ而紛失、其狀自己取以似_レ托_レ盜者、由_レ是令_レ吾横目糺_レ其夫婦、其言不_レ分明、且平生以_レ有_レ不正之言行_レ也、

○十八日、令_レ坂井村之六藏修_レ理府下之道路_レ三七日、同村上妻惣太郎・古市嘉吉・徳永喜之助・安尾喜三太・牧瀬木工之允各_レ二七日、以_レ博奕_レ也、同村宿_レ士河内六郎左衛門寺入六箇月、坐_レ令_レ博奕_レ之徒貸_レ宅爲_レ博奕_レ也、

○廿日、西村員右衛門厩火、人馬無_レ恙、

○廿二日、渡邊長助逼塞_レ三七日、遠藤喜右衛門・遠藤才助・羽生蟻之助・知覽才右衛門・西村七左衛門・八板十次郎・吉良市太郎各逼塞_レ二七日、以_レ馬追之候有_レ不正之行_レ也、特_レ渡邊爲_レ組頭、以_レ不_レ願_レ其分_レ重罰、

○廿三日、叱_レ野間村之兵之進、以_レ護_レ所_レ出_レ津

之砂糖樽、幼子等穿_二糖樽_一之事不可告_レ村吏及町頭也、叱_二同村吏石堂半左衛門・鎌田惣太郎・日高儀左衛門_一、以下幼子等穿_二糖樽_一之候有_レ不正之儀也、叱_二納官村糖製師範徳永源左衛門_一、兼日嚴戒_レ散_レ糖、然幼子等親訴_レ蔽_二其子所為_一、故當_二糾明之時_一隱_二慮其過失_一、今嚴可_レ罰_レ之、然寬_二宥之_一、叱_二野間村井原之町頭日高喜次郎・林藏_一、以下視_レ損_二砂糖樽_一則疾可_レ告_二府下官庭_一、而不_レ告也、叱_二同村井原之糖製焚子新作_一、以下平日嚴當_二戒_レ散_レ糖之時_一密諾_中諸人請_レ糖也、叱_二同村之善作・仲之進・仲四郎・政次郎・善角・休之進・利三太・利三次・八十八・源四郎・新吉・平之進後室_一、以下渠等幼子穿_二糖樽_一、平日教戒之不_レ至也、

○廿七日、因_二前太守公之大命_一令_二國老格調所笑左衛門廣邦_一御趣法方御用人高田十郎右衛門與_二聞吾倉廩之事_一、公聞_二倉廩困窮_一彼輩以_レ有利世之智_一欲_レ令_二計_二其豐富_一也、嚮託_二出米金納于

御側御用人高崎金之進、今於_二藏方目附丸田泰藏・田畑仲左衛門_一亦託_レ之、是徒皆以_二長役_一于擾土之官邸也、

○廿八日、前太守公聞_二家老知覽才兵衛行寬數十年在_二于府邸_一、勵_レ精而勤仕、且令_二松壽院殿就_二日用事物_一無_レ一不如意_一、甚感_二賞之_一、附_二託金五十兩及賞讚_一内旨于松壽院殿、以賜_レ之、御側御用人三原藤五郎傳_レ命、事開_二于左_一、

○二九一 三原藤五郎証文写

御證文之写

一金子五拾兩

知覽才兵衛

右是迄格別精勤致骨折、分而 松壽院様御手本萬事_一至_レ御用弁相遂罷在候段、於 礪御殿達 御内臆御滿悅思召候、右付此節 中将様より御内々を以御金頂戴相成候處、右者旁厚御意味合被_レ在候条 松壽院様より被_レ下候事、

右者、三原藤五郎様より被_レ仰渡候御書付之写、

〇二九二 市田義近達書写

写

種子嶋伊勢名跡家来

知覽才兵衛

右者、年來主用掛心頭格別致精勤候段、追々中
將様被 聞召上御美向等度、被為在 御沙汰、就
中此節御下向之上猶又勤振盡丹誠候趣逐一被為聞
召上、依之別段厚思召を以、往々及老年候而茂定
府ニ而松壽院様御手本者勿論改革筋等吃与治定ニ
至り候様可為取計与之御事候、

別紙之通御勘定奉行御側役三原藤五郎御取次を以
致承知候間、御趣意之趣別而難有奉承知、猶又可
精勤候、

九月

(市田義近)
主税

〇同日、中麿岡田自ニ松壽院殿幼稚之時ニ近ニ待其
側、至レ今以ニ忠直ニ而勤仕、 前太守公甚感ニ其

志ニ謂ニ松壽院殿ニ云、來年賜ニ庫官ニ庫官者取官用外之餘財者也今
賜婦人者賣之他、又往々令ニ衣食等無ニ不如意、宜下
人獲其利者也、

至ニ老年ニ勤仕上矣、於是松壽院殿語ニ其内旨市田
義近、義近傳レ命、事記レ左、

〇二九三 市田義近申渡書

岡田

右、

松壽院様御幼少之砌より正道ニ致精勤候趣、

中将様殊勝ニ被 思召上、來年者蔵方致訴訟、往
々不自由無之様取計、及老年候而も當分之通相勤
候様可被仰渡旨、 中将様御内沙汰被為在御承知
付此段申渡候、

九月

(市田義近)
主税

〇廿九日、以ニ圓光院ニ為ニ本源寺寺主ニ自本山所遷之僧也

〇同日、納官村川牧郷土阿世知作蔵與ニ濱津脇浦之平
三郎ニ争ニ田地ニ不レ輟、終懇ニ糺明、令ニ吾横目

糶_レ之、其言紛々無_二優劣_一不_レ能_レ區處、故收_レ田、

○同日、縣官命_レ不_レ可_レ留_レ糶、國老傳_レ之、開_二于左_一、

○二九四 藩家老座申渡書

新規津笛等難相成段者、兼而被仰出候品茂有之候間、万石以上之面、領分不作候而も容易致壳留等候儀者有之間敷事候得共、當年者出水其外_二而米壳拂底之折柄、諸國者壳留等不致通融宜敷様可取計、從 公義被仰渡候条、此旨與中支配中諸郷江不洩様可被申渡者也、

九月廿九日

御家老座印

大身分觸役所

○十月三日、以_二岩河九郎助_一爲_二稽古講談役_一、

○五日、唐物締方横目福崎平右衛門・附役木山熊助

来、

○六日、家老渡邊勘右衛門直病死、

○八日、締方横目平瀬八郎右衛門・三崎鹿之助来、

○九日、家老種子島平左衛門時甫詣_二於本源寺_一盛_レ供_二宗祖日蓮_一菓子上、

供_二宗祖日蓮_一菓子上、

○十一日、家老西村甚五太夫時員詣_二於本源寺_一祭_二宗祖日蓮_一、

宗祖日蓮、

○十四日、與_二米三石於柳田休五右衛門_一、修_二覆於本府第及濱崎邸_一、令_レ渠以_レ紙修_二理室中戸壁_一

加_レ之_二以_レ畫、其留滯數月、因_二前太守公命_一畫

亦數月、由_レ是助_二其旅費_一、

○十五日、官被_レ罷_レ收_二二分稅銀_一、

○同日、下中之村足輕犀川仁平太宅火、焚_二手札四

枚、農夫休平宅類火、人馬・手札無_レ恙、

○十六日、公義流人富吉於_二配所坂井村_一病死、即

聞_二于官_一、

聞_二于官_一、

○十七日、國老島津佐渡久明・菱刈安房隆觀命云、

諸郷間不_レ收_二口稅_一、向來私領者家老聚_二稅錢_一

可レ納之事、開_二于左、

十月

(兼刈隆觀)
安房

○二九五 菱刈隆觀・島津久明久連署申渡書

写

写

御領國中、人別卷分出銀之儀者、宗門手札改元ニ而年、家内人数出入致差引、出銀者銘々差出候儀取扱候向者一紙總書を以夫々支配頭等江申出、免印等を受候上、寺社方江差出、引付相渡、御蔵上納ニ相成仕来之由ニ候、間々滞納茂有之哉ニ相聞得、不可然事候、依之總書江致免印等、又者引付相渡候儀者是迄之通ニ而、合書江相添直ニ寺社方江可遣候、近在并私領之儀も同様付_{本ノマ}渥ニ出銀取揃、庄屋又者郷士年寄役人より無遅滞上納ニ相成候様可取計候、乍此上不埒之儀共候ハ、可及迷惑候条、此旨可承向江可申渡、諸郷・私領江茂可申渡候、以上、

(島津久明)
佐渡

右之通各被得其意、未上納無之面々者、當月限無延引可被申出候、尤納方ニ付而者、猶又無間違様可有之候、此書付刻付を以致廻達、留より佐渡方江返納可有之候、以上、

○廿一日、唐物横目中村早太・附役永井主左衛門及締方横目堀八左衛門・鎌田納右衛門歸、

○廿二日、叱_二住吉村村吏_一、當年以_三五穀不_レ登億_三一統及_二飢餓_一、嚮命一統衆庶當年可_レ省_二無益之費用_一、今住吉村之郷士能野兵次郎營_二造居宅_一村吏不_レ輟_レ之、以_レ蔑_二其法_一也、

○同日、叱_二匠人阿世知清之允_一、今年_{イハクシ}飢食用不_レ給、故命_二一統衆民當年中省_二作事等之費用_一、今狼_レ以_レ肯_レ作_二諸人家_一也、

○廿四日、安城村川脇塩戸之市次郎釣不_レ還、即聞_二于官_一、

○廿六日、醫師柳田泰庵、告東市街之榎元新四郎

二男患痘疹_{痘疹流行之初、有染之者則警告之例也}

○十一月三日、松壽院殿詣于正建寺廟之日、祭

殘水于巨僕之墓、且當中元祭祀之日、建花

筒為施餓鬼、由是前田太兵衛宗周・平山新

兵衛武雄・羽生平之進・上妻藤次郎・國上伴九郎

・河島源吉・榎本宿右衛門・最上鹿之助・吉良休

四郎・小田宗助、本源寺役僧本信院・羽生平十郎

・西村休八・知覽才之允・市來長兵衛・高尾野新

右衛門・宮浦半之允・桑山直太郎・酒勾太郎・上

妻鼎・八板平右衛門・高崎九八・河野官兵衛・西

村七郎・知覽彌兵衛・石黒雲仙・下村貞之助・西

村次郎兵衛・種子島三左衛門、各謝慈恩及吾

祖先之墓之辱、庶村足輕・百姓等就村吏謝其辱、

○廿五日、嚮令船頭東市街之宇多津傳次郎_{自船也}、水

手池田港之甚吉・同港之周左衛門_{周左衛門者日州破見之座也、嚮密來}

住於池田港三人、載倉米六十石餘而運漕于覺邸、

是日國上村村吏告云、宇多津舟遇難船、舟子得

上陸、由是使吾橫目糺之、白其狀云、

出舟之日拋錨於山川之港、其后發山川港之日遇逆風、當過佐多岬、楫損、舟將轉覆、

故剝載伐檣、以桅為檣、任風浪漂漾、漸

來于國上村湊洋、不得止、拋錨乘橋舟以

得上陸、本船則向東方漂流去、

○廿八日、羽生仙右衛門嫡子羽生豊袈袞元服、理髮

家老前田太兵衛宗周、賜三字仙藏、諸式如例、

○同日、羽生六郎左衛門嫡孫羽生管矢初目見、諸式

如例、

○廿九日、遠藤甚五左衛門僕市太郎為安城村川脇

塩戸隸_{令伐焚塩之木}二箇年、吉平友碩僕万吉現和村淺川

塩戸隸二箇年、吉平新六僕甚助納官村竹之川塩戸

隸二箇年、竊坐苳苳也、

○同日、叱遠藤甚五左衛門・吉平友碩・吉平新

六、渠等僕竊苳苳蔗、是平生以教戒疎濶

也、

○同日、國老島津但馬久風命云、以來三箇寺寺主、領主命_レ之、向來官與_二正建寺_一議而命_レ之、事開_二于左_一、

○二九六 島津久風申渡書

種子嶋本源寺・慈遠寺・大會寺等迄領主より住職被申付來候得共、以來者正建寺江相談之上寺社奉行承届、人柄申出候様被仰付候条、此旨種子嶋伊勢家跡名代江申渡、寺社奉行へも可申渡候、

十一月
(島津久風)
但馬

○同日、國老島津但馬久風命云、今秋五穀不_レ登、領國衆民將_レ及_二飢餓_一、宜_下薄_二飲食_一用_中節儉_上、若有_二賣_レ米者_一一升價可_レ限_二百錢_一、事開_二于左_一、

○二九七 島津久風申渡書

當秋田畑作毛及不熟、御領國中一統米價高新_二相成_一、勿論諸國一圓違作之依響、新売時節之無差

別、追々高新_二相成_一、右江準諸郷逆も一躰同様の勢相聞得、是より來初秋迄何程高新可及も難計、賣米貯置候者共有之候ハ、不依實賤臨時分外利得度可有之事候得共、御當地諸郷困窮之諸民飢渴之基候条、向後御當地諸郷共賣米持困居候向者、占賣又者高利不貪、納米尅升_二付_一百文を限、尅斛之前_二而者_一右江準手廣順路_二賣渡_一、諸郷用弁相違候様、乍此上令違背、高價之時節計竊_二困置_一一統之不融通不弁者者、不依實賤夫_レ屹与可及沙汰、於其儀者輕_キ日用之取續尚又令看略、朝夕之食事粥雜類_二而不及_一飢躰様、兼而其嗜可有之候、右_二付_一而者御當地者勿論、諸郷端_レ迄も見聞役掛賣米貯置候_レ、又者不守之者時_レ見聞之成形無用捨申出候様申付置候条、聊心得違有之間敷候、此旨支配中江申渡、奥掛・表方江茂相達、諸郷・私領江も可申渡候、

十一月
(島津久風)
但馬

○同日、赦_下嚮坐_レ芟_二甘蔗_一所_レ爲_二塩戸婢_一之柳田五平次・大山善太・大山五右衛門婢_上、

○按察一向宗_一告于_レ官、如_レ例、

○十二月朔日、於_二本源寺_一令_二三箇寺僧徒禱_二痘疹_一輕安_一、三役出席、

○八日、令_レ住吉村之能野兵次郎寺_二入于妙泉寺_一七日、以_二五穀不_レ登禁_一一統庶民當年中造_二乙居宅_一、今坐_レ冒_二其法_一也、

○十一日、以下患_二痘疹_一者邊多_上撞_二乙十二時之鐘_一頼事

○十三日、上妻新七獻_二斗搗之餅_一、如_レ例、

○十四日、國老島津但馬久風・島津伊勢久明・菱刈安房隆觀命曰、嚮命_下至_二當年一免_一中重租_上、然今

官因_二費用繁_一、從_レ是又三年可_レ納_レ之、事開_二于左_一、

○二九八 菱刈隆觀外二名連署達書

重出米之儀、當年迄年限等合付御用捨被仰付等候

得共、近年御吉凶等差屯、臨時之御入價致增長、

御産物祈も過半右江振向置候付、今以御改革吃与

難被行届、就中三都之内旧借莫大之儀ニ付、何れ

共御返金存分難及手ニ、其上入別屯刃出銀等被成

御免、殊ニ今般御上納金被為蒙仰、都而御借入ニ

而御上納有之、跡補筋者御手元計被仰付候付、重

出米迄も被差免候而者三都御不通融之基付、誠不

容易之儀ニ而、當時諸人一統困窮之折柄、至極御

氣之毒被 思召上候得共、来酉年より又々御當地

諸郷共引續三ヶ年重出米是迄之通被 仰付候条、

上納方付而者當分之通可相心得候、

但諸郷重出米之内五合丈後居、来酉年迄上納申

付置候、右之分者是迄之通追送ニ而、来子年

迄上納申付候、

右之通表方江致通達、奥掛御勝手方江茂可相達候、

(島津久風)
但馬

十二月

(島津久風)
伊勢

○十九日、與金子百足於羽生七郎次、嚮御廣鋪附足輕渡邊直右衛門於島間港、遭破船、欲上陸而游爲瀾失佩刀、故暫訴貸太刀、其事急迫也、於是貸羽生所藏之刀、賞賴其庇達中其望上也、

○廿六日、日高太郎次元服、家老種子島平左衛門時甫、理髮西村甚四郎時冥、獻太刀・馬代、賜字源藏及的矢、

○廿七日、女子真佐爲下嫁關山直次郎之約上、

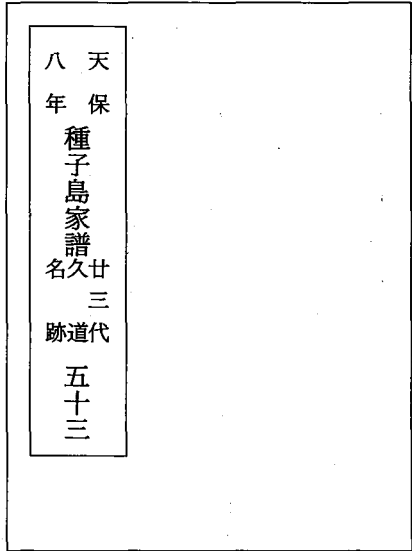
○同日、赦莖永村之馬場惣太郎寺入、

○同日、赦島間港之水手周次郎・新四郎津口留、

○同日、三箇寺・二十人家・鍛冶賀歲暮進上、
如例、

○歲暮、規式、如例、

表紙



- 天保八年丁酉正月元日、國上村獻野老、
- 二日、國上村獻瀨物、現和村庄司浦獻、
- 同日、覽馬、家老日高源右衛門・馬役日高惣七郎實有、
- 同日、八箇寺獻上、如例、
- 四日、上之郡庄屋・小觸獻上、如例、
- 六日、初狩、組頭日高杉右衛門・渡邊長助・西村

- 熊之助、山奉行宮浦藤九郎・西村蔵多・美座矢太郎、夕狩場、家老日高源右衛門為武、物奉行上妻小左衛門、用人種子島次郎左衛門、西之表庄屋獻上如例、西村七左衛門獲牡鹿、
- 七日、下之郡・中之郡庄屋獻上、如例、
- 同日、與米六斗于野間村村吏、二斗于住吉村深吏、賞蕃殖甘蔗也、
- 十一日、甲冑賀筵、如例、
- 同日、蓮勝寺獻上、如例、在郷諸寺進上、如例、
- 同日、本源寺軍陳・溫座祈念、如例、
- 同日、的始、家老日高源右衛門為武、用人羽生仙右衛門、射手一番岩川十蔵、二番下村要三、三番日高惣四郎、八板十次郎、
- 同日、奉南泉院救火土之命、
- 十三日、盜偷、現和村流人角文米及袷衣一領、且火烧臥茵及床、有人救之、事聞于廷、令横目羽生仙右衛門内横目一人搜索不得、

○十五日、納三狩所獲鹿皮于官、

○廿一日、即今痘瘡流行、惡痘衆夭亡者甚多、故令三箇寺僧徒會三同于本源寺一祈中輕安上、

○廿五日、上中之村初造三飯屋一、故與三杉十五本一、

○廿九日、締方横目大野源五右衛門・鎌田納右衛門來、

○中之村足輕犀川仁平太宅火、燒三宗門手札四枚一、

故納三科錢二百文一、

○晦日、以三美座十左衛門一為用人一、遠藤壯兵衛

山奉行、令三西村藏多出三座于高所一、

○以三森十郎右衛門友諒一為三家老一、

○點檢丁夫・病夫・有職者等一聞于官一、如例、

○二月、郡奉行田上市郎・羽生嘉右衛門赴于甕府一奉三勸農之命一也、

○十七日、與三金子百足于船工山口茂兵衛一、賞下不_レ受三賃米錢一修_レ補臺所船上也、

○同日、第二女子與三鎌田木工之允一約三婚姻一、行三

結納之儀一、

○松壽院殿賜三鶴膏于患痘者一令_レ治三難痘一、諸人拜三恩惠之辱一、

○國老島津但馬久風傳_レ命、禁三封國中私商三藥種一、事開于左一、

○二九九 島津久風申渡書

御領國中葉種類^(密)蜜賣等取締ニ付而者、別段申渡通候得共、格別成御趣意を汲受、御當地市中之儀者

町奉行、諸郷・私領之儀者所役之者勿論、地頭・

領主・大番頭より屹与取締方申渡、郡奉行并締方

横目ニ茂請持之郷々可致取締、琉球島々之儀者島

役より茂引受可致取締候、諸所津口番所之儀者詰

見分役より分而嚴重改方等可致候、此旨申渡候、

二月

(島津久風)
但馬

○與三時服各一領于阿世知圓右衛門・吉良休四郎・

阿世知仲五郎一、圓右衛門勤三勞于勝手方・勸農

方、休四郎・仲五郎勤_二勞船手檢者船造等_一、雜費大減、故賞_レ之也、

○國老島津伊勢久明傳_二大坂町奉行跡部山城守命_一、

禁_三猥商_二米穀_一、事開_三于左_一、

○三〇〇 島津久明久申渡書

去申年東國筋之内違作_二而土地有米拂底之向茂有之、自米價高直故右を見込、奸商之輩一己之利潤

_二抱國_一、江入込、百姓共作德米等時、相場不抱買

取候者茂有之哉、左候而者其土地之米自然与高直

押移、諸民可及難決、且者當表積廻米相減候而者

自米相場_二茂差響_一不容易候付、猥_二他國_一より石數

羅買_二差越候者有之候ハ、其所江留置、奉行所

江可申出、其段早_レ國元江可申達候、大坂東町御

奉行跡部山城守殿より別紙之通御奉書被相渡候

条、此旨可承向江申渡、諸郷・私領江茂不洩様可

申渡候、

二月

(島津久明)
伊勢

取次

新納主税

○國老島津但馬久風傳_レ命、定_二諸人旅行之日餞別・土産之儀_一、事開_三于左_一、

○三〇一 島津久風覚

覚

着出立付土産・餞別或者待受等之品可致無用与之

趣、每度令沙汰候様被仰出置候處、此比_二至、又

緩_二成立候哉_一被 聞召上、當時柄甚不勘弁之

儀被思召上、畢竟右様無益之入費より身上令逼迫

候者茂可有之、不可然事共_二候、依之向後土産・

餞別等、猶又一切無用共可被仰付事ながら、其通

_二而者年月等を経、久々帰郷之向親子・兄弟杯江

全祝儀之印無茂親戚之情無然止筈候間、右之分者

不被及御沙汰、是迎も決而可為鹿品候、其外親類

縁者等是又礼式難差欠儀茂可有之候間、已來者扇

子迄差贈候儀者此節より御用捨被仰付候条、御國元出立之向迎茂右扇子ニ準候品・輕品又者肴類相贈候儀者、其通可有之候、万一違背之輩有之候者吃与 思召被為在候付、此段可申渡候旨被仰出候条、御趣意之程一統難有可奉承知候、乍此上緩之聞得有之候而者無申訳次第候条、御仁惠之程厚奉汲受、聊取違無之様可相守候、此旨向、江不洩様可申渡候、

二月

(鳥津久風)
但馬

○以三岩河十右衛門時行ニ爲ニ物奉行ニ、羽生仙右衛門加ニ慈遠寺社奉行ニ、

○按ニ察一向宗ニ告ニ于 官、如レ例、

○三月朔日、從ニ先蹤ニ禁ニ市中及漁戸仕ニ下僕・婢女ニ、

○二日、叱ニ牧瀬増次郎ニ、自ニ覺府ニ借レ船帰レ島之日、以ニ藏下邸之家老達ニ于種子島ニ封章上函^甲、爲ニ水手之枕ニ壞ニ其緘ニ、請ニ締方横目ニ改ニ易之ニ、故

坐レ之也、

○三日、使ニ西村源五右衛門時之講ニ法令書ニ、如レ例、

○同日、與ニ艾餅于三箇寺ニ、慈遠寺獻ニ同品ニ、

○同日、賀ニ瀬引ニ西之表庄屋獻ニ酒肴ニ、

○四日、國老傳ニ大坂町奉行 命ニ、物下色二月十九日乱ニ妨大坂ニ大塩平八郎父子及其與黨瀬田・渡邊・近藤・庄司等上搜索、如レ左、

○三〇二 藩家老座申渡書

元大坂町奉行組與力

大塩平八郎

一年比四拾五六歲

一 顔納長色白方

一 目張強方

一 眉毛細く濃き方

一 額開き月代薄方

一 鼻常躰

一脊恰好常跡

一耳常跡

其節着用

一鍬形兜着

一黒陳羽織

其餘着用不分

右同

大塩格之助

一年二十七歳計

一色黒キ方

一脊ひくき方

一鼻常跡

一眉毛濃キ方

一目常跡

一上向齒折有之候

右同

瀬田濟之助

一年比二十五歳計

一色青キ方

一脊高肥肉

一目丸クニかわニ而大キ方

一月代薄キ方

一小額有之

一鼻高キ方

一眉毛濃キ方下り有之

右同

渡邊良左衛門

一年比四拾二歳計

一色青ク白キ方

一脊ひくき方

一目ニかわニ而大きく出目

一齒出齒

一月代常跡

右同

近藤梶五郎

一年四拾歳計

一色赤ク丸キ方菊石有之

一脊ひくき方

一目丸ク常躰

一月代常躰

一角ぬき有之

右同

庄司儀左衛門

一年比四十計

一色黒おとかひ細キ方

一左耳つふれ

一目細キ方

一月代常躰

別紙名前之通者共、當二月十九日於大坂及乱妨
逃去行衛不相知候付、御領内江入来儀茂可有
之、尋方之儀大坂町奉行所より被仰渡段申来候
間、當二月以来入来候旅人入念相改人相書申出
候様、組中支配中諸郷江不洩様可被申渡者也、

但

郷之儀於罷居者、幸領相付鹿兒島江引越候
様、月番御用人より可申渡候、

三月四日

御家老座印

大身分觸役所

○八日、締方横目平瀬八郎右衛門・三崎鹿之助焔、

○十日、定一男三男別樹家后困窮不能奉仕二等

之處置之法上、事開于左、

○三〇三 鹿兒島役所達書

一二男三男致別立御奉公相勤居者、所帯及困窮別立
御奉公不相調節者、嫡家より私二男何某事所帯及
困窮、他借増長仕、返済方便無御座候、私より茂
此上合力相調不申、別立御奉公相勤申候躰無御座
候付、高屋敷相片付返済為仕、私方江引取申度奉
願上候得者 御免被仰付、左候而其後養子所望之
向有之節奉願候得者、是又御免被仰付、尤別立い

たし候初代之者迄^三而、二代目^三者御免不被仰付候事、

一十五歳以下之者盗いたし候節入牢被仰付候儀者無之、手留被仰付、其手留江切封^三而被召置、間々御評定之場江被召出切封御改有之、廿日又者三十日位彦打過候得者、不及御咎目御免相成候事、

一士より博奕之人数^三相加居候節者、其身江御糺無之、委敷御聞合之上、於無別条者聞得之趣を以遠島被仰付候事、

右三ヶ条、御用頼江聞合之趣御問合申越候、以上、

鹿児島

御役所

酉三月十日

種子島

御役所

○十一日、放^三現和村郷土犀川仁平太子西之村上瀬

田^一、以^二犬神害^レ人也、

○十二日、御側御用人三原藤五郎召^三田上市郎・羽

生嘉右衛門于西奥書院次之間^一、用頼家村清兵衛・染川伊兵衛・家老知寛才兵衛・前田太兵衛・物

奉行平山新兵衛侍席、傳^二前太守公命^一曰、寡人以^二松壽院入興^一、故計^二種子島家繁榮^一日久、持^二國家

者以^二金銀珠玉^一不^レ爲^レ寶、以^二土地所^一吐五穀

爲^レ寶、聞、種子島土地甚廣使^二庶民盡^レ力耕^レ之

則五穀充溢、上足^三以充^二府庫^一、下以養^二父母妻

子^一、自免^二飢寒之患^一、期以^二三年^一努力教導

焉、今也下民雖^二一旦厭^レ勞、及^レ得^二餘澤^一則不^レ

勸而可^レ至^レ務^レ之、至^二于茲^一宜^レ以^二公子^一定^二

嗣子^一計^中家長久^上也、故臣召^二汝曹^一敬傳^二公

命^一、於^二勸農^一則郡役其職也敬勿^レ忽^レ命也、又

云、松壽院殿以^二女姓^一故不^レ能^レ傳^二公命辱于一

島人民^一、使^下家村清兵衛・知寛才兵衛速^下嶋而

巡^二回一島^一傳^中公命^上、汝曹亦隨行而助^レ之、兩

人拜類謝^二恩命之辱^一、

○十七日、國老島津但馬久風再傳^二長崎御目附石川

數馬一命、搜_下案二月十九日乱_二妨大坂_一大塩平八郎父子及其餘黨_上、事記_レ左、

○三〇四 島津久風申渡書

當二月十九日於大坂致乱妨大塩平八郎外五人尋方之儀、先達而人相書を以申渡置候處、平八郎并同人悴大塩格之助儀、西國を志大坂出帆有之候段、於長崎御目附石川教馬殿より御内達有之候旨、在勤御附人申越候付、猶又入念相改候様、御當地并諸郷・私領不洩様早々可申渡候、以上、

但所々御関所并邊路番所又々津々浦々一涯入念

候様可申渡候、

三月

(島津久風)
但馬

○國老島津但馬久風・菱刈安房隆觀傳_レ命禁_レ着_二美服_一、事記_二于左_一、

○三〇五 菱刈隆觀申渡書

衣服之儀随分鹿服相用候様与之趣者追々被仰出置候通候、依之此節御道中等弥以萬端實素を心掛、當時御改革中之御事候間、右服おのつから自他國共細類相用候而茂不苦旨、奥向之面々江可申渡被仰出候、其通申渡相成候段申来候条、此旨奉承知候様可申渡候、

三月

(菱刈隆觀)
安房

○三〇六 菱刈隆觀・島津久風連署達書

衣服之儀鹿服相成候様与之趣意兼而申渡置候通候處、兎角風俗花美ニ成立候様、當時者御身邊之儀迄茂御事を被為欠候砌、不可然事候、既ニ此節奥向之面々江者衣服沙汰等分而御沙汰之儀茂被為在候、右通奥勤而已被仰出、御側廻より質素之風被相行候者、表方勤之者共江自ら追々御趣意之程奉承知、勘弁茂可有之与之深御思慮より態与表方江者別段御沙汰ニ者不被為及御事奉恐察候、

旁難有御趣意候条於向、茂此旨を存弥以質素を可
心掛候、左候而右通被 仰出候付而者、僮服者勿
論無益之集會致間敷趣茂追、申渡置候通、堅可為
無用候、右様申渡迎、若年之面、萬一取違、粗暴
之容跡共成立候而者厚 思召ニ茂致相違奉恐入事
候間、聊心得違無之様親兄弟等より分而可致教戒
候、

右之通向、江可致通違候、

(島津久風)
但馬

三月

(菱刈隆親)
安房

○廿九日、官以屋久島本隆寺住職本信院日香
為大會寺住職、事開于左、

○三〇七 寺社奉行所申渡書
(三〇七)

屋久島本隆寺

本信院日香

右、種子島大會寺住職申付候条、堅固相勤候様可
申渡候、

天保八年酉三月廿九日

寺社奉行所印

右之通被仰渡候間入念可相勤候、
(三〇七)

正建寺

役寮

天保八年酉三月晦日

種子島大會寺

日香

○四月朔日、用頼家村清兵衛來、為代松壽院殿
傳中 前太守公命也、家老知覽才兵衛、郡奉行
田上市郎・羽生嘉右衛門從來、

○二日、家村氏召家老・物奉行・用人・家老組・
諸奉行・諸士于廣間、傳 前太守公命、事

開于左、

〇三〇八 申渡覺

覺

一田畑勸農取扱之儀者專經濟基本之事候處、種子島之儀全躰手廣之土地、依村人別多小者有之候得共、舊來人農業緩疎之習俗自然与押移、尤風旱災殃ニ随作毛損失者天災別段沢茂相替候得共、早竟田地方掛郡奉行を始下役等ニ至リ、農事引進候儀等閑之筋ニ茂相響、勿論年貢取納方又者農民飢渴之取凌、兼而勸農一事ニ相抱候儀故既往者被捨置、向後郡奉行分而令精勤、耕作之道無懈怠為相披候様、且又外産物逆茂右ニ準役、手厚可致指揮、右者當時御名跡中

中将様御在國中御内、被聞召上、殊ニ御由縁柄難被為黙止御詔合茂被為在、尤 松壽院様於御趣意茂御同様ニ而役、勸方依精粗御改革之差別ニ茂相及事候条、右之趣役人始一統難有奉汲受、就中郡奉行之儀勸農方一涯相勵、萬端 御趣意相貫キ、

追々御家督御備之節ニ至リ、御所帶向治定相成候様可有之候、右ニ付而者今般態、御内用頼家村清兵衛江被仰含越、知覽才兵衛差添被差下候付、猶前書之趣同人より可申聞候間、奉得其意、役、御受之儀者右清兵衛江相付可申上事、

三月

〇以ニ痘疹流行、狩ニ于馬毛島一執ニ鹿茸、家村氏往觀レ狩、

〇八日、異國方御用人島津矢柄久計示「糸荷船等漂到之日處置之法」禁レ商ニ唐貨、如レ例、

〇同日、横目玉利喜左衛門・足輕長井主左衛門來、

〇十一日、下西之表村長野休太右衛門厩火、流人卯吉所爲也、

〇十五日、以ニ異國船來之候「國老菱刈安房隆觀・

島津伊勢久明・島津但馬久風傳ニ長崎奉行令」、如レ例、

〇十六日、家村氏巡ニ回一島、傳ニ 前太守公之

命勉勸農、家老知覺才兵衛・物奉行前田十九郎・郡奉行田上市郎・羽生嘉右衛門・勸農方阿世知圓右衛門隨焉、今日過住吉村宿于納官村、十七日過油久村宿于坂井村、十八日宿于島間村、十九日過上中之村宿于西之村、廿日過中之村宿于莖永村、廿一日過上里村宿于平山村、廿二日宿于野間村、廿三日宿于増田村、廿四日宿于安城村、廿五日過現和村宿于安納村、廿六日宿于國上村、廿七日歸府城、庄官・村吏各獻謹奉命證書、

○廿九日、公儀流人舞州伊丹卯吉嚮數竊盜、故下之獄、頃日於處々有竊盜、人皆疑卯吉、締方横目大野源五右衛門・鎌田納右衛門、吾横目西村甚五右衛門・羽生仙右衛門捕之訊鞫、竟白下欺番人之幼子得一小刀、經十日穿得獄壁、正月十三日夜竊出獄盜長野休太右衛門金子衣裳、其后夜々於牧瀬長藏宅及大會寺眞乘院處々竊盜、四月十二日夜至雲之城墓所取香

之火焚長野厩之實、事聞于官、

○同日、以西村藏多・遠藤壯兵衛爲勝手方掛、

○五月朔日、唐物締横目福崎平右衛門・附役木山熊助歸、

○三日、慶府士兒玉源五右衛門・野添仲兵衛來、五日赴于島間浦從彼地催船船實水手實等出自官庫、七日赴于屋久島、

○五日、與粽各二束于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、免島間浦之甚五郎旅行、

○七日、以前太守公恩命之辱、家老出書諭三組之士、事開于左、

○三〇九 役所申渡書

追、御家督様可被遊御入興、右付種子島之儀字文武藝其外何様可有之哉与被思召上候得共、銘心掛有之由、中將様御在國之砌被聞召上候段難有奉存候、猶又諸稽古方折角可致出精候、勸農方之儀者郡役其外掛役、每申渡事候得共、風

難水損等到来之事^ニ而、是等者手廣之事故應村人
跡銘、田畑細密致手入致出精候ハ、何様之凶年
逆茂取締方可調之處、左茂無之、早竟頭役之引進
不守之處より自然与御藏方及衰微、御備之御子様
自奉掛御不如意儀、御譜代之詮立兼残念至極、是
より者一統相勵勸農心掛、質素成風俗成立候様可
掛心頭儀、此節御用頼并御役人被差下田舎江者被
仰渡候間、御趣意能々奉汲受、下人下女江茂申
合、作式無油断様可申付旨、三組江不洩様可申渡
候、以上、

五月七日

御役所

御用人

○八日、始令^ニ船奉行司^ニ馬毛島之事[、]

○十四日、上中之村郷土河野傳左衛門釣^ニ于西海岩
ヶ崎^ニ溺死、締方横目大野源五右衛門・鎌田納右
衛門、吾横目種子島次郎左衛門・上妻才次郎檢^ニ

見骸^一、事聞^ニ于^一官^一、

○十六日、以^ニ河内十助・東市太夫・吉良休四郎・

阿世知仲五郎^ニ爲^ニ藏方目附^一、監察米出納^一、

○同日、令^四高奉行司^ニ納^ニ貢稅^一、先是物奉
二行司之

○十七日、安城村日高休右衛門宅火、人馬・手札等
無^レ恙、

○廿六日、上妻良齋寺入五七日、河野嘉兵衛寺入三
七日、良齋爲^ニ覺府茶湯^一、嘉兵衛爲^ニ普請方下吏^一、
共簿書不^レ正故坐^レ之也、

○廿九日、令^ニ上妻新七・美座六太郎・鮫島孫右衛
門・遠藤壯兵衛役^ニ于勝手方^一、以^ニ二人^一爲^レ番
以^ニ六ヶ月^一輪替、

○以^ニ交代船常後^一期、今新定^レ法、事記^ニ于左^一、

○三一〇 役所申渡書

一取拂之面、此元依勤場帳面不相濟、朔日乘船難成
申出候者、早々外^ニ可被成御繰替候、万一急々御
繰替調兼候者跡便より被召登、其内者鹿兒島江相

詰候者乍迷惑被召留罷下候上、御仕ふりニ付御引揚被召仕、後便より罷登候者者御引下可被召仕候、早竟被召延被下候處より其儀ニ而差急候得者、間々遁不申丈之儀者無之筈候、

一御三役諸奉行以下者仕舞兼候与申儀者無之筈候得共、差掛若當病差發、又者親病氣等ニ而乗船難成向共有之節者、前条之振合ニ而是又可相濟候、

一九月交代之儀、差涯之飯米持登無之候而者不相濟段申事候得共、御國高直届之御米并年々早米御取納ニ而、島間より早目御繰登有之候得者、持登無之候而差支無之事、

一人足船津登之儀、順風待三日前罷登、灘木渡海飯搦方下荷積入迄三日ニ被定置事候得共、一日ニ下荷積入不相濟、順風待之當日順風有之候而茂出帆相調向ニ而無之候間、人足登を一日相早め、両日之下荷積ニいたし候者、順風待當日於順風而者直ニ出帆可致儀ニ候、古来者諸事至而速成事ニ而、朔日順風待ニ而朔日ニ出帆いたし候儀、多々為有

之事ニ候、

一風待之定日者、風波之不依善惡乗船いたし、不順風ニ而候者中途用之品迄を卸候而罷帰候者、やはり乗船いたし居候心持ニ而、當日之出帆速ニ可有之候、

一右通被定置候而茂不相替延々ニ相成候者、夏詰者五月、冬詰者十一月相成上着いたし候者、交代不被仰付詰越之筋被相定候、

右之条々、御時節柄少事迄茂折角御入費薄方并末々之者者不致迷惑様無之而不叶儀候、其上御改革付而者目ニ不見得御損亡大分之儀ニ候間、右之通被相定候条、此等之趣相掛向々江可被申渡置候、以上、

天保八年酉五月

御役所

御物奉行

御用人

○國老菱刈安房隆觀命、大坂流人見、放此地、来、事開于左、

○三一 菱刈隆觀申渡書

此節大坂より流人被遣候、警固人等申附西目筋被差遣管候、左候而右乗船京泊江致着船候上、直屋久島江十三四人、種子島江十式三人、人数分を以被遣、所之者共江夫、預申付管候条、去巳年被遣候振合を以配所等之手當可有之候、右ニ付取締向之儀者追而可申渡候、此旨屋久島奉行・種子島伊勢名跡江可申渡候、

五月

(菱刈隆觀)
安房

○官令レ納ニ虎丸船頭吉次郎・西市街之仲兵衛・島間浦之幸助・浦田浦之一作・庄司浦之小平次・東市街之弥助各科錢二百文、池田浦之三吉科錢一貫文、坐私商海人草・山帰来等也、
○奉淨光明寺救火士之命、事開于左、

○三二 島津久風申渡書写
但馬殿より被相渡候御書付之写

写

種子島伊勢名跡

右、淨光明寺火消入来院平馬江被仰付置候得共、被成御免、代右之通被仰付候条、次渡等可有之旨申渡、可承向江茂可申渡候、

五月

(島津久風)
但馬

○按察一向宗告于官、如例、

○六月四日、本信院日香從屋久島来入院于大會寺、

○九日、西之村之權太郎偷遠藤七郎左衛門米繫、率百日、

○十一日、夜盜偷下西之表村孫四郎甘藷、孫四郎追之、盜以腰刀傷孫四郎三創、即令横目搜索不得、

○十五日、以野間仲左衛門爲船奉行、下村源

之允馬役、

○廿二日、家村氏婦以_レ無_二順風_一、乘_二漁舟_一、

○廿四日、會所番人上妻太代寺_二入于本法寺_一、作_レ簿過_レ期不_レ成坐_二緩怠_一也、

○同日、廿人樋口長五郎逼塞五七日、以_二長五郎宅_一爲_二横目玉利喜左衛門旅館_一坐_二接對之甚疎闊_一也、

○於_二大坂_一物奉行上妻小左衛門上書請_下運_二漕於種子嶋所_一製砂糖于大坂_一納_中于_上官庫_上、事記_二于左_一、

○三三 上妻定直口上覺

口上覺

種子島砂糖新製之儀、先年難默止奉訴候處、難有御免被 仰付置、年々製法相調候得共、冬より翌早春_二相掛舟_一積入、島元詰御横目様御見分繩張御封印_二而、積登砂糖御蔵江上納仕、夫より御物御計を以大坂御仕登被仰付、右_二相掛諸雜費之儀

者御拂_二相成候上、砂糖代銀之内より御差引被仰付、餘者被成下難有仕合奉存候、然處島元之儀者鹿兒島江仕登之順風少有、就中冬向_二三者猶又無之場所御坐候處、乍漸積登砂糖蔵江上納仕、夫より便船之都合を以御仕登被仰付事御座候得者、山川御改鹿兒島上納旁殊之外日延_二相成、乍残念時分後_二相成、至而及心痛次第御座候、依之恐_レ至極奉存候得共、年々砂糖製相調之上、島元より直_二大坂江自舟を以積登、大坂御蔵江上納被仰付、是迄之通御拂被仰付被下度奉願候、左様御座候得者、島元より船中御取締等之向度被為在筈与乍恐奉存候間、別段御掛役様御下島無御座候而不被為叶儀共候ハ、御往来御乗船并御扶持米等之儀者、御物御出方不被為及様、屋敷蔵方より御法様之通御渡方被仰付被下度奉願候、左候得者、鹿兒島迄之運賃彼是難_レ淡_レ無御座、猶又難有奉存候間、御時節柄恐入奉存候得共、何とそ旁御取訳を以御免被仰付被下度、左候而砂糖御拂方之儀者、御物江差

障不申様被 仰付被下度奉願候、此等之段被仰上可被下儀奉頼候、以上、

種子島役人代 上妻(定直)小左衛門

六月

大坂詰

御聞役御書役衆中

○國老菱刈安房隆観命ニ流人姓名及法律處置等ニ、事記于左、

○三一四 流人江可申聞覚

流人江可申聞覚

一 亀佑・佑松・安藏・伊之助・法随・富右衛門・岩佑・熊佑・友佑・咲藏・岩佑・仁平次・野婦・助次儀、種子島江被遣候条可得其意事、

一一類共江致書通儀堅令停止候事、

一 差置候島より外之所江罷越候儀者勿論、湊内ニ而茂船ニ乗候儀堅令停止候事、

右条々、預主江茂委細申渡置候条、聊違背仕間敷者也、

天保八年酉六月

○三一五 菱刈隆観申渡書写

安房殿より被相渡候御書付之写

種子島伊勢名跡江

真言宗

無宿尾谷之
酉式拾四才

亀佑

法華宗

無宿平蔵事
酉式拾三才

佑松

一向宗

無宿神戸
酉拾八才

安藏

浄土宗

無宿茶船乗之
酉廿九才

伊之助

一向宗

秋元但馬守領分
河州丹北郡東代村
一向宗浄土宗看病
酉三拾七才

法随

浄土宗

堺北御切前通
藏本屋跡兵衛
借屋金藏
酉三拾六才

富右衛門

浄土宗

無宿堺之
酉廿四才

岩佑

浄土宗

無宿燈灯之
酉廿三才

熊佑

浄土宗

無宿黒之
酉廿七才

友佑

一向宗 無宿穢多之
四廿一才 咲藏

一向宗 藤森町 深堀屋利兵衛借屋
破屋 四拾貳才 岩佶

一向宗 無宿穢多
酉三十一才 野婦

一向宗 無宿土生之
酉廿九才 助次

合拾四人種子島江被遣候、

右者、大坂より被差越候公儀流人右島江被遣、所
之者共江銘、預申付候条、此已前被差越候流人同
様之向、取計稠敷召仕候様可申付候、左候而預候
者名前可差越候、尤右島之内諸船出入等少キ所江
見合、可成丈住所を隔可差置候、委細條書を以申
渡候趣并流人江申聞候様、預候者者勿論所中之者
共江可申聞置候、

一 種子島江流人船致着候ハ、宰領横目より流人配
所之場所且預人名前承、流人并所持道具等可引渡
候間、締方横目・所役人出會、諸事申談、無手拔
様可相請取候、

(コノ間仁平次ノ記載ヲ欠之)

一 後年札改ニ付手札申請咎候間、其通可相心得候、

一 前文安藏・法隨・富右衛門・咲藏・岩佶・仁平次

・野婦・助次儀、一向宗ニ付京泊江着船之上淨土

宗ニ改宗申付咎候間、後年手札申請候節、一向宗

之訳肩書御法之通可申付候、

右之通可被申渡旨申渡、左候而後年札改ニ付手

札申請候節者、證文御法之通伊勢名跡江申渡、

如例手札被申付候儀共御勘定奉行江茂申渡、可

承向江茂可申渡候、

六月

(參列條題)
安房

○七月朔日、與ニ米各ニ斗船頭吉之允・仁三太及水

手一、以下送ニ家村氏赴中于覺府上也、

○七日、家老種子島平左衛門拜三日深公鑑一、如

例、

○同日、以ニ住吉村足輕阿世知源之進ニ爲ニ代々郷

士一、以ニ納ニ錢五十貫文一也、

○同日、松壽院殿善三諸有司奉ニ 前太守公恩命一、

能守其職、出書諭之、其言曰、

○三二六 松寿院覚

覚

一此節

中将様御沙汰之趣ニ付、種子島ニ而申渡ニ相成候
始末、三原家其外用頼衆出會之席ニ、私ニも罷出
候様三原家より承候得共、女更之儀再三相断候得
共、是非罷出候様承、難黙止出席之上段々之儀承
候處、島元御役々を始下々至迄 御趣意之趣厚奉
汲受趣、家村殿其御元より再々被申上、私迄茂仕
合存申候、此上者往々最通候儀肝心之事与三原殿
被申事、其上御役人者勿論御物奉行此涯迄与致精
勤、作式之儀者郡奉行引受之儀ニ而、勤ぶりニよ
り損益有之事与三原殿被申、先比罷登候市郎・嘉
右衛門能引受、殊更老功ニ而其外之郡奉行中茂申
合、皆々我物ニ引受精勤有之筋、當分者御名跡之
儀丈々入方茂薄く、只今之内ニ御立直無之候而

者、江戸江申訳茂無之次第、此節島元之首尾三原
殿江戸江被申上由候得共、私より茂申上候様承、
旁ニ付御物奉行衆を始市郎・嘉右衛門其外郡奉行
衆江茂一涯致精勤被呉候様願之趣、其御元より御
頼越給度宜敷取計可被給候、

七月七日

松壽院

知覽才兵衛殿
(行寛)

○八日、家老西村甚五大夫時員於大會寺一祭祖先
及宗祖・戰死之靈、

○十日、鬼界島流人藩御小姓與德田喜右衛門及重富人一
人・指宿人一人乘小舟漂到于安城村、舟中
載桶一・鍋一・衣裳一包、村吏問其由及飢
言語不通、作粥食之、締方横目大野源五右衛
門・鎌田納右衛門、吾横目西村七郎・種子島五郎
衛門至彼地一鞠問之、其言甚胡乱也、竟謂
盜舟出奔、即召于赤尾木、德田氏居于西之

表假屋一使_二足輕護_レ之_二二人者囚_レ牢促_二飛船_一告_二于官_一、

○十二日、以_二野間龍之助・梶原八左衛門_一爲_二兵具奉行_一、

○同日、以_二阿世知圓右衛門_一爲_二山奉行_一、家格如_レ故、以_レ勤_二勞于勝手方及勸農方_一也、

○同日、加_二與扶持米各九斗吉良休四郎・阿世知仲五郎_一、賞_下爲_二船手檢者_一勤勞_上也、

○同日、加_二與扶持高五石于家老前田太兵衛宗周_一、賞_二多年勤勞且老年不_レ厭_レ寒役_一于覺府_一也、

○同日、以_二羽生平之進_一爲_二普請奉行_一與_二米一石_一、賞_下爲_二多年政府筆吏_一勤勞_上也、

○十三日、現和村庄司浦之漁舟從_二大泊_一帰告曰、異國船到_二来于山川兒ヶ水之邊_一、從_二本府_一發_二軍勢_一警_二衛處々_一、於_二大泊_一亦以_二三百人許_一備_二不虞_一、吾曹爲_レ告_レ之犯_二風浪_一帰来云、於_レ是召_二組頭_一・横目于政府_一議_二不虞之備_一、十四日已刻國上村以_二急使_一告曰、馬毛島與_二屋久島_一之際見_二一巨

船_一、住吉村亦告_レ之、故會_二政府_一定_二其備_一、及_レ晚從_二國上村_一告曰、既向_二西洋_一奔不_レ知_二其行處_一、

○同日、家老種子島平左衛門時甫於_二慈遠寺_一祭_二先祖及戰死靈_一、

○十四日、家老_{失姓名}詣_二于本源寺_一祭_二宗祖_一、

○十六日、家老於_二本源寺_一方丈_一祭_二先祖及戰死靈_一、

○十七日、覺邸之家老贈_二書告_一異國船漂_二来于佐多之洋_一、且傳_下異國方掛之命_上國老島津但馬久風卒土卒成山川兒ヶ水備不虞云

事開_二于左_一、

○三一七 鹿兒島役所覺

覺

御封箱一

吳國方掛

右、去十日白帆船老艘佐多之沖方_二致漂流候_一付、其御元より不相見得候哉、見得候ハ、仰渡通相守、手拔者無之筈との御問合之由、口達を以被仰渡候、右船者兒ヶ水沖江碇を卸候由_二

而、掛御家老初御出張有之、此元茂大騒働ニ而

御座候、然共無難ニ出帆いたし候、追々御引取

ニ相成申由、此段為御納得御問合申越候、以

上、

西七月十七日

かこしま

御役所

たね
御役所

○三二八 異国船掛申渡書

去十日佐多冲江白帆之船壹艘相見得、洋中方々漂

流ニ付、島役々等昼夜浦近ク相詰、帆蔭相見得候

ハ、兼而申渡置候通飛船取仕立早速可申越候、萬

一心得違異船地方江寄付候而者 御難題相掛事候

条、聊大形存問敷候、且密々橋船を陸江寄、人家

迦江異國人卸置候儀茂難計候間、旁得其意、緩之

儀無之様精々可入念旨、不洩様屹与島中江可申渡

者也、

七月十五日

吳國船掛印

種子島

役人

右可有返納也、

○十八日、現和村庄官榎本貞七、横目羽生市郎・鮫

島周之允・榎本善左衛門寺ニ入于淨光寺一各五七

日、坐レ令諸人漫毀ニ犀川仁平太及庄司浦吉之允

家一也、

○廿三日、宇多津傳次郎及池田浦之周左衛門・甚吉

下レ獄、以下去歲運漕米于覺府・宇多津傳次郎船

遭難風漂流于國上村之事有不正之説上、捕ニ

傳次郎及周左衛門・甚吉ニ而拷問之、竟吐ニ露

其實一曰、逗ニ留于山川之日、傳次郎・周左衛門

為ニ博奕ニ不レ勝、囊中錢殆盡、故竊竊ニ所レ載倉米

少計、以其價ニ再博奕、又不レ勝、錢又盡、於レ

是舟中竊相議賣ニ米六十石餘於指宿十二町村農夫

長藏及某ニ失、而資ニ七十八金餘一分ニ與十金ニ步

于周左衛門、十金于甚吉、初及鬻米為博奕、

甚吉謂兩人云、冒大禁則受嚴刑、宜輟

之、傳次郎曰、今三人者如骨肉、宜為一

致、及配二分米價又甚吉謂傳次郎云、為是

小金奚可捨一命乎、不_レ受、二人頻強而受

之、嚮稱難船者、擇西風烈之日、以發山川

港、偽為難船者也、故直下三人于獄、聞

白狀之趣于官、

○廿六日、令_レ毀_二犀川及吉之允家_一徒修_中道路_上三七日、

○令_二家老前田太兵衛宗周與_二聽勝手方之事_一、

○按_二察鬼利支丹宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○八月朔日、與_二中紙各_一束于慈遠寺・大會寺、

二箇寺亦獻_二同品_一、

○同日、官命_二以_二飛船_一可_レ護_中送漂_三來于安城村_一流人_上、

○六日、所_レ藏名寄之箱、生虫壞御名寄表、故

遣_二郡奉行鮫島孫右衛門于本府_一謝_レ之、事開_二于

左、

○三一九 役所覺

三一九の上

此節御名寄帳江虫入有之、何共驚入次第、

御上御法樣茂存不申候間、御聞合之上宜敷御取計

可被下候、依而鮫島孫右衛門為演說出府申渡候

間、細_レ御聞通可被成候、此旨御掛合申越候、

八月六日

御役所

御座

三一九の上

得其意候、御勘定所御支配之事候間、内分北條

吉左衛門様江御内意申上候處、幸御掛之事故極

内分_二而同役江茂可相談与之事候處、當分之虫

付迄_二而者御帳内江不相掛候ハ、御精書_二も及

間敷、差上候節者差扣へ伺候得者、御科目相濟

候先例茂有之由、御帳面江相掛及御精書程之事

ニ而候ハ、御科目可被仰付御例之由、是より入念虫喰無之様、當分之俵ニ而候ハ、後年御用之節差扣、相同被差出候而可被宜与吉左衛門様より致承知候、委細者孫右衛門より申出候」

(本文書ハ三一九の一号文書ノ行間ニアリ)

○十日、馬追、家老日高源右衛門為武、物奉行平山新兵衛、用人前田新五兵衛、馬役岩河九郎助・知覽才之允・日高周左衛門・笹川九兵衛、

○同日、本府横目種子田源助自屋久島護送流人一、家老前田太兵衛・西村甚五太夫迎接之、

○同日、與米一石于島間浦野町人清六、令彼船送家村氏、無順風故数月留滞、清六不挾于意能奉命、故賞之也、

○十五日、蓮勝寺献上、如例、

○同日夜、大風、

○十六日、與米二斗于島間浦野町人清六、以彼

漁舟一告急于覺府七日而往来、賞之也、

○廿五日、以凶歲免大山野租稅、

○同日、促飛船使下足輕護送來于安城村、喜界島流人三人于本府上、

○同日、本府横目種子田源助帰、

○以平山傳一郎武世為家老、以多病免旅行、歲賜銀三枚、

○官命設津口番所于高山一點察大坂往来船之載貨、事記于左、

○三二〇 島津久風達書

種子島

外郷略ス

右 高山江

右、御領國諸浦より大坂江積登候商荷手形等印鑑不持登品茂有之段相聞得候ニ付、右所江手形所相立候条、以来輕品迎茂都而印鑑等相渡、緩之儀無之様可取計旨、向江不洩様可申渡候、

但何月何日より手形可差出与之趣者、追而規模帳相渡候節何分可申渡候間、其内仕向之儀者是迄之通可相心得候、

八月

(島津久風) 但馬

○九月八日、公義流人藤吉配所増田竊盜、故囚_レ牢、

○九日、令_三美座十左衛門講_一法令書_一、如_レ例、

○十一日、締方横目三崎嘉之助・鎌田宇右衛門來、

○十四日、先_レ是運漕米于本府_一則令_三士一人鑑_二船

中、中間止_レ之、今日議復_レ舊、

○官定_三公義流人撰州伊丹之卯吉罪刑_一、事開_三于左、

○三三二 島津久明久申渡書

於種子島半日さらし

即日於同所

磔

無宿伊丹之

卯吉

右、去巳年種子島預申付置、致小盜等候_三付牢込

申付置候處、幼少之子をたまし、折小刀貰受牢を切抜、當正月已來追、拔出、家來長野休太右衛門所外三ヶ所江忍入、衣類并金子盜取又者着火いたし騒働之紛盜之存念_三而、右休太右衛門馬屋江致着火候處、多人數馳付、何品も不盜得、本之通牢中江忍居候旨、糺方之上致白状、右仕形重疊別而不届至極_三付、右之通被行磔候、

右之通、於種子島手沙汰仕置可被申付候、尤科之儀讀聞、右之通不届_三付而者、國法通取行候様、公儀より被仰渡候段申聞候上、仕置取行候様私領役、江可申越旨、種子島伊勢名跡江可申渡候、

但卯吉仕置不相濟内者、猶又番人等付置、役々差廻り、不締之儀共一切無之様取計置、別紙日取之内見合仕置可被申付候、左候而取扱相濟候ハ、其届無延引被申出、所持道具片付方之儀者可被得差圖旨を茂可申渡候、

九月 (島津久澄) 伊勢

天保八百年

御仕置者日取

九月

廿五日

十月

廿一日

廿七日

十一月

廿一日

廿七日

十二月

四日

九日

十六日

以上

○三三二 菱刈隆観口達書写

(兼別達書)

安房殿より被相渡候御口達書之写

別紙無宿伊丹卯吉事、度々牢を破拔出、於諸所盜

致着火候不届三付、科目之儀者別紙申渡通三候、

右三付而者、番人共兼而緩せ之處より右次第三お

よひ、種子島役々取締不行届大形之至候条、牢屋

番人者勿論、取締向三相掛候役々都而家法通屹与

科目可被申付候、尤科目之儀者被得差圖候上被申

渡、追而其届可被申出候、且又向後牢屋取締厳格
取扱、番人等堅固付置、万端無手拔様可被取計
旨、種子島伊勢名跡江可申渡事、

○廿四日、松壽院殿患三慈遠寺焼失後無三再興一、
欲三自與三聴家事三之内再三興之一、故覺邸家老
贈書、事開三于左一、

○三三三 鹿兒島役所覚

覚

慈遠寺之儀、焼失以後方丈大坊出来いたし候迄三
而、是迄長々造立不相調、松壽院様甚御氣之毒
被思召上、何卒近年中造営有之度御島中人躰心持
三而、應分限致寄進候ハ、少々助勢三茂可相成、
御自身三茂應分限御寄進可被遊段被仰出候三付、
取のき頼母子等之打立を茂いたし居候段申上候
處、頼母子金致成就候上造立三而者甚年数相延、
御家督様不被為入内御造立有之度、大切之御祈願

所之事故、今形ニ而 御家督様江御讓被遊候儀至
極御残念ニ被思召上候故、何卒近年中致出来候様
取計茂相調問敷哉之旨被仰出、御尤之儀奉存、種
子島吟味可申越旨申上置候間、得与御吟味被成候
而何分被仰越度御座候、委細十郎右衛門殿演説可
有之候、以上、

九月廿四日

かこしま

御役所

たね
御座

○廿七日、令_レ檢使目附羽生仙右衛門・上妻才次郎
・物頭西村惣次・渡邊長助礫_二流人卯吉于能野
濱、

○廿八日、以_二圓光院日孝_一爲_二本源寺住職、

○横目美座十左衛門・種子島次郎左衛門・西村甚五
右衛門上疏、告_レ大會寺住職本信院日香好_二飲酒
事_一醉狂_二淫_二于婦人_一、其行盡背_レ法于_レ官上、事
開_二于左_一、

○三二四 上妻宗敏外二名連署覽

覺

種子島

本信院日香

右者、先達而我、勤方ニ付慈遠寺塔中山之寺与申
所江相詰居申候處、慈遠寺内を醉狂之躰与相見
得、聲高ニ呼申躰相聞得候得共、勤方繁多之砌ニ
而其儘召置申候處、夕方慈遠寺門前ニ而聲高ニ人
を叱打擲ニ而茂仕躰相聞得申候ニ付、早速私共三
人其場江差越見申候處、大會寺住持、油久村藤次
郎与申者を引伏、散々打擲いたし居候ニ付、則右
住持并藤次郎召呼、始終之次第相糺申候處、道端
馬繫有之、右之藤次郎江脇江引退候様本信院より
相達候ニ付、私馬ニ而者無之候得共引退可申由、
右之者脊中ニ物を負居申候ニ付、急ニ引退申儀相
調不申、些遅成申候處、本信院直ニ引伏、繫居候
繩を以打擲仕候由、藤次郎より申出候ニ付、本信
院相糺申候處、弥其通ニ而為有之由申事御座候ニ

付、我々より本信院江相達申候者、只今其方申出候ニ而者、藤次郎打擲いたす程之事ニ而茂無之、出家之法ニ付而者右通可取計者候哉、萬一急所ニ而茂打候ハ、甚不輕儀、如何相心得居候哉之旨相達申候得者、本信院相答申候者、自分ニ者寺社方より為被差遣事故、何様取計候而茂不苦者之由、其外悪言雜言無道之返答、誠言語同断、住職ニ而茂相勸申者之返答共相見得不申處より、翌日大會寺役僧を以、本信院江昨日之申出酒狂之上ニ而為申事ニ而茂無之哉之旨相糺申候處、何ぞ酒狂之上為申事ニ而茂無之由返答承届申候、且又兼々婦人酒宴之席中杯江立交リ狂奇乱舞仕、俗家江無用之處江徘徊仕、甚任職ニ而茂相勸候者之致方ニ而無御座候間、御法様次第被仰付度、此段御披露仕候、以上、

美座十左衛門

九月

種子島次郎左衛門

大目附座

御目附衆中

上妻才次郎(宗也)

○官以本府家来白男川良雲ニ爲郡山一代郷士、
○國老島津但馬久風・島津伊勢久明・菱刈安房隆觀傳ニ縣官之命、禁商唐貨、開于左、

○三三五 菱刈隆觀外二名連署達書

琉球國より相廻り候唐物十六種、依御願去申年於長崎是迄之通御賣捌(賣カ)之校、去午年被仰出置候處、長崎會所之儀近来御繰合不宜、既御定之上納茂不少不納有之、土地相續茂無覺束程之時宜ニ及候ニ付、今般寛政之度ニ振合ニ復し、嚴敷御取締向御作法被仰出、就而者琉球産物御賣捌之儀、長崎交易方對格別差障候様相聞得候間、兼而御達被成置候年限中ニ候得共、已来右賣捌御差止相成候様、尤此節直ニ御差止候ハ、遠海掛ケ隔リ代リ物引

合等差支之次第も有之儀候ニ付、来々亥年より御差止之積相見得、其旨琉球國江申渡、勿論抜荷筋取締之儀弥嚴重可被仰渡旨、從公儀被仰渡候ニ付、抜荷等一切無之様一涯稠敷取締可致候、此旨支配頭・主人より屹与申聞、諸郷・私領之儀も其所役々より可申聞候、

(島津久風)
但馬

九月

(島津久浮)
伊勢
(兼刈盛重)
安房

○按三察一向宗告于官、如レ例、

○十月朔日、以三正善院一爲三日輪寺住職、

○四日、與三白銀二兩于平山村宿羽生九十郎、嘗將

運漕米于本府、關三監船官司、時九十郎爲レ納

貢税ニ至三於島間港、物奉行以三九十郎宛レ之斯

奉レ命赴三于本府、故賞レ之也、

○五日、以三西村九郎爲用人、船奉行如故

○六日、與三米二斗于島間浦漁夫清四郎、令三彼船運漕米于本府、敢不損三米苞、故賞レ之也、

○八日、家老森十郎右衛門友諒死、

○九日、家老日高源右衛門爲武詣于本源寺、盛

供三宗祖日蓮三菓子上、

○十一日、家老平山傳一郎武世詣于本源寺、十

三日、家老日高源右衛門爲武詣于本源寺共祭一

宗祖日蓮、

○十五日、以三現和村浅川之周五郎盜三西村甚五太

夫所レ植之黍一、囚レ牢、

○同日、嚮家老知覺才兵衛上疏、請_下載於三種子

島所レ製砂糖于自家船上、從三山川一運之漕于大

坂_甲、今日見レ許レ之、事開三于左、

○三二六 知覽行寬願書

(三六のし)
種子島伊勢名跡所帶方、近年吉凶之入價打續連、

不練合相成候ニ付、今形ニ而者往々取補之手便見

得兼、且種子島之儀者全跡端島ニ而格別之産物逆

茂無御座、年柄風旱災殃等之節者、作毛大分之及引入候場所御座候故、往古より難有 御免被仰付置候出米代銀上納等茂別而及難波候間、彼是取補可被成趣意を以先年砂糖製法奉願、難有 御免被仰付、是迄黍作相應殖増製法方相濟候得者、年々御當地砂糖御蔵迄為積登、御改之上直ニ大坂仕登被仰付、御拂相成候上、右代銀置付持高出米代銀上納之方江御振向御引結被仰付被下來、難有仕合奉存候、然處出米代銀之儀者、年々五月限上納被仰付置候間、砂糖仕登船及遲着候節者間ニ逢不申候間、右上納金於大坂才覚仕、乍漸當借を以上納仕置、跡以御拂相成候節返金仕候儀茂有之候處、當時大坂表金銀不通融之折柄、問屋之儀全躰手薄者ニ御座候得者、此末御限月返上納方相逐候儀混雜仕向茂難計、別而及心配罷在候、依之御時節柄御訴訟筋恐入奉存候得共、前文之通當地迄為積登砂糖、御蔵御改之上上坂仕申候而者日込ニ相及、夫長者延着可相成儀与奉存候間、山川迄積登、砂

糖方御出張御改之上、積荷御改之儀者何様共御吟味次第被仰付可被下候、左候而大坂仕登手續キニ付而者、砂糖御蔵御取扱御同様被仰付、山川より直ニ上坂被仰付被下度奉願上候、左様候ハ、夫長者着坂も早目ニ而、出米代銀上納勿論彼是差繰共可相成奉存候間、何とそ旁御取訳を以、奉願上候通 御免被仰付被下度奉訴候、此等之段被仰上可被下儀奉頼候、以上、

種子島役人

(行寛)
知覽才兵衛

九月十六日

(三六の二)
右之通申出趣、種子島伊勢名跡親類市田主税被承届、掛御用人江茂被及御相談、此段私より申出候様被申付候、

用頼代

家村清兵衛

西九月十六日

(三六の3)
張紙

此表向くしらへ之向を以、願之通申付候条、如
例可被申渡者也、

酉十月十五日

御勝手方印

取次

吉利主馬

○廿一日、官令此地水手五郎太納科錢一貫
文、爲今井鹿三次所司金剛丸水手赴于徳之
島、竊買牛皮商之大坂、故坐之也、

○廿七日、締方横目大野源五右衛門・鎌田納右衛門
帰、

○褒詞嘗以勝手手方之催促納米錢助府庫輩、
如左、

上西之表村長山市之進錢十貫文、中西之表村吉留
仁左衛門十貫文、榎本彦次郎四百四十八文、坂井
村古市源左衛門十四貫四百文、住吉村能野甚吉二
貫文、莖永村日高仁左衛門米六升、日高勘左衛門

六升・木綿布七尋、坂井村安尾仁左衛門錢八貫百
文、下西之表村長野平治二貫六百元、上里村有留
有右衛門二貫二百四十八文・米一石、西之村犀川
基藏七百元、名越惣四郎九貫七百元、野間村川野
休太郎二百文、柳田淀七二十九貫三百文、下西之
表村大瀬金次郎十貫八百文、納官村平野平左衛門
三十貫文、西之村日高善助五十貫文、下西之表村
上妻三之進七貫二百文、莖永村馬場惣太郎七貫二
百元、中西之表村岩原彦七一貫文、上西之表上成
傳左衛門五貫文、中西之表村諸人六貫文、小牧野
之庄右衛門一貫文、上西之表諸人十八貫四百文、
川迎之諸人十貫百文、城小牧野諸人六貫三百文、
古田村諸人二貫文、安城村諸人三十六貫四百八十
一文、安納村諸人四十二貫四百四十八文、中之村
諸人真米二石七斗九升九合・赤米二石六斗二升八
合、住吉村諸人三十三貫四百三十六文、能野之新
藏五貫文、野間村諸人五十一貫八百三十文・米一
石八斗五升八合、牧川諸人十五貫三百文、平山村

諸人五十四貫六百六十四文、上里村諸人十貫四百文、國上村諸人八貫六十三文・福多目一石三斗三升五合、増田村諸人五貫二百文、油久村諸人二十五貫百文、西之村諸人二十八貫六百文、島間村村吏二十七貫四百文・米一石四斗一升八合、河迎之文次郎七貫二百文、納官村諸人四十三貫三百七十文、現和村諸人三十六貫百文、坂井村諸人二十五貫四百文、西俣之源七百文、莖永村諸人百五貫五百五十五文、西市街十七貫五百文、市人榎本新四郎四十九貫三百文、榎本甚五左衛門九百文、榎本長五郎十貫文、東市街五十二貫六十四文、洲之崎浦二貫六百文、島間浦之清六十四貫四百文、濱津脇浦之清六二十一貫六百文、同所嘉兵衛七貫二百文、孫左衛門二十八貫八百文、寛事院一貫八百文、美座七郎右衛門七貫二百文、美座十左衛門二十八貫八百文、河東三兵衛二貫二百七十二文、羽生嘉右衛門七貫六百文、阿世知圓右衛門七貫二百文、下村惣太郎一貫八百文、濱田盛右衛門十四貫

四百文、長野休太右衛門十貫三百四十八文、池野順悅二貫文、羽生六郎左衛門米一石、上妻新七六升六合、本源寺僧吏錢十四貫文、大會寺僧吏米五斗、惣計錢千二百二十三貫八百六十四文・米十一石八升九合・木綿布七尋・貝醃(鹽之)一石三斗三升五合、
○十一月四日、赦坂井村之市太郎_{牢出}、
○八日、横目新納主左衛門、附役濱田常右衛門來、
○同日、下中之村道具番足輕古市勘太郎納科炭三苞、在獄中一者為賭_賭賞_受金子一步二朱、為牢衛事不正、坐_之之也、
○十四日、遠藤八次以不正之行_寺入于本善寺、
○十五日、赤米一石二斗與須之崎・池田・海土泊(土)于三浦、近年覺郎大有修補運送不_一、亦去秋以來飛舟屢往來覺郎、有風浪三浦殆勤勞、以此賞_之之也、
○十九日、油久村平五郎免獄為西之村立石塩戸之僕、

- 廿八日、羽生礼袈婆元服改_二字仙藏_一、獻太刀一腰・馬代銀_一、賜_二盃酒及的矢一手_一、加冠名代家老日高源右衛門為武・家老種子島平左衛門時甫、理髮物奉行前田十九郎宗恭、奏者用人前田新五兵衛宗誠、侍席物奉行用人_{失姓}。
- 同日、羽生管矢初謁見獻_二征矢一手_一、名代家老并三役_{失姓}。
- 十一月、現和村羽生伊三次納_二科錢三百文_一、以_レ有不正之事_一也。
- 按_二察一向宗_一告于_二官_一、如_レ例。
- 十二月三日、赦_二竹崎浦之庄太郎旅行_一。
- 同日、横目玉利喜左衛門、附役永井主左衛門焔。
- 八日、奉_二官命_一送_二東市街宇多津傳次郎・波見之周左衛門・池田浦之甚吉于本府_一、舟中設_レ牢囚_レ之且令_レ足輕四人警_レ衛_レ之。
- 十一日、遠藤八次有_レ罪令_レ寺_三入于本善寺_一、然聞_レ有_二不守法_一漫與_二世人_一交通_レ、故召_二親戚_一者命_レ教_レ諭_レ之、以慎可_レ令_レ守_レ法。

- 十二日、平山傳一郎武世嫡子平山百助元服、賜_二字唯七_一、獻賜如_レ例、二男藤一郎初目見、諸式如_レ例。
- 十三日、上妻新七獻餅、如_レ例。
- 十四日、與_二牛馬皮運上銀各六十二貫五百文于森周八與_一前田十九郎、賞_レ父十郎右衛門・十九郎共_二以小祿_一數年勤勞_レ也。
- 十九日、第二女子嫁_二鎌田木工之允_一、幣帛有_レ差、就中_二前太守公嘗有命_一、當_レ行_レ婚之日必以_二佳品_一助_レ禮、故謹請_レ之、即賜_二狩野家三幅對画軸_一、以_レ之贈_レ之、於_二島津家_一亦然。
- 日悟公逝去之後、以_レ無_二家督_一當_二初狩_一・的始・馬追等_一、省_二名代_一以_二家老_一役_レ之、而禮如_レ不當然、故今議定復_レ舊、又的始之日、以來名代手自與_二目祿于射手_一自_レ今以_二奏者_一與_レ之。
- 同日、與_二白銀一兩上中之村中之塩戸之子權次郎_一、屋久人来雖_レ訴_レ借_レ船敢不_レ借、能守_レ法、賞_レ之也。

○同日、上中之村中之塩戸之長市納_二科錢二百文_一、密渡_二海于屋久島_一、坐_レ之也、

○同日、野間村下田之嘉兵衛納_二科錢三百文_一、住吉浦之六藏同_二三百文_一、密渡_二海于志布志_一、坐_レ之也、

○同日、上中之村中之塩屋之休藏召_二揚船_一留_二旅_一行_二三年_一、屋久人之設_レ宿買_二與米_一、密渡_二海于屋久島_一、以_レ此坐_レ之也、

○同日、東市街之池田休太郎納_二科錢一貫文_一留_二旅_一行_二三年_一、自_二住吉浦_一借_レ船為_二商賣_一密渡_二海于志布志_一、亦積_二西瓜_一密渡_二海于屋久島_一、故坐_レ之也、

○同日、莖永村岩坪善之進寺_二入安納村本蓮寺_一一年、屋久嶋人買_二與米_一亦賣_二自米_一、以_レ此坐_レ之也、

○廿七日、三箇寺・廿人・鍛治進上、如_レ例、

○廿八日、美座織太郎・渡邊勘七初謁見、獻_二征矢一手_一、名代家老并_二三役_一失姓

○同日、下村十郎・下村源助初謁見、獻_二火繩拾曲_一、名代家老并_二三役_一失姓名

○廿九日、奉_二官命_一幽_二大會寺住職本信院日香于野間村_一田島本來院私室、事開_レ左、

○三三七 末川久平申渡書

長州諦玄寺日經弟子慧了當分
種子島大會寺住職

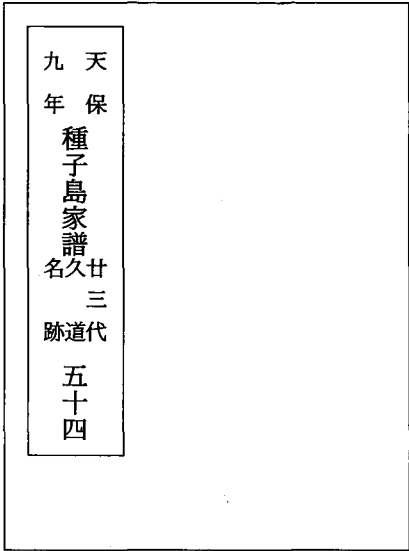
本信院日香

右者、聞得之趣有之候得共此節迄者不及沙汰、種子島之内小庵隱居困入被仰付候間、食物等所在合を為給、番人召仕不及、兼而役、可致見締旨被申渡候様、種子島伊勢名跡親類江可申渡候也、

十二月
末川公平
主水

○歲暮、規式、如_レ例、

(表紙)



- 天保九年戊戌正月元日、國上村獻_二野老_一、
- 二日、覽_レ馬、名代家老_{失姓}、馬役岩河九郎助、
- 同日、國上村獻_二瀬物_一、現和村庄司浦獻_レ鱧、
- 同日、八箇寺獻上、如_レ例、
- 四日、上之郡庄官・小觸獻上、如_レ例、
- 同日、古田村百姓兵太郎於_二處々_一、或竊盜、或博奕、故坐下_二于獄_三于茲_一、然未_レ改_二其志_一而

於_二獄中_一亦博奕、其罪尤重、以_レ是訴_二之於_一官、而處_二之於遠島_一、

- 六日、初狩、組頭西村七郎時民・上妻才次郎宗敏・下村惣太郎時憲、山奉行美座矢太郎・官浦藤九郎・知覽_レ弥兵衛・遠藤壯兵衛、夕狩場、名代家老平山傳一郎武世、物奉行平山新兵衛武雄、用人前田新五兵衛宗誠、西之表庄官獻上、如_レ例、

○七日、中之郡・下之郡庄官獻上、如_レ例、

- 同日、官傳_レ以_二野間村之鎌田藤市有_レ罪警繫_二評定所_一之命上、開_二于左_一、

○三二八 川上翁助達書

種子嶋_{本之伊勢}名跡家来鎌田喜七

二男當分中村肇一往抱家来

鎌田藤市

右者、於評定所被召込候条、早々役人・横目立會、家財相改親類與中杯_レ堅固_二預置_一、帳面卷冊相調可差越候、右_二付文案差越候条得_レ与見届、案

紙之趣を以可相記候、

一右ニ付親類付御用候間、委數相記帳面卷冊可差越、是又案文之通差越候条、得与見届案文之趣を以、諸事細々相分候様可書記候、尤案紙拾三ヶ条不残有無之詎可相記候、

但札面引合、無間違様委數可書載候、

右之通申越候条、入念相糺早々可申越候、聊大形有之間敷候、右ニ付差越候家財改様之次第書、親類付案文、親類家財帳返納可有之候、以上、

正月七日

種子嶋役人中

御目附
川上翁助

○十日、命^乙高奉行四時巡^三回各村、觀^二田畦溝漣之精疎及墾闢・收穫等之遲速^一之日、能守^二其法^一不^レ可^レ緩、

○十一日、甲冑之賀筵、如^レ例、

○同日、贈^二佳札於洛陽本能寺及摂州本興寺^一、

○同日、本源寺温座祈禱、如^レ例、

○同日、蓮勝寺獻上、如^レ例、

○同日、在郷諸寺獻上、如^レ例、

○同日、的始、名代家老平山傳二郎武世、用人西村甚五右衛門時哉、射手一番^{美座織太郎}岩川十藏、二番^{駿島安下村}太郎、三番^{日高雲次}八板常右衛門、

○十六日、納^三狩所^レ獲鹿皮一枚於^二官^一、如^レ例、

○廿一日、官見^レ命^下改^三宗門手札^二之事^上、

○廿八日、令^三用人知覽覺之允與^三聴祐筆及物奉行之事^一、

○同日、令^三増田村小工茂平太一世免^二大山野之稅^一、
新墾山野種
藝謂大山野嘗修^二造覺第一^一之候、因^二匠工少^一、雖^レ未^レ與^二扶持^一之役^レ之勤勞、故賞^レ之也、

○檢^二點丁夫・病夫等^一告^三于^二官^一、如^レ例、

○二月一日、加^三賜扶持^一一石所大山太郎右衛門、同五斗所林林蔵、同七斗三升三合七勺五撮所荒木休五郎、共賞^下為^二庖人^一能協^中其能^上也、

○三日、與_二扶持高_一斗所于上中之村中間河野清吉_一、賞_三能勤_二其職_一也、

○六日、令_三洲之崎之仲_二郎納_一科錢五百文_一、坐_三屢犯_レ法有_二不正之行_一也、

○九日、與_二白銀各_一二兩於足輕鮫島休之進・大瀬甚兵衛・山口甚助・鮫島永吉・鮫島長之進・鮫島休太・柳田清之進・榎本權之進_一、賞_下昨年護_三送安城村漂着之流人及宇多津傳_二郎等於覺府_一之始末其速_上也、

○十一日、議_下定嚮雖_レ不_レ許_三諸人盡售_レ高、有_レ故而請_レ之則可_レ許_レ之、

○十五日、令_三古田村榎本八郎左衛門納_二罰錢五百文_一、坐_四牧_レ馬堵疎而使_三馬多喰_二田園之麥苗_一也、

○十八日、與_二金子_一三歩于國上雄五郎_一、假為_三政府之筆吏_一而不_レ受_レ俸勤仕有_レ日、今春將_レ役_三于覺府_一、故賜_レ之助_三費用_一、

○十九日、命_下寺入及逼塞等之日、不_レ守_二其法_一者

可_レ倍_中其罪_上、

○同日、安城村上妻新左衛門家火、燒_二失宗門手札一枚_一、

○同日、締方横目鎌田宇右衛門歸、以_レ病也、

○廿二日、女子_美久嫁_二於島津又六郎久徵_一、

○以_二美座七郎右衛門時資_一為_二家老_一、西村七郎時民物奉行、上妻七兵衛宗徳船奉行、

○褒_二詞遠藤直四郎_一、以下勤_二仕於覺邸_一之年、有_レ勞_二於府庫之事_一也、

○廿五日、収_二上中之村中之塩屋休藏船_一、罰_三犯_レ法屢往_二來於屋久島_一也、

○廿六日、日高源右衛門為武以_三困窮_一請_レ辭_三家老職_一、不_レ免、與_下嘗所_レ貸_二於府庫_一之米錢_上、以助_二其窮_一、

○十九日、平山新兵衛男佐一郎元服、諸式如_レ例、

○同日、與_二永代扶持高一石所及金子_一二兩於柳田今右衛門_一、以下當_二女子二人婚姻之時_一召_二於覺邸_一

令_レ製_二其資送之貝_一也、
(貝カ)

○晦日、命下為他家養子者縱雖實家無嗣子不許歸嗣其家、如二男家養子一則可也嗣其家、

○制禁一向宗告于官、如例、

○三月三日、令西村源五右衛門時之講一條書於廣間、

○同日、與艾餅於三箇寺、慈遠寺亦獻同品、

○同日、賀瀬引、西之表庄官進上、如例、

○五日、三役・組頭覽諸士武術於廣間、鏡智流鎗師種子島五郎衛門時義・羽生紋九郎平山二郎太夫代、

天真流劍術師日高源七郎・遠藤壯兵衛、示現流師

吉良甚助・宮浦半之丞、性一流師西村惣次、水野

流師羽生嘉右衛門・下村要一・知覽才之丞長野良左衛門代

真影流師知覽弥兵衛長野良左衛門代、金子流師鮫島貞

哉、無双流師足輕大瀬源兵衛、

○八日、縮方横目重田市藏・愛甲直次郎來、

○十日、所賜於上中之村庄官之流人友吉屢有犯法、由是村吏楛之而達於府、直下之於

獄、

○同日、遠藤八二郎有罪寺入於本因寺三箇月、

○十一日、官令濱田喜七赦出獄、事開于左、

○三二九 末川久平申渡書

(三二九の1)

種子嶋浦人頭

濱田喜七

右者、子細有之入牢申付置候得共、出牢申付候条可申渡候、

三月

(末川久平主水)

(三二九の2)
右之通、昨日川上孫左衛門取次を以被仰渡候間、此段申渡候、以上、

御船手

吉利仲(久包)

三月十一日

種子嶋

役人

- 十六日、與_二金子二千足於船大工中_一、賞_下造_二臺所船_一有功勞也、
- 廿一日、納官村足輕德永仙二郎家火、手札・人馬無恙、
- 同日、遠藤清五郎有_レ科寺_一入於妙泰寺_{日敷}、
- 同日、上西之表榎本新左衛門寺_一入于滿德寺_{七日}、罪_二造_レ家過_レ分也、
- 廿四日、行_二射禮於本源寺弓場_一、日高周左衛門東_二矢於大冑腑當_一、賞_レ之與_二弦五條_一、
- 廿六日、官令_二吾家老前田太兵衛宗周・種子島平左衛門時甫・西村甚五太夫時員・日高源右衛門為武・平山傳一郎武世、兵具奉行渡邊長助・野間仲左衛門・中田宇平太・西村惣次逼塞_一、坐_下由_二流人卯吉破_レ獄平素法令不_レ嚴也、連及使_二獄番人鮫島善八・鮫島休次郎納_二罰錢各六百文_一、
- 以_二美座矢太右衛門_一為_二組頭_一與_二高一石_一、賞_二多年勤_二勞于覺邸_一、
- 四月二日、莖永村郷士日高瑞碩寺_一入于本善寺_一

- 七日、罪犯_レ法私射_レ驚也、
- 賜_二金子百足于中原諸次郎_一、賞_下嘗役_二覺邸_一之日、由_二製_レ糖之事_一下_二於種子島_一或之_二於櫻島_一、且為_レ促_二飛船_一之_二於大泊_一勤勞也、
- 三日、大風、覺邸自_二厩角_一至中間長屋、其際可_二十間_一土壁・板壁盡破損、
- 八日、異國方御用人島津矢柄久計禁_二密商_一唐貨_一、示_二糸荷船漂來之日處置之法_一、如_レ例、
- 使_二美座村右衛門代_一覺邸家老知覽行寬_一、勤_下蕃_二殖甘蔗_一等之事于諸有司上、又巡_二行各村_一而覽_レ耕耘之精疎_甲、
- 九日、覺邸家老告白、當_二去月十日卯之刻_一火_二于江都城中西之丸_一、火出_レ自_二庖厨_一而宮殿盡燒失、僅存_二三門_一而已、於_レ是前將軍家及御臺所徒步而避_二火于本丸_一、幸無_レ恙、以_二大火_一不_レ許_二諸候漫登城_一、親臣僅五六人得_二登城_一、當_二是時_一少將公亦得_レ許而登城、奉_レ守_二護_一御臺所云、
- 同日、唐物方橫目本田七左衛門・屬役星原宇兵衛

来、

○松壽院殿建_二松濤庵于熊野山_一、使_三西村七郎時民

監_二造營之事_一、

○十二日、西之村郷士名越半助有_レ科、寺_二入于極

樂寺_一二七日、

○十五日、以_二異國船来之候_一、國老島津但馬久風

・島津伊勢久明・菱刈安房隆觀傳_二長崎奉行之

令_一、如_レ例、

○官使_三大壽丸船頭吾島之村松休次郎納_二罰錢二貫

文_一、事開_于左_一、

○三三〇 末川久平申渡書

種子嶋之

休次郎

科錢貳貫文

右大壽丸船頭

右、前条休左衛門密々無手形琉球江積下候を、氣

不相附不念之旨申出、右躰之儀專可致取締之處、

無其儀大形之至、依之右之通申附候、

右可申渡候、

四月

末川久平
主水

○十七日、羽生_三之進寺_二入于本成寺_一、高尾野甚

五郎・遠藤清五郎妙泰寺、田上二郎左衛門隆興

寺、柳田源太夫本蓮寺、柳田源兵衛・牧瀬紺右衛

門・阿世知半七本法寺、牧瀬仁平太・牧瀬休次滿

德寺、笹川五右衛門妙泉寺各七日、嘗有_レ故自_二

勝手方_一數召_レ之不_レ朝故也、連及叱_二亡田上二郎

左衛門親戚・亡河島嘉右衛門親戚・有留六太郎親

戚・上妻關右衛門親戚・柳田房右衛門親戚・牧瀬

玄雄親戚・長野良民親戚・肥後休兵衛_一、禁錮池

村庄右衛門・松下勘左衛門各七日、池村以下_二為_二

警者_二之故_上有_二罪_一等_一、及_レ茲池田浦之万太郎・

仲五郎、海士泊浦之喜助、東市街之休兵衛修_二治

道路_一各五日、

○廿二日、以_二上妻才二郎宗敏_一為_二慈遠寺寺社奉

行、

○廿三日、以凶歲禁商甘諸于他邦、

○廿六日、平山村足輕山口甚七寺入于淨光寺二

七日、由宗門手札改之事一托下所遣于莖永村一

書於甚七上、甚七使下行人達中之上里村上事及遲

緩一、故罪之也、

○閏四月朔日、唐物締横目新納主左衛門・附役瀨田

常右衛門歸、

○三日、牧瀨紺右衛門・牧瀨仁平太・篠川五右衛門

出寺、

○六日、叱遠藤仙左衛門一、以乙其二男幼穉者嘗

刈三榎葉一而籍三之于田一、仙左衛門平素教誨其

子之不嚴也、

○七日、締方横目三崎嘉之助帰、

○八日、羽生三之進・日高瑞碩出寺、

○賜米二俵于下中之村百姓庄六、庄六平素能守二

村吏之令一而勞三于公務及農事一、又能奉養抱病

之親一、加之往年役三于覺邸一之候、得三金子一步

于地中一直欲納之于廷一、其徒謂庄六曰、所

得于地中一之貨何及納之哉、庄六不肯而竟

納之于廷一、有司諭之令取之、其身居于下

賤一其志之正也、實可感、故賞之及茲、

○以日輪寺住職正善院一為本源寺鑑司一、本源寺

無住職一故也、

○十二日、近年下中之村庶民窮甚不飼三牛馬一者過

半、由是議下以所牧野之牝馬一令飼于窮者上、

○十三日、赦向田六右衛門一、

○十五日、前太守公嚮命下改革弊政一興起吾

家上、於是吾家之諸臣奉命益勤勞、公聞而

被褒詞之一、

○十八日、與錢一貫文島間浦之清六及水梢一、賞下

嘗使清六為船長一連漕糖于浪華一速往來也、

○十九日、與青銅百疋于古田村之金左衛門一、以下

所自牧馬一上不論自他之田一耕田不受理、

因下種甚早、故賞其志也、

○廿二日、以三上妻七兵衛宗徳一為用人一、西村勇

八郎時弘・西村休八時乘・種子島權之允番頭、宮浦藤九郎普請奉行、

○廿五日、家老日高源右衛門為武・物奉行上妻小左衛門定直到于覺邸、三原藤五郎・菱刈八郎太代松壽院殿命使下吾島之諸臣從明春普種甘蔗上、

○五日、國老島津但馬久風・島津伊勢久明・菱刈安房隆觀命下守儉素慎財貨上、

○四日、平山村足輕山口甚七寺入于淨光寺、以不正之行也、

○五日、與粽各二束于三箇寺、慈遠寺亦獻同品、

○官令島間浦之清右衛門・藤太郎・甚四郎・喜平太・熊野浦之三太郎、池田浦之喜太郎納罰錢各一貫文、坐嘗於琉球國犯法欲商茶及昆布等上也、

○國老島津伊勢久明命出米・出銀、事開于左、

○三三一 島津久明久申渡書

一高尨石三付出米五升ツ、真赤半分

右定式出米之外、重出米三升ツ、被仰付置候處、

此節式升相重め都合五升ツ、當戌之年より來寅之年迄之間五ケ年、重出米被仰付候、左候而上納等之儀、是迄之通被仰付候、

一銀尨勾尨人分

右持高有無不及沙汰、末々迄米々子之年より辰之

年迄之間五ケ年、一統人別出銀被仰付候間、年限

中十月限金藏立可致上納候、七嶋・琉黄・竹嶋・

黑嶋・屋久嶋・種子嶋并道之嶋之儀者、十二月限

出銀取揃、船便次第可致上納候、

右者、此節西之丸御普請三付、無御據御沢合ニ

而、依御願十萬兩御金納被蒙仰候付而者、速々御

用意不相備候而不叶儀候處、一昨年も御金納引續

之儀故、至而被及御難渋、其上大坂御銀主之内ニ

者病死又者逢類焼等ニ、別而難渋之趣相聞得、殊

一昨年之出銀も御本済無之三付、此節者惣而之出

銀御受^ニ及候儀無覺束、就而者御國役之御事候^ニ付、當時一統困窮之折柄^ニ者候得共、無御據右之通出銀米被仰付候、左候而言^レ出銀之儀者去^レ年来より之凶年等^ニ而、未^レ迄一統及困窮居候段被聞召上候付、別段之御思召を以當年より来年迄者御用捨^ニ而、来^レ西^(マ)之年より辰之年迄五ヶ年出銀被仰付候、

右之通種子嶋江可被申渡旨、種子嶋伊勢名跡用頼江可申渡候、

五月

(島津久澄)
伊勢

○國老重命戒^レ驕節^レ用、又傳^下縣官禁^ニ関東山中筋獵師之外貯^レ炮之命^上、如^レ左、

○三三二 幕府触書

(三三三のし)
近年質素節儉之儀取失ひ、専外見をのミ心掛、奢ケ間敷族有之哉^ニ相聞得候、右之風儀有之候而者、おのつから勝手向も不如意^ニ相成候而、勤向

并武備等之心掛、家中領内之手當も心底^ニ不洩様可相成候、常^レ儉素^ニ而候而も、不如意^ニ候者は不及是非候、儉素之儀を心掛不行届候而不如意之儀のミ相歎候者、一己之不覚悟^ニ而候、京保年中^(享九)被懸^{本之原}并普請其外道具類及び供廻り等之儀迄も堅相守儉素相用候而、下^レ風儀之手本、弥厚可被相心掛候、

未 八月

右之通天明七未年相觸候處、近来忘却いたし、衣食住共^ニ奢侈相募、又者供連等之外見を飾り、自然及困窮候族も有之哉^ニ相聞得候、殊^ニ此度西之丸炎上^ニ付而者、莫太之御入用候間、公儀^ニ而も格別御儉約被仰出候事^ニ候得者、何も厚心を用ひ、来^レ子^レ年迄三ヶ年之間敷敷省略可被致候、是又右年限中者供連之儀一統格外省略いたし、減少之趣等銘^レ大目附江相届候様可被致候、尤衣類等随分僂服を着^{本之原}し迄迫候家来共衣類見苦敷候而も苦

からず、都而無益之費省、武備之手當第一ニ心掛
可被申候、

右之趣可被相觸候、

四月

(三三三)の二

大目附江

関東山中筋、此已前より鉄炮御免之所たりといふ
とも、獵師之外在く所く令停止候間、其所之地頭
・代官より相改之、鉄炮所持いたすニ於てハ可差
止候、獵師札ニ郷村并鉄炮主之名を書付相渡之、
若致違背鉄炮令所持、昼夜よらず山野ニ住ひたる
ものあらハ可申出候、縦令雖為同類其科を免し御
褒美可被下候、自然隠し置、他所あらわるゝニお
いてハ、御穿鑿之上其所之名主・五人組迄可被行
罪科之旨、急度可被申付者也、

九月

右之通、寛文二年相觸候處、近年狼ニ相成、隠し

鉄炮所持之者有之哉ニ相聞得、尤獵師之外ニも山
寄村、狛獵業營ミ候ものも可有之、其餘山間住居
之者猪鹿威し之ため令所持輩といふとも、改方等
閑ニをいてハ、其村役人共可為落度条、鉄炮所持
之者共ハ當戌之六月より九月迄之間関東取締付、
相立置組合村、申合、代之もの方江可持参、其砌
取締出役之もの廻村可為致候間、木札江郷村鉄炮
主名前を書付差出改を受、鉄炮改之大目附江定法
之通證文差出、尤餘人江賃渡儀、弥可為無用之旨
堅可申付候、且右組合相洩候村、者、其領主・地
頭ニ而右期月之内同様振合ニ取計可申者也、

四月

(三三三)の三

右之趣、御領・私領・寺社領共ニ不洩様可相觸候、
別紙之通從、公儀被仰渡候条、此旨組中・支配中
・諸郷江不洩様可被申渡者也、

五月七日

御家老坐

大身分觸役所

- 十一日、與_二白銀各二兩于桑原辰二郎・桑原龜太郎、賞_下造_レ船之候始習_二船工之事_一能協_上其器也、
- 十五日、籍_二没上中之村百姓孫六及下中之村百姓善兵衛・喜五郎、平山村之百姓善吉_一、移_二於居郊外_一、罪_レ不_レ納_二貢稅_一也、
- 廿三日、御坊之墓所築_二石垣_一、
- 制_二禁一向宗_一告_二于官_一、如_レ例、
- 六月、酒匂太郎寺_二入于本隆寺_一五十日、以_レ有_二不正之行_一也、
- 三日、使_二東市街之藤右衛門納_二科錢五貫文_一、因_レ鬻_二所_レ禁牛馬皮於大坂_一也、
- 同日、叱_二河迎之六二郎_一、因_下父子為_二諍論_一以_レ薪撻_二息孫吉_一失_中教誨之道_上也、
- 同日、使_二安城村之休之允・六之允、現和村之新四郎・仁助・貞四郎、下中之村之新四郎、坂井村

- 之万二郎、上里村之十五郎、上中之村之彦助修_二道路_一各二七日、現和村之安右衛門・孫吉、安城村之仁二郎修_二治道路_一各三七日、以_二私賣_一買牛馬皮_一也、連及使_二坂井村之甚五郎、油久村之甚作修_二道路_一各七日、約_レ賣_二牛馬皮_一而依_二價之事_一雖_レ止_レ之、私售_レ之坐無_レ所_レ逃、故誅_二其意_一也、
- 同日、野間村足輕向田六兵衛以_レ盜_レ稻、抄_二没扶持高_一令_レ入_レ牢、出牢後為_二國上村湊塩戶樵夫_一、
- 同日、現和村淺川之周太郎以_レ盜_レ禾繫_レ牢、出牢後為_二納官村竹之川塩戶樵夫_一、
- 六日、平山藤助以_レ有_二不正之行_一寺_二入于本因寺_一三箇月、
- 八日、向田六右衛門以_レ有_二罪為_二國上村湊塩戶僕_一、
- 十一日、高尾野甚五郎有_レ科寺_二入于妙泰寺_一一七日、
- 廿一日、嚮家老日高源右衛門為_二武・物奉行上妻小左衛門定直應_二三原・菱刈之招_一到_二于覺邸_一、三

原等令曰、可_レ使_下島中之諸臣從_二明春_一普種_廿蔗_上、為武等領掌而歸_于島_一、即傳_レ命_于諸臣_一、然未_レ告_二諸臣奉命之事于覺邸_一、故松壽院殿甚患_レ之、使_二物奉行西村七郎時民歸_于島_一、再教_二諭諸臣_一、

○廿三日、與_二金子百足于海_上泊浦之水手平太郎、曩西村時民奉_レ命歸_于島_一之日、風逆_レ不得_レ到_二于此地_一、當_二是時_一平太郎能操_レ舟無_レ恙得_レ入_レ津、故及_レ茲、

○廿四日、以_二河内六郎_一為_二船奉行_一、知覽才之允
・東市郎右衛門山奉行、

○廿六日、令_二遠藤壯兵衛到_于覺邸_一、而報_二島中普種_廿蔗_一、

○廿八日、以_二種子島二郎左衛門時習_一・西村源五右衛門時之_二為_二大會寺社奉行_一、

○晦日、和籩之式、如_レ例、

○七月七日、飾_二日深公鎧于廣間_一、家老前田太兵衛宗周拜_レ之、

○同日、褒_二詞上妻新七_一・下村惣太郎・美坐玄助、監_二造船_一用_二意節_一用、比_二前時之費_一不_レ及_レ半、連及與_二金子各三百足于吉良休四郎_一・阿世知仲五郎_一、賞_二為_二船造方檢者_一勤勞_上也、

○八日、名代家老西村甚五太夫時員詣_于大會寺_一祀_二祖先及宗祖_一・戰死之靈_一、十三日、名代家老平山傳一郎武世詣_于慈遠寺_一祀_二祖先及戰死之靈_一、十四日、名代家老美坐七郎右衛門時資詣_于本源寺_一祀_二宗祖_一、十六日、名代家老前田太兵衛宗周詣_于本源寺_一方丈_一祀_二祖先及戰死之靈_一、

○十日、禁_二錮兵具奉行渡邊長助_一・野間仲左衛門・中田宇平太・西村惣次・東市郎右衛門_一、以下公儀流人卯吉破_レ牢竊盜、命_二牢屋番人警衛_一之不_レ嚴也、

○十二日、與_二白銀各一兩于池田浦之新二郎_一・金助_一、海士泊浦之嘉吉・平太郎、洲之崎浦之太吉_一、賞_二能奉_一仕_于船手_上也、

○十六日、使_二牢屋番鮫島善八_一・鮫島休二郎納_二科

錢各六百文、罪_レ衛_レ獄寬疎使_二卯吉破_レ牢也、

○慈遠寺僧八人・同寺門前者十一人共失姓名・西東街市

人牧瀨仁三郎・榎本長太郎・榎原五平・榎本和吉

・榎本與十郎・樋口安太郎・桑原長二郎・桑原六

兵衛・濱田彦太郎・牧瀨善左衛門・宇多津豊二郎

・濱田藤右衛門・榎本弥平次・桑原辰二郎・牧瀨

新七・大木七太郎・吉留栄次郎・牧瀨善助・榎本

新四郎・濱田勘太郎・濱田吉二郎・向田栄之允・

榎本伊兵衛・大木嘉太郎・山縣袈裟次・松下仲兵

衛・桑原太平太・濱田長之助・樋口六兵衛・池村

惣太郎・松下涌二郎・池村周五郎・新原才藏・田

中孫吉・牧瀨新太郎・桑原直右衛門・榎本新吉・

荒木彦吉・樋口長五郎及洲之崎浦中之漁人、嘗

築_二御坊祖先墓前之石垣_一日、不_レ受_二賃飯_一、故

使_二船奉行褒_レ詞_一、

○十七日、與_二赤米_一斗于島間浦之岩二郎、為_二飛

船船長_一之_二覺府_一以_二速往来_一也、

○使_二家老日高源右衛門_一為_二武_一・物奉行上妻小左衛門

逼塞_一、嚮_二于覺邸_一奉_下島中普可_レ種_二甘蔗_一之

命_上、歸_二于島_一而傳_二命于諸有司_一、然怠_レ報_二其事

于覺邸_一、故及_レ茲、

○以_二遠藤直四郎_一為_二二世小頭格_一、賞_レ有_レ勞_二于府

庫_一也、

○廿七日、以_二林玄泰有_レ罪流_二于鬼界島_一、

○同日、良照院殿去八日逝、今日訃到、以_レ無_二島

主_一不_レ與_レ喪、

○廿八日、馬追、名代家老平山傳一郎武世、物奉行

上妻小左衛門定直、用人美坐村右衛門時雍、馬役

日高惣七郎・下村源之允・篠川九兵衛・岩河九郎

助、

○命_二異國船來_二于上之郡_一則以_二一番組三十人_一備_二

不虞_一、於_二中之郡_一二番組三十人、於_二下之郡_一三

番組三十人_甲、

○按_二察鬼利支丹宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○八月朔日、大會寺・慈遠寺獻_二中紙各二束_一、又

與_二同品于_二箇寺_一、

○三日、平山村百姓藤次郎瀨^ニ死于西之村川^一、締

方横目重田市造・愛甲直二郎、吾横目上妻七兵衛

宗徳・前田新五兵衛宗誠按^ニ察其骸^一、事聞^ニ于

官^一、

○六日、與^ニ赤米二斗于西市街之仁二郎^一、為^ニ飛船

船長^一告^ニ急於覺邸之日以^ニ速往来^一也、

○同日、與^ニ綿布各一端於匠工西村二郎右衛門・武

田休右衛門・阿世知新七^一、以下修^ニ造覺邸之第

宅^一之候勤勞^上也、

○七日、奉^ニ前太守公之命獻^ニ蒲團・扇百本^一、

○九日、猶原直右衛門有^レ科寺^ニ入于善福寺^一、

○十日、與^ニ金子五両于本源寺社奉行^一、而助^ニ松

濤庵造立之費^一、

○同日、以^ニ増田村・下中之村・平山村不^レ登^ニ令^一

諸有司往監^ニ察之^一、減^ニ定賦有^レ差^一、

○十一日、國老島津但馬久風・島津伊勢久明命^ニ牛

馬及船出銀事^一、開^ニ于左^一、

○三三三 島津久明久^浮・島津久風連署申渡書

〔銀壹匁〕 一牛馬疋分

一銀八匁 八反帆より廿三反帆迄壹匁分

一銀五匁 五枚帆より七反帆迄壹匁分

一銀貳匁 四枚帆以下橋船川平太迄

右者、今般西之丸御普請^ニ付、無御據御詔合^ニ

而、依御願御上納金被為蒙仰候付而者、無御據未

々迄一統人別壹匁出銀等被仰付候段者、先達而申

渡候通^ニ候、依之牛馬船出銀之儀も右ヶ條書之通

被仰付候間、年限中十月限金藏致上納、七嶋・硫

黃^(島脱カ)・竹嶋・黒嶋・屋久嶋・種子嶋并道之嶋之儀

者、去々年より之凶年等^ニ而末々迄一統及困窮居

候段被聞召上^ニ付、別段之恩召を以當年より来年

迄者用捨^ニ而、来々子年より辰之年迄五ヶ年出銀

被仰付候条、此旨向々江申渡、諸郷・私領江者不

洩様可申渡候、

(島津久風) 但馬

八月

(島津久徳)
伊勢

右之通各被得其意、此書付刻付を以致廻達、留よ

り伊勢方江返納可有之候、以上、

八月 申之刻

大身分觸役所

○十二日、酒勾太郎嚮有科寺入、今日赦出寺、

○十五日、締方横目松元次兵衛・種子島翁之助來、

○同日、蓮勝寺進上、如例、

○廿日、大目附島津頼母傳命、令家老種子島平

左衛門時甫納科銀十匁于官、初以不能

納牛馬稅錢請及六月納之、今過期故及

茲、事開于左、

○三三四 島津久武申渡書

一科銀十匁 種子嶋伊勢名跡役人

種子嶋平左衛門

右者、去年種子嶋牛馬老匁出銀及上納、依願當六月迄月延免許有之候ニ付而者、限月内何分可申出之處、無其儀無調法之至候、依而右之通申付候、

右可申渡候、

八月 (島津久武) 頼母

○廿八日、初所放于屋久島之公義流人弥三郎

以見移于當地、本府横目野村源兵衛・重田

市助送來之、

○廿九日、締方横目重田市造・愛甲直二郎歸、

○九月朔日、以穀不登許大山野之稅、

○二日、八板弥平次寺入于本法寺二七日、以

有不正之行也、

○同日、與赤米二斗于國上村湊塩戸、以下役仕

于船造且獻塩也、

○同日、與赤米二斗於海土泊浦之嘉吉、為船造

方手傳勞心能奉仕、故賞之也、

○三日、野村源兵衛・重田市助歸于屋久島、

○四日、納官村足輕日高傳之進妻遽發_二狂疾_一、自縊死、即聞_三于官_一、

○同日、下_二野間村郷土岩坪藤六于獄_一、坐_レ竊_二中山邑農夫之稻_一也、

○七日、以_二風蝗_一屢害_二田穉_一不_レ登、減_二諸村田地之賦_一、各有_レ差、

○九日、用人上妻才次郎宗敏講_二法令書于廣間_一、

○同日、下_二公義流人弥助于獄_一、以_レ聞_二不正之說_一也、

○十一日、以物奉行西村七郎時民・前田十九郎宗恭

・平山新兵衛武雄與_二聽砂糖製之事_一、命云、創_レ製既多年甘蔗未_二蕃殖_一、故寡_レ利益、宜_レ勸_二民樹藝_一至_レ製亦能胥_二議損益_一、

○同日、褒_二詞安納村之柳田善助_一・日高利_三三太_一、為_レ修_二覆覽邸_一之梓人_上勸_レ業以_レ星出以_レ星入、經_二數十日_一而不_レ懈、以_二其辛勞異_レ他也、

○十四日、官令領内自_二當年_一每_二高一石_一納_二米_一二升重租_一、

○十六日、御船奉行染川五郎左衛門・市來連右衛門命云、諸港之船長遣_二商舟于他邦_一之候、不_レ受_二諸所之監察_一甚_レ緩怠也、向來宜_二必受_二監察_一、事開_三于左_一、

○三三五 市來連右衛門・染川五郎左衛門
連署申渡書

諸浦之船頭共船乘之節、諸所番所改を不受致直乘候者も有之、別而不可然事候条、以來屹与右躰之儀共無之様可申附候、尤依風并何れ_二も入津不相計候節者、近浦_二而も致汐掛居、風和之上番所有_レ之候湊江是非乘人、改を受候様敷數可申付候、此段申渡候、以上、

御船手

染川五郎左衛門

戌
九月十六日

市來連右衛門

種子嶋

役人中

○十八日、與青銅百足於美座六太郎、為修治覺邸室屋之普請奉行梓人勵精營造異他日、是以其指揮能至及茲、加與俸祿各五斗于梓人熊野谷六左衛門及柳田仙左衛門、修治覺邸家屋、各以星出以星入勵業六十日、故賞之也、

○廿日、以安城村足輕鮫島直吉為一世郷士及村横目、役仕于覺邸直諒也、故及歸期然留之、又七箇月、屢遣于櫻島及垂水而習砂糖製方頗傳授其法、以其勤勞異他、及歸命云、論村民藝甘蔗至製能竭心、

○廿三日、使上中之村百姓彦助納科炭十苞、以犯法買牛馬皮也、

○同日、使池龜造右衛門・武田權六・平瀬新助・樋口六兵衛、住吉村之長野休助・西市街之休六・住吉村之百姓助太郎納科錢各五百文、以博

奕也、

○同日、官繫宇多津傳次郎等于評証所、事如左、

○三三六 藩達書

(三三六の1)

種子嶋伊勢名跡家来

宇多津傳次郎

種子嶋池田浦浦人

甚吉

右者、於評証所揚屋江被遣、又者被召込候条、早々役人・横目立會家財相改、親類組中杯江堅固預置、帳面沓冊ニ相調可差越候、右ニ付案文差越候条、其元より可申越候、

一右ニ付親族付御用候間、委敷相糺、帳面沓冊ツ、相調可差越候、且又案文差越候条得与見届、案紙之趣を以諸事細々相分候様可書記候、尤案紙拾三ヶ条不残有無之訳可書記候、

但名頭・名子札名等札面引合、無間違様委敷可

書載候、

^(三三六の2)
右之通申越候条入念相改、早々可申越候、聊大形有之間敷候、右ニ付差越候家財改様之次第書・親族付案紙・親族家財帳、同前返納可有之候、以上、

御目付

大山清太夫

九月廿三日

種子鳴役人中

横目中

○廿四日、叱^ニ林林蔵^一、以下不在^レ在家之候弟池龜造右衛門等於^ニ林蔵宅^一博奕、平素家訓不^レ嚴也、

○同日、唐物方横目江田清右衛門・屬役濱田直右衛門来、

○十月六日、島間村之長之進納^ニ科錢一貫文^一、坐^レ犯^レ法買^中牛馬皮^上也、

○九日、名代西村甚五太夫時員詣^ニ于本源寺^一盛^下供^ニ于宗祖日蓮^一之菓子^上、

○十三日、名代日高源右衛門為武詣^ニ于本源寺^一祀^ニ宗祖日蓮^一、

○十七日、唐物締横目本田七左衛門・附役星原宇兵衛歸、

○廿四日、西村七郎時民男直之進元服、諸式如^レ例、以日高周左衛門為^ニ高奉行見習^一、

○令^下高奉行日高周左衛門・西村蔵多巡^ニ行各村^一而專勸^中農事于下民^上、

○家老前田太兵衛宗周雖^レ請^ニ致仕^一不^レ許、以^レ為^ニ老功^一也、

○十一月八日、以^ニ日高源蔵^一為^ニ番頭^一、日高藤二郎兵具奉行、渡邊早右衛門船奉行、日高勘太郎・河原仲助馬役、美坐矢太郎普請奉行、

○十一日、以^ニ河東雄助^一為^ニ馬役^一、

○按^ニ察一向宗^一告^ニ于官^一、如^レ例、
○奉^レ命檢^ニ察宇多津傳二郎等之家財^一告^ニ于官^一、

如_レ例、

○十二日、縣官命_レ有_レ持_二小判・一步判・二步判等之故金_一者_上、則速可_レ換_二之于新金_一、

○以_二遠藤直四郎_一為_二代々小頭格_一、以下當重_レ期役_二于覺邸_一有_レ勞_二于倉庫錢穀之事_上也、

○十二月五日、以_レ當_二日瑞公二十五年忌_一、嚮有_レ罪禁_二旅行_一等之徒咸赦_レ之、

○同日、嚮坂井村之有留與平太有_レ罪雖_レ放_二郊外_一、今以_レ當_二日瑞公二十五年忌_一赦_レ之、

○八日、使國上村湊塩_一納科錢_三貫文、罪_三不_レ訴_レ廷私為_二俳優_一也、連及叱_二村吏_一、

○九日、森川利右衛門・友野市助・三原藤五郎贈_二書于當地締方横目_一、監_二砂糖製法及取締等_一、事如_レ左、

○三三七 三原藤五郎外_二名連署達書_一

其許砂糖製法願被仰付候、出来之斤数都而砂糖藏届之取扱被仰渡、拔砂糖御取締向_二付而者_一、是迄

追、御沙汰之趣も有之候得共、此節猶又別段御吟味之訳有之候間、當年製法方より砂糖煎小屋彦軒ニ老人宛見締人、昼夜不明様掛置候様被仰付候間、所横目又者無役者迎も分而人柄吟味之上、右之掛被申付、御自分事も時々引廻り、纔迎も持散無之様取締可被致候、

一右御取締付而者、役人・組頭又者郡見廻・村々庄屋等之下役迄も、此節より猶又御取締付掛り被申付、砂糖作之者共利得ニ迷ひ、纔迎も持散賣拂候而者別而不可然事候条、得与申諭、不埒之儀無之様可被申渡候、

一右通砂糖小屋彦軒ニ老人宛掛被申付候ハ、おのつから月々之砂糖出来丈明白ニ可相知候間、時々出来斤数致帳留、御自分江届申出候様可被申渡候、尤當年も煎例為被致答候間、右ニ何某黍地町反ニ而者煎揚砂糖何程大頭見當りも可有之候間、其心得を以手堅可被致取扱候、

但其元砂糖都而煎仕廻相成候者、被致取扱候

形行届可被申出候、

右者、當年より別段御吟味之訳有之、一涯嚴密御取締被仰渡候条、乍此上抜砂糖取企候儀及露頭候ハ、以來砂糖製法者勿論、黍地迄都而御取揚可被仰付候条、至其節領主前等より何様故障被申立候而も難詮立候ニ付、役人別掛役、其意を汲受、聊無越度様手厚取締行届候儀とも、右ヶ条書之通屹与可被申渡候、此旨但馬殿依御差圖申越候条、無手拔様可被致取扱候、左候而其形行且所役、御請之次第可被申出候、以上、

十二月九日

森川利右衛門

友野市助

三原藤五郎

種子嶋

締方横目

○自三九日至三十日、執行日瑞公二十五年忌法事于本源寺、松壽院殿名代家老日高源右衛門為武、八郎次時中及佐登名代種子島友之助、久美・婦美・真佐名代岩川助七、法事奉行上妻才次郎・前田新五兵衛、靈膳奉行種子島權之允・日高惣七郎、出家三十五人、

○十二日、使三島間浦之惣太郎納科錢三百文、嘗上西之村之與右衛門船漂三到于屋久島、歸港之日船奉行不在家、宜告三村吏而不告三村吏、故罪之也、

○十三日、上妻新七獻三斗搗之餅三如例、名代家老種子島平左衛門時甫受之、

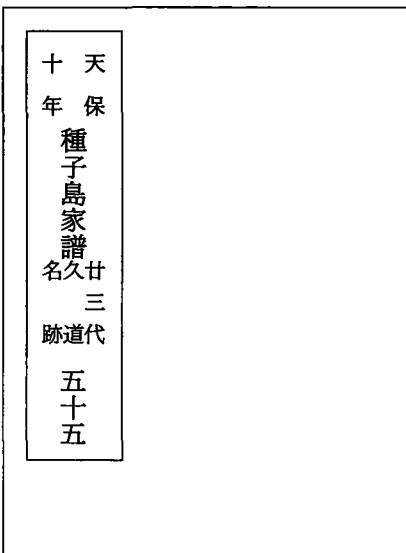
○十五日、上西之表百姓金平宅火、手札・人馬無恙、

○十八日、以三河内熊右衛門為高奉行、

○廿七日、鐵匠及二十家・三箇寺献上、如例、

○歳暮、諸式、如例、

〔表紙〕



- 天保十年己亥正月元日、國上村獻ニ野老一、
- 二日、國上村獻ニ海物一、現和村庄司浦獻レ鯁、
- 同日、覽馬、名代家老及馬役姓名不詳、
- 同日、八箇寺進上、如レ例、
- 三日、現和村中園門百姓和助縊死、村吏聞レ之、
 締方松元治兵衛・種子島翁之助、吾横目前田新五
 兵衛・種子島五郎衛門赴ニ彼地一、召ニ村吏及親族

- ・郷隣之者一問レ之、皆曰、彼去元日之夜到ニ長太郎者之家一、窺ニ長太郎之亡一與ニ其妻一寢、長太郎歸來見レ之、大怒踏ニ蹴一之ニ且罵詈、彼大慚愧去、謂、必是故也、召ニ長太郎夫婦一問レ之、亦如レ是、於レ是假埋レ骸令ニ親族護一囚其妻一、事聞ニ于官一、
- 四日、上之郡庄官・小觸獻上如レ例、家老日高原右衛門受レ之、
- 同日、西之表大廣野海邊死骸漂來、腐爛不レ辨ニ男女一、事聞ニ于官一、
- 六日、初狩、名代家老前田太兵衛宗周、物奉行西村七郎時民、用人上妻才次郎宗敏、組頭美坐村右衛門・渡邊早右衛門兼重・西村田代時和、山奉行東市郎右衛門・遠藤壯兵衛・知覽弥兵衛・知覽才之允、西之表庄官獻上、如レ例、
- 七日、中之郡・下之郡庄官獻上如レ例、家老日高原右衛門爲武受レ之、
- 十日、納ニ三狩所一獲鹿皮于官一、

○十一日、蓮勝寺獻神酒・棗盛、如例、

○同日、甲冑之賀、如例、

○同日、在郷諸寺獻上、如例、

○同日、的始、名代家老西村甚五太夫時員、射手一番美座小太郎、二番國上雄五郎、三番日高勇太郎、諸式西村直之進、上妻市助、八板十次郎、如例、

○同日、本源寺軍陳・温坐祈念、如例、

○同日、岩河市之允初謁見、獻火繩、

○十二日、以下有去冬所縊死、猶原覺次郎養父覺七殺之說上、締方松元治兵衛・種子島翁之助、

吾横目種子島次郎左衛門時習・西村甚五右衛門時哉・前田新五兵衛宗誠・羽生仙右衛門能俊鞠問之、遂白狀曰、以懶惰不務業犯吾命、教晦不肯、以杖擊之倒之、猶放言曰速擊殺吾、故不堪憤怒舉足切蹈之即死、僞爲自縊者、疵其咽以棕栢繩縊之、於是爲、無殺子存于世之理上、乃携剃刀與炮之墓所、自雜髮將以炮自盡、火不通、又以爲、

以炮自盡不伏白刃、爲執刀歸家、

當是時五平次者之女偶見覺次郎骸、大驚泣

呼覺次郎死、聞之親族・隣保盡集在家、見

雜髮歸來怪問曰、汝爲何雜髮、答曰、不堪哀

悼欲自盡、衆敢不允、到今不得死、謹

謝罪焉、即禁獄、事聞于官、

○十三日、見命淨光明寺火消、

○廿日、國老菱刈安房傳命、以

大信院殿七回忌見赦、以呂波丸船頭甚五左衛門、

○二月十四日、使島間浦之甚五郎不納價伐材

五十本於住吉山・納官山之際、嘗之浪華買

製糖石車來獻之、試用之甚便、賞其志

也、且賜車之價、

○十六日、公儀流人隨音以有不正之事、改安

城村之配所移于西之村、

○廿八日、御裁許奉行見習平山彌九郎傳命、

召現和村百姓長太郎妻子覺府問和助自縊之

事、六月廿九日歸島、

○同月、締方大野源五右衛門・重田市藏、横目森喜

次郎、附役山崎岡右衛門及札改檢使神戸庄太夫・

成松伊兵衛來、

○亡渡邊源十郎家跡、定養子之間許名跡、

○監察一向宗聞于官、如例、

○三月三日、使美坐十左衛門讀法章、

○同日、賀瀨引西之表庄官獻酒肴、如例、

○同日、賜艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○六日、以唐物方横目森喜次郎之令、執右田金

太郎覺府
賈人下獄、

○十四日、坂井村足輕有留次平太坐盜稻爲沖濱

田塩戸樵夫二十年、

○同日、西之村立石之彦太郎・油久村女洲之甚之允

・増田村岩屋口之由松・莖永村竹崎浦之長七納

科錢各五百文、坐對家老失禮也、

○十五日、歲賜眞米六斗于荒木休五郎、以製

糖有功勞也、

○十九日、野間村舊岩坪氏藤六赦禁獄爲浮免百
姓、

○廿八日、以森周右衛門友諒・西村勇八郎時弘

爲兵具奉行、知覽彌兵衛普請奉行、西村惣次

山奉行、西村眞右衛門馬役、

○與森周右衛門友諒所借于府庫之錢上、

○四月二日夜、池田浦之漁夫彌吉釣不歸、

○四日、御裁許見習平山彌九郎贈書于締方横目

令護送猶原學七於覺府、事開于左、

○三三八 平山弥九郎届書

種子嶋伊勢名跡家來

猶原覚七

右者、聊之儀より事起、養子覚次を致殺害、自縊

之形取繕候旨申出、格護所江召入置候段、先詰同

役種子嶋翁之助外一人より被申出趣有之、右通

人を殺候者候間、此書付相達次第、折角中途入念

宰領付ニ而御當地江列越、其届申出候様可被取計

候、此段可申越旨大目附衆被仰付候、以上、

御裁許掛見習

平山弥九郎

四月四日

種子島詰

締方横目中

○同日、以西町之次兵衛爲一世小船頭格、次兵衛爲船長、贈米于覺邸、中途遇難風、船甚危、次兵衛能操船以避其難、不損米、故賞之也、

○八日、島津矢柄贈書于家老、命糸荷船漂來之日處置之法且禁商唐貨、如例、

○同日、叱西之村之十之允、以下犯禁伐巨松數株、燒炭也、

○同日、叱池田浦居住金助、以下託牧川之鎌田勇右衛門不得命伐材及新也、

○同日、使坂井村六藏納科錢五百文、坐下不

得許使西之村之十之允伐所禁松數十本、製炭也、

○同日、使古市嘉吉納科錢一貫文、坐下伐所禁松製炭也、

○同日、樋口六兵衛納科錢二貫文、納官村牧川之鎌田勇左衛門一貫文、六兵衛應覺府之仲兵衛者託、使勇左衛門竊採材及樵木、故坐之也、

○十五日、國老島津但馬・菱刈安房贈書傳長崎奉行異國船之令、如例、

○十九日、賜染布各一端于吉良休四郎・阿世知仲五郎、賞爲船手檢者公事唄集之候勤勞也、

○廿日、賜染布各一端于東市太夫・河内十助、賞爲普請方之檢者勤勞也、

○廿二日、使鮫島澤之助・日高太郎次及輕卒二人護送猶原覺七于覺府、

○廿四日、本源寺弓場射禮、羽生七郎次太胃腑當束矢、遠藤才助軍勢書入束矢、

○洲崎浦之新次郎坐_レ商_レ不_レ載_二信牌_一之材上、令_レ納_二錢壹貫文_一贖_レ之、

○五月三日、以_二知覽彌兵衛_一爲_二勝手方_一、普請奉行如_レ旧、

○五日、賜_二粽各_二一束于_三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○九日、中之村百姓新之允以_二竊盜_一下_レ獄、

○十八日、以_三太守公轉_二任宰相_一、國老島津安房

傳_レ命、見_レ赦_二沖永良部島流人島間浦宗次郎_一・市

次郎・弥次郎、大島流人西之村之庄吉、且島津新

五郎家來圖師七郎右衛門種子島居住_一、又見_レ赦_レ

葦_二現和村百姓和助_一骸_一、

○監_三察_一一向宗_二聞_二于_三官_一、如_レ例、

○廿日、賜_二白銀一兩于住吉村之上妻貞之進_一、賞_レ

勸_二一村人民_一蕃_レ殖_二甘蔗_上也、

○同日、賜_二白銀三兩增田村之石堂良四郎_一、同各_二

兩野間村之鎌田十左衛門・日高和七、同一兩鎌田

半次、同各_二兩油久村之美座周左衛門・西田彌平

次_一、共爲_二甘蔗見舞_一植_二甘蔗_一之候、數日不_レ受_二

質米_一勤勞故也、

○同日、使_二日高九十郎納_二科錢五百文_一、坐_レ伐_二橫峯之木_一置_レ之于樹_二制札_一禁_レ伐_二木之處_上也、

○同日、使_二葦永村之岩坪次左衛門_一・百姓次郎吉納_二科錢各五百文_一、坐_レ伐_二所禁之寺川之宇都之松_一也、

○廿八日、使_二葦永村之古市五次助_一・日高市郎・柳

田造右衛門・馬場惣兵衛、同村之百姓與_二三太_一・十

五郎・兵七・喜三次・與四郎納_二科錢各一貫文_一、

坐_レ伐_二爲_二三下中之村田地_一防_二海風_一之樹_上、且墾_二

關山_一爲_二畑_一也、

○六月七日、增田村之市太爲_二札改方役夫_一、隨_二檢

使_二到_二本田助之允宅_一慶府土居住于此地花里之宮、盜_二錢三百文_一、

一即下_レ牢、

○廿日、中之村之甚作於_二處々_一竊盜、故下_レ牢、

○廿二日、八板平右衛門寺_二入于清淨寺_一、笹川曾右

衛門于妙昌寺_一、共三七日、坐_レ八板爲_二船手下

吏_一簿中重復出_レ財且脱_二了記_一維_レ船之綱_一、笹川

爲_二砂糖方下吏_一簿書不_レ正也、

○廿四日、下西之表足輕河野新吉盜_二現和村榎本貞七金子及合藥等_一、故下_レ牢、

○廿九日、以_二知覽覺之允行修_一爲_二物奉行見習_一、

○同日、賀_二夏越_一、西之表庄官獻_二上酒・西瓜_一、

○七月七日、飾_二日深公之鎧于廣間_一、當番家老拜_レ之、

○八日至_二九日_一、修_二清孝院殿之十三回忌于本源

寺、初日八講、結日頓寫說道、美座七郎右衛門

時敏代_二于松壽院殿_一、岩河助七時_{（下）}代_二八郎次時

中_一、種子島友之助政德代_二久美・婦美・真佐_一

行_レ香、法事奉行種子島次郎左衛門時習、西村甚

五右衛門時哉、靈膳奉行肥後惣左衛門、西村勇八

郎時弘、手長下村源之允、子島猪右衛門時廉、詰

衆日高藤次郎、河東雄助、河東仲助、羽生岡右衛

門、出家三十人、

○八日、名代家老種子島平左衛門時甫詣_二于大會

寺_一祭_二先祖及戰死之靈_一、十三日、詣_二于慈遠寺_一

祭_二先祖及戰死之靈_一、

○十四日、名代家老日高源右衛門爲_二武詣_一于本源寺_一祭_二宗祖_一、

○十六日、名代家老美座七郎右衛門時敏詣_二于本源寺_一祭_二先祖及戰死之靈_一、

○十九日、以_二麿府之命_一、執_二本府之商人池上伸左衛門及權現丸船頭彦之丞_一下_レ牢、

○同日、濱津脇之清八以_レ有_二不正之行_一禁_二旅行_一、

○廿日、中之村中園門百姓喜次郎釣_二于西之村角倉_一溺死、

○奉_二本府之命_一使_二河口覺兵衛・平瀬七郎・足輕

日高甚吉・古市勘太郎護_二送現和村庄司浦之彦之

允_一船船頭於麿府、

○廿四日、永徳丸船頭池村惣太郎納_二科錢二貫文_一、

水主十人各一貫文、柚師住吉村之湯田新次郎、下

西之甚吉各一貫文、今年春運_二漕砂糖于大坂_一、

池村等使_二新次郎_一甚吉竊採_二櫻材買_レ之載_二于永

徳丸_一、到_二于山川港_一發覺、故及_レ茲、

- 廿九日、名越船右衛門寺入于妙昌寺三七日、
坐爲_二覺邸普請方下吏_一、簿書不_レ正也、
- 八月朔日、賜_二中紙各_二束于慈遠寺_一・大會寺_一、
二箇寺亦獻_二同品_一、
- 二日、家老西村甚五太夫時員隨_二先例_一巡_二察田
地_一考_二豊凶_一、高奉行鮫島孫右衛門・西村太平次
隨_レ之、
- 四日、馬追、名代家老日高源右衛門爲武・物奉行西
村七郎時民・用人羽生太左衛門能俊・馬役_{姓名}不知、
- 十五日、古田村蓮勝寺獻_二神酒・棗盛_一、
- 同日、以_二平山村_一・上中之村_一・西之村_一・莖永村_一・
上里村_一・増田村年_レ不登、議減_二賦稅_一、有_レ差、
- 十八日、締方大野源五右衛門・重田市藏點_二檢_一
島之船_一、家老西村甚五太夫時員_{今一人姓名不知}侍席、
- 廿日、國老島津但馬久風傳_レ命、見_レ赦_二此地居住
本田助之允_一、事開_二于左_一、

○三三九 島津久風達書

御小姓與本田吉十郎養祖父隱居本田助之丞、先年
配所宝島江異國人漂着致上陸及狼藉候節、拔群相
働候_二付、種子嶋居住被仰付置候處、別紙之御取
訊を以御當地江被召返候、左候而外方徘徊心入を
以吃与慎罷在候様被仰付候、

右聞得之趣有之、本人者勿論親族迄茂御咎目被仰
付置候得共、此節厚 思召を以右之通御赦被仰付
候、

八月廿日

張紙

本文、亥八月廿日御用人島津右門御取次を以被
仰渡候、

○同日、黒葛原新左衛門歸、

○九月七日、命_四物奉行西村七郎時民・前田十九郎
宗恭・平山新兵衛武雄主_三宰米錢之出納一島之蕃

殖富「府庫」、

○九日、披「講法章」譯者姓、名不知、

○同日、以「田中彦右衛門」爲「一代郷士」、賞「當」

大慈公光臨及婚禮等煩煩之時、「令」買「品物」、能辨「事」、且數年勤勞於代官所上也、

○十六日、本源寺祈禱、名代家老平山傳一郎武世、

○廿八日、仁禮小吉家來旧村山氏之傳左衛門・木脇

伊左衛門家來旧岡村氏之金兵衛、以下崇「信」一向宗之罪上見レ放來、

○晦日、改「造物奉行所代官所」新立、

○以「山崎筑右衛門」爲「一世小頭」、賞下以「府庫空耗」逾「期役」于覺邸「能辨」事也、

○十月九日・十一日・十三日、名代家老姓名指于本源寺「祭」宗祖日蓮、

○十四日、三箇寺獻「祭」宗祖「之菓子于廣間」上、家老西村甚五太夫時員受レ之、

○十五日、官傳、此地柳田助七以下在「大坂」其行不レ正下「牢」、竊破「牢」出奔、又池田浦之孫太郎

者嘗柳田貞吉促「船買」易于大坂之日、爲「水手」盜「貞吉金子」出奔、今執レ之囚于大門口格護所、

○廿一日、官告「現和村庄司浦之彦之丞有」罪下「牢」、昨廿日死「牢中」、不レ禁「葬骸」、

○同日、賜「種子島平左衛門時甫每歲米一石八斗」、以下爲「家老職」數年勤勞也、

○廿四日、賜「赤米二斗于洲之崎浦及池田浦之漁人」、當「速運」漕米於覺邸時上、偶得「好風」、使「二箇浦之水梢載」米發レ港不レ辭レ勞努奴力、故賞レ之也、

○同日、令「家老上書請」製「砂糖二十万斤」、事開于左、

○三四〇 知覽行寬口上覺(三四〇上)
口上覺

名跡所帶方難涉之上、段々吉凶入價之儀相續、尚又及手迫居候處、先年より之借財者勿論、私領近

年無類之凶作、依願出御當地調達金を以、救米過分買入差下候取救之儀御座候付、右様之返弁も不相調、且持高出米之儀者、前より私領遠海端島之御取訳を以、大坂御蔵江代銀上納被仰付、難有前後差繰致來候處、大坂表御拂米御直迫相進、御當地相場三者引合兼、殊三種子嶋米之儀者米柄相劣、夫丈直成下落仕候付、猶以餘勢逆度不相見得、是又脇方借入等ニ付差足置而、何れ今形ニ而者是迄之借財差屯難渋難黙止与存候ニ付、外ニ取補ニ罷成程茂島元産物逆茂無御座候付、蔗作仕砂糖御免被仰付被下度、文政十一年亥九月奉願趣御座候處、難有御免被仰付、精、蔗作為仕候付、近年中三者出来高相増、持高出米上納方勿論、蔵方取補可相成哉与存候折柄、天保六年未年諸所新製砂糖御定数斤被仰渡候節、種子島之儀者拾五万斤を限被仰渡、難有奉承知候、左候得者前条申上通、無據訳合及借財居候金返済、又者大坂上納金依年柄而者速、困窮罷成、殊更當時名跡中之儀ニ

而、松壽院殿氣之毒被存候様成立候半茂難計儀与、別而心痛仕候間、誠ニ御時節柄恐多奉存候得共、右御定斤高之餘勢ニ而者、何れ往年蔵方取補之道度届不申候間、何卒御憐愍被召加、今五万斤被相重、都合式拾万斤、是迄之御仕向通を以製法方御免被仰付被下度奉願上候、於其儀者現田畑相除、山野等江植付候様可仕候間、此等之趣被仰上被下度奉願上候、以上、

(行寛)
知覽才兵衛

亥
十月

(三四〇の?)
張紙

此表不容易之儀候得共、願之通重製法方申付候条、是迄之通無手拔取計候様申付候、

御勝手方掛

平川市左衛門

○十一月三日、赦ニ中之村新吉・甚作ニ出、牢、

○四日、與青銅百疋于洲之崎之仲次郎、令船數艘運漕米于覺邸、到于山川港、風不順、而不能發船、仲次郎獨盡力操船速達于覺邸、故賞之也、

○九日、賜米一石於吉良休四郎、數年爲船手檢者、以困窮辭之、故與米以賑救之、

○十日、與米六斗于工匠之輩、賞盡力速造作物奉行所也、

○十七日、野間村井原之仲之進納科錢五百文、坐中途對西村甚五太夫失禮、且以巾裏頭徘徊城内也、

○同日、賜真米六斗于平山村里正村吏及一村之人民、能務稼穡又守令能製入米苞、故賞之也、

○十八日、御藥園方掛稻津正助赴于屋久島、

○廿五日、國老島津但馬久風傳命、於境瀬戸見處宇多津傳次郎死罪、事記于左、

○三四一 島津久風達書

於境瀬戸

死罪むくろためし

宇多津傳次郎

主人續米六拾石自船江積入、去申十一月山川江滯船之折博奕いたし打負候付、右米之内賣拂、御當地江乘廻り候上、不足文者可相補旨水主周左衛門江も配分博奕いたし、且指宿十二町村之三藏外ニ壱人より米買入度強而任申、周左衛門并水主之甚吉申談、都而之真赤米五拾三石代金七拾八兩餘賣拂、兩人江者拾兩ツ、致配分、歸帆之折難船ニ逢候筋取繕、積荷都而打捨候旨役、江申出置、右金子色、仕捨候處、相補候旨問付之上白狀いたし、別而不屈之仕形ニ付、右之通被行死罪候、

十一月廿五日

(島津久風) 但馬

○廿七日、國老島津但馬傳流池田浦之甚吉于喜界島命、事記于左、

○三四二 島津久風達書

喜界島江遠島

池田浦之

甚吉

宇多津傳次郎船江主人米六拾石積入御當池江致
廻船候付、水主として差越、於山川傳次郎并同
水主周左衛門致博奕打負候付、右米之内七石賣
拂、其後指宿十二町村之三藏外ニ卷人より、真
赤米五拾石代金七拾八兩餘賣拂、拾兩逢配分、
歸帆之折難船之筋取纏、積荷都而打捨候旨役、
江申出置、金子仕捨且於山川致博奕候儀問付之
上申出、別而不屈之仕形ニ付、右之通被仰付
候、

右申渡、便船無之内者本之通入牢可申付置候、

十二月廿七日

(島津久風) 但馬

○以羽生嘉右衛門爲用人、賜羽織、與聽物奉
行及勝手方一島蕃殖之事、船奉行如故、去歲
覺邸府庫困窮日用不辨、故使嘉右衛門歸于種

子島司運漕米上、而能盡力送米甚速也、故
賞之及茲、

○與金子五兩于長野兩助、以府庫困窮不諭
輪替、役覺府、故與之以助資用、

○命河内覺右衛門司勸農及產物蕃殖、隨物奉
行富府庫上、

○賜日高源右衛門爲武銀七枚助困窮、

○使前田太兵衛宗周・西村甚五太夫時員・西村七
郎時民・前田十九郎宗恭・平山新兵衛武雄・上妻
才次郎宗敏・種子島次郎左衛門時習・西村源五右
衛門時之聽松濤庵之事、

○監察一向宗聞于官、如例、

○十二月三日、古田村郷土榎本七郎次納科錢一貫
文、坐伐上之原山翳前之木也、

○四日、下西之表横目桑山五左衛門・作見廻名越傳
藏寺入于滿德寺各七日、坐種鬱金園圍處置
有不正之事上也、

○七日、異國船一艘唐船漂來于西之村、過角倉

崎離角倉可二十町水中有瀨、稱到二前之濱可半船漸沈

於屋瀬蓋觸之壞船底者也

程

沒、船上人都乘二傳馬、將二上陸、風暴波洪而不

得、近岸、向二南洋、流失、即促舟欲救之不

及、本船亦流二西南、及晚風濤益起、且促雪

天地昏暗、竟失所行、島間在番西村九郎時起

以二飛札二達、八日、家老西村甚五太夫時員・美

坐七郎右衛門時敏、横目種子島次郎左衛門時習・

西村甚五右衛門時哉、船奉行下村惣太郎時芳、政

府書吏田上助市、譯者山崎筑右衛門・下村貞之助

・笹河彦助、内横目下村用二・鮫島周八、船功者

八板盛右衛門、船惣木工桑原吉兵衛、且唐物方横

目大河平源七郎、附役上野林右衛門、締方永山覺

兵衛・種子島翁之助、和藥方稻津正助、會所横目

種子島五郎衛門・上妻七兵衛、夜半到二于西之

村、詳聽二村吏之言、使三人成二中之村・莖永村・

平山村之海邊、又促船遣二緒方權蔵于屋久島、

搜二聞異國船之事、

○十三日、上妻新七獻二斗搗之餅、如例、

○十五日、西村龍次郎初謁見、獻二征矢、

○同日、促二飛船、使二種子島次郎左衛門時習、聞二異

國船破船之事于 官、開于左、

○三四三 西村時員・美座時敏連署覺

覺 種子嶋

當月七日唐船等數艘より十三里下西之村前二而水

船二相成、乗組人数橋舟江乗移候得共、沖江被吹

出候段、西之村役目より申出、即我々并掛役々召

列西之村江差入、其所役々江承届候處、七日昼時

分、不見馴大船西之方より乘來候折、西之村か

どくら崎と申候而、嶋元二而者一二与申程之潮早

之所二而、おや瀬与申候而半里計沖江瀬有之、右

之瀬江乗掛船底傷候哉、右所より半里計前濱沖二

而水船二相成、本船乗捨、橋舟二而移候得共、大

西風至而烈敷、浪高沖江被吹出、殊二雨雪之天氣

故洋中暗、無程橋舟茂見得兼候様相成由、勿論助

船手當をも為致候得共、風波強大浪立二而容易二

難乘行、漸日入前本船百間計之所迄者乘行候得共、浪高本船迄者乘付候儀不相成、助船も危難之躰^ニ而漸乘戻申候由、左候而其夜者猶以風波烈敷、無是非其所役、海邊江出張、篝火等焼せ、夜明^ニ相成候而見申候處、本船相見得不申候付、遠見番共^ニ見せ候處、巳午之方四里計沖江幽^ニ見得居候得共、最早不相見得段、若沈荷等も有之間敷哉与、今日茂海底漁船^ニ而搜候得共、見當不申、猶又流寄候品物茂一切無御座候、依而萬一寄來候茂難計、海邊江者所、番人召付置申候、此段御披露仕候間可被申上候、以上、

亥

十二月九日

種子島役人

美座七郎右衛門印
(時敏)

西村甚五太夫印
(時貞)

知覽才兵衛殿
(行寛)

日高源右衛門殿
(為武)

○廿七日、三箇寺及廿人家・鍛冶進上、如例、

○廿八日、官命^下以^ニ異國船破船之故^一處置之事上、記^于左、

○三四四 異國船掛達書

當月七日唐船等敷船^一、其嶋西之村洋^ニ而水船^ニ相成、本船乘捨橋船江乗移候得共、風波強本船并橋船共^ニ行衛不相知段、飛船取仕^一細、申越相達候、右^ニ付積荷等流寄之儀も難計候付、海邊江役、等昼夜相詰致取締、自然流寄候品有之候ハ、取揚之、入念致取始末、早速飛船を以可申越候、尤唐船改并吳國船掛書役、其外役、差越候間、万端得差圖、旅扶持其外諸事等無滯相弁、諸事入念相動、聊大形存間敷者也、

亥

十二月廿八日

吳國船掛

種子嶋役人

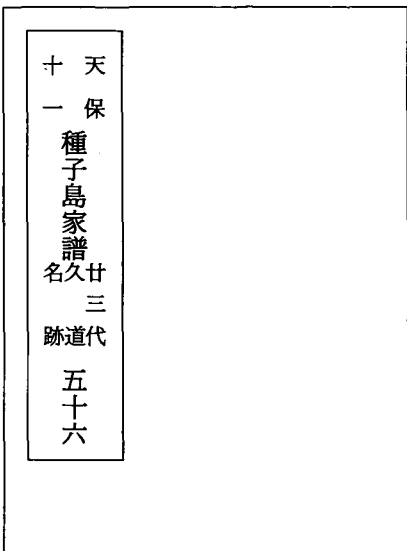
○廿八日、安城村足輕山口喜太郎乘^ニ酒狂^一與^ニ川脇

塩戸松右衛門一争論小事一、執三松右衛門夫婦老

衰之者一困三辱之一、故下レ牢、

○歳暮、規式、如レ例、

表紙



- 天保十一年庚子正月元日、規式、如例、
- 同日、國上村獻_三野老_一、
- 二日、現和村庄司浦獻_レ鰻、國上村獻_一瀬物_一、
- 同日、覽_二馬於廣間_一 名代家老・馬、役姓名不知
- 同日、八箇寺進上、如例、
- 同日、種子島次郎左衛門時習自_二覺府_一歸、官命_下御裁許奉行東郷十九郎・唐船改高崎喜兵衛等

數十人下島按_二察異國船破船之事_一于用頼上、故覽邸之家老日高源右衛門為武・知覽才兵衛行寬贈_レ書達_レ之、事開_二于左_一、

○三四五 知覽行寬・日高為武連署達書

御裁許方掛御目附

東郷十九郎様

其外之御名前略之

右者、此節唐船一件御披露_二相成候處、直_二種子島之様被差越候段致承知候、左候而昨日八ツ時分山川之様陸地より御越_二而、順風次第其御元之様御下之由御坐候、左候而

御上御吹聴之儀者御内用之儀_二付、右御人数山川迄被差越、ちよつと山川表より其御元江被差越姿_二被仰出候段、御用頼迄被仰渡候間、左様御承知被成度、勿論右御役、御下_二付而者、萬事無手被様取計いたし候様、島許役、江も可致掛合旨、分而被仰渡候間、旁御趣意通御取計被成度、尚又委

細之儀次郎左衛門より御聞可被成候、

右条々、御左右旁御掛合申達候、以上、

日高源右衛門(為武)

十二月廿八日

知覧才兵衛(行寛)

前田太兵衛殿(宗備)

西村甚五大夫殿(時昌)

平山傳一郎殿(武世)

美坐七郎右衛門殿(時敏)

○四日、上之郡庄官・小觸献上、如例、

○六日、初狩、名代家老代西村次郎兵衛時之、物奉
行姓名不知、用人森周右衛門友諒、組頭種子島五郎衛

門時義・上妻七兵衛宗徳・西村勇八郎時弘、山奉
行東市郎右衛門・美坐玄助・羽生管矢、西之表村
庄官獻酒肴、如例、

○七日、中之郡・下之郡庄官献上、如例、

○同日、上妻弥七左衛門初謁見、獻征矢一手、

○同日、羽生辰之丞・遠藤龜太郎初謁見、獻火繩
十曲、

○十日、御裁許掛御目附東郷十九郎從者二人、横目東郷

勇介・田中傳兵衛、筆吏折田清次、兵具方足輕田
中龍藏・高津傳左衛門・藤島清太郎・有馬弥右衛
門・本村吉左衛門・池田鉄太郎、唐船改高崎喜兵

衛、異國方筆吏堀與左衛門・田中伊三太・若松次
右衛門、與力坂口源七兵衛・黒江伴左衛門、足輕

竹迫平右衛門・熊本六郎兵衛・有馬太助・野添鉄
太郎從佐多来、為檢察異國船破船之事也、

豫遣物奉行岩河十右衛門時行、筆吏武田平蔵于
西之村、収魚鳥菜薪、定旅館、具諸事之

用、又召隣村之吏分與聽官使之事、撰
女兒備行酒之用、或使普請奉行・馬役檢者

等修驛館・修治道路、賦乘馬驛馬役夫等上、
一島太騷働、

○十一日、蓮勝寺獻神酒・齋盛、如例、

○同日、在郷諸寺献上、如例、

○同日、甲冑之賀、如例、

○同日、的始、名代家老平山傳一郎武世、用人西村勇八郎時弘、射手一番美坐織太郎・西村七左衛門、二番下村十郎・上妻弥七左衛門、三番日高惣四郎・八板多平太、諸式如例、

○同日、於本源寺軍陣・温坐祈念、如例、

○同日、東郷十九郎等赴于西之村、家老西村甚五太夫時員、横目西村源五右衛門時之、政府筆吏田上助市、調菜人四人從之、是夜宿于濱津脇、翌廿二日到于西之村、十三日出前濱鑑察山海、召村吏聽破船之事、已之刻發西之村、到于島間村、十四日發島間村、到住吉村、十五日歸于赤尾木、不好酒宴故雖一夜不勸酒

○十三日、唐船改高崎喜兵衛等赴于西之村、家老美坐七郎右衛門時敏、用人種子島次郎左衛門時習、筆吏上妻田代、調菜人三人從之、今夜宿于濱津脇、十四日發濱津脇、到坂井村中田、遇雨一宿、十五日到于西之村、即出前濱

圖畫山海之象、十六日令漁舟到破船之處、檢察、到三角倉崎、又圖畫地形、十七日發西之村、到于島間村、十九日發島間村、到莖永村、廿日遊覽竹崎寶滿池、廿一日發莖永村、經過平山村、到油久村、廿二日到于住吉村、廿四日歸于赤尾木、凡所到寫之圖畫、喜女兒專遊宴所寶酒肴不可枚舉

○十六日、從屋久島飛船歸、彼地之譯者塚田藤太郎來、

○十八日、促小舟御兵具方與力坂口源七兵衛・足輕熊元六郎兵衛・屋久島譯者塚田藤太郎赴于屋久島、以譯者藤太郎言唐船楫木漂來于屋久島也、

○廿四日、以河東雄助為兵具奉行、

○廿六日、以西村次郎兵衛時之為家老、上妻才次郎宗敏物奉行、

○同日、羽生太左衛門能俊為用人之間、歲與米一石以助其貧、

○同月、納^(日)三狩所獲鹿皮于官、

○廿七日夜、前田良右衛門宅火、燒^(日)宗門手札、事聞于官、

○二月三日、從^(日)佐多飛船來、達^(日)異國方筆吏贈^(日)高崎喜兵衛・堀與左衛門^(日)之書上、

○十五日、田上盛也・鮫島新藏・長野善太郎・川口周藏・井元勇助初謁見、獻^(日)火繩十曲、

○廿日、唐物方横目黒田伊兵衛・附役日高戸左衛門、締方三崎鹿之助・早川直次郎來、

○廿九日、賜^(日)扶持高五斗所于柳田仙右衛門、同五斗所熊野谷六左衛門、先年為^(日)造營^(日)之時、從^(日)朝至暮不^(日)惜^(日)筋骨以^(日)勤勞^(日)也、

○同日、賜^(日)扶持高一石于上妻多十郎、以下為^(日)寯邸定府勤仕^(日)也、

○同月、野間村之古市惣左衛門以^(日)納^(日)錢五十貫文^(日)為^(日)代々郷士、

○同月、檢察一向宗聞^(日)于官、如^(日)例、

○三月二日、以^(日)下村惣太郎時憲^(日)為^(日)用人^(日)、河内

覺右衛門船奉行、

○三日、以^(日)前田新五兵衛宗誠披^(日)法章^(日)、

○同日、賀^(日)瀬引^(日)西之表庄官獻^(日)酒肴^(日)、如^(日)例、

○五日、大坂御假屋附竹之内万平、川御坐船定水主吉田與^(日)三次見^(日)放來、

○十一日、以^(日)種子島友右衛門時大為^(日)用人^(日)、

○同日、賜^(日)銀二兩于上西之表横山之吉太郎、作^(日)切付馬肌一前獻^(日)之、賞^(日)之也、

○同日、住吉村中宿士長野仁右衛門養子長野新七以^(日)旧足輕^(日)貶^(日)家格^(日)為^(日)郷士^(日)、

○十三日、赦^(日)安城村足輕山口喜太郎^(日)出^(日)牢、

○十四日、野間村足輕長深田今七宅火、燒^(日)宗門手札^(日)三枚、事聞^(日)于官^(日)、

○廿日、以^(日)種子島次郎左衛門時習^(日)為^(日)物奉行見習^(日)、用人如^(日)故、異國船破^(日)船于西之村之日、

促^(日)飛船^(日)使^(日)次郎左衛門聞^(日)于官^(日)、即翌日諸官使^(日)陸行到^(日)于山川^(日)將^(日)來^(日)于種子島^(日)、故命^(日)次郎

左衛門^(日)速歸島達^(日)之、若不^(日)然則恐出^(日)匆忙^(日)諸事^(日)

不_レ辨、次郎左衛門不_レ厭_レ勞不_レ避_レ風浪、速歸島、事全屬_レ穩便_一、故及_レ茲、

○前中將公嘗 命_下改_三革一統之職事、盡_レ力務_三蕃殖_一附_中益府庫_上、而庶民能守_レ命、勵_二農業_一、砂糖大蕃殖、甚為_二府庫之助_一、即聞_二公_一、且使_二家老日高源右衛門為武歸島_一、褒_二賞家老以下一_一島庶人_一、

○廿一日、賜_二赤米二斗于西町之清次郎_一、以下為_二飛船船長_一、趣_二覺府_一不_レ過_二七日_一往來_上也、

○四月八日、二階堂右八郎贈_二書示_三糸荷船漂流之日處置之法_一、且禁_レ商_二唐貨_一、

○十日、本源寺弓場射禮、家老・用人覽_レ之、上妻七郎左衛門軍勢書入束矢、

○十四日、公儀流人無宿宗旨浄土宗之松之助病死、事聞_三于官_一、

○十五日、以_二異國船來之候_一國老菱刈安房・島津石見贈_レ書傳_三長崎奉行之令_一、如_レ例、

○同日、桑山直太郎・三浦藤兵衛寺入三七日、以下

為_二覺府邸代官_一簿書不_レ正也脫落米、錢之數

○同日、叱_二名越船右衛門・河野佐助_一、共為_二覺府邸普請方下代_一簿書不_レ正也、

○廿二日、官賞_二種子島次郎左衛門時習_一、異國船破船之日處置適_レ宜賜_二褒詞_一、

○廿五日、現和村足輕小山田甚五左衛門・住吉村足輕深田仁作以_レ納_二各錢五十貫文_一為_二代々郷士_一、

○同日、以_二羽生新十郎_一為_二船奉行_一、日高周左衛門高奉行、

○廿七日、締方三崎鹿之助病歸_三于覺府_一、

○同月、以_二日高杉右衛門_一為_二用人_一、船奉行如_レ故、

○同月、莖永村足輕岩坪伴五郎為_二一代郷士_一、為_レ僕役_三于覺府_一、今雖_レ請_二暇以二年未_レ久不_レ許而役_三仕之_一、故及_レ茲、

○同月、八板十郎左衛門獲_レ猿獻_レ之、故賜_二染布一端_一、

○五月五日、賜_二粽各二束于三ヶ寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○八日、家老・物奉行・用人覽_三武藝_一、一番鎗法鏡智流師範平山二郎大夫名代羽生紋九郎・種子島五郎衛門、二番劍法天真流日高源七郎・遠藤杜兵衛、三番示現流吉良甚助・宮浦半之丞、四番性一流西村惣次、五番影之流長野良左衛門弟子、六番拳法鮫島貞哉、七番拳法・捧足輕大瀬源兵衛、

○同日、第二女子婦以_三妊娠_一、令_三三ヶ寺及松濤庵折平産_一、

○廿日、以_三西村休八時乘_一為_三番頭_一、

○六月九日、現和村近政之吉次郎縊死、事聞_三于官_一、

○十八日、以_三知覽覺之丞_一為_三物奉行_一、歲與_三銀七枚_一換_三于官俸_一、

○同日、賜_三高十石于家老知覽才兵衛行寬_一、多年役_三于覺府_一以_レ有_三勤勞_一、前中將公數賞_レ之有_三恩賜_一、到_レ老辭_三家郷_一在_三狹少之旅舎_一、日夜盡_三心力齋_三家政_一、一島屬_三静謐_一、加之當_三府庫空耗_一、公數入_三與于邸_一、且_三女子修_三婚儀_一、其費

不_レ少、能處_レ之無_三停滯_一、或請_レ製_レ糖得_レ到_三二十万斤_一、大附_三益府庫_一、其功甚大、不_レ可_レ不_レ有_三錄_一功于後世之賞、故及_レ茲、

○廿二日、家老知覽才兵衛行寬死、

○廿三日、賜_三銀三枚于阿世知仲五郎_一、以_レ去歲為_レ買_三易生蠟于大坂_一之檢者_一、不_レ拒_レ命速登坂_一也、

○廿六日、安城村足輕鮫島三右衛門子三九郎發_レ狂_一、慕_レ戾不_レ可_レ當、村吏訴_レ之、遣_三兵具奉行日高藤次郎_一・内横目下村要_二及足輕四人_一執_レ之、幽_三于私室_一、

○晦日、西之表庄官獻_三西瓜一豆・酒二壺_一賀_三夏越_一、如_レ例、

○七月一日、以_三種子島友右衛門時大_一・西村勇八郎時弘_一・森周右衛門友諒_一為_三組頭_一、西村直之進時義兵具奉行、美坐玄助普請奉行、美坐織右衛門高奉行、岩河九郎助山奉行、美坐直次馬役、

○三日、賜_三上下一領于吉良休四郎_一、以_レ數年為_三

船手檢者、勤勞上増ニ加扶持米一辭不レ受、議欲
為ニ小頭ニ、恐彼性質正直不レ好ニ名利、必以レ他
辭レ職、故及レ茲、

○七日、當番家老拜ニ 日深公鑑于廣間、

○八日、名代家老日高源右衛門為武詣ニ于大會寺、

祭ニ 祖先及戰死之靈、

○十三日、名代家老前田太兵衛宗周詣ニ于慈遠寺、

祭ニ 祖先及戰死之靈、

○十四日、名代家老美坐七郎右衛門時敏詣ニ于本源

寺、祭ニ 祖先、

○十六日、名代家老平山傳一郎武世詣ニ于本源寺、

祭ニ 祖先及戰死之靈、

○十七日、大風、國上村・増田村・坂井村・莖永村

・西之村、損ニ田地、

○廿日、大會寺僧惠明院禁齋二十日、以ニ不レ受レ命

改ニ造本堂于高棟一也、

○廿六日、叱ニ前田良右衛門、積ニ砂糖ニ之日、不レ

知ニ取レ量之法ニ放言、故及ニ于茲、

○廿九日、上西之表足輕新園善助寺入二七日、以
載ニ砂糖于船ニ之日放言上也、

○官 以ニ吾臣山路玄良ニ為ニ世々郡山郷土、高輪
邸奥醫師歲賜ニ俸米五十俵、以令ニ仕ニ松壽院
殿、

○八月一日、賜ニ中紙各二束于慈遠寺・大會寺、
二ヶ寺亦獻ニ同品、

○同日、島間浦之覺之丞下レ牢百日、禁ニ旅行ニ三
年、嘗為ニ水棺ニ載レ無ニ信牌ニ茶上、事發ニ覺 官
於ニ大門口ニ糺レ之日、欺得ニ家老之許、故及レ
茲、

○八日、賜ニ米二斗于八板盛右衛門、以レ勤ニ勞于
船手ニ也、

○十日、馬追、名代家老美坐七郎右衛門時敏、物奉
行若河十右衛門時行、用人西村甚五右衛門時哉、
馬役下村源之丞・笹河九兵衛・河東仲助・美坐直
次、醫師知覺桃節、

○同日、吉平友碩寺ニ入于妙泉寺ニ七日、八板平右

衛門寺_二入日輪寺_一三七日、共坐_三為_レ吏簿書不_レ正也、

○十五日、蓮勝寺獻_三神酒・黍盛_一、如_レ例、

○同日、野間村大平之百姓甚平宅火、人馬・宗門手札無_レ恙、

○廿一日、賜_三赤米二斗于庄次郎_一、以下為_三飛船々長二五日而往_中来于山川_上也、

○晦日、今年大風、以_三田地不_レ登古田村・島間村・坂井村・納官村・野間村減_レ賦、有_レ差、

○是月、縣官傳_レ命、禁_下傷_レ川流_一墾_中壁田地_上、事記_三于左_一、

○三四六 幕府触書

於國々新田畑之儀_二付而者、享保・安永中被仰出趣も有_レ之候處、諸國川筋之儀連々押埋、水行悪敷相成候間、自今以後諸國共御領・私領不限、川通之附寄測を新開取立候儀不及申上段、真菰等植出之儀堅仕間敷、追々生立場所刈拂、此上附測之不

相成様可心掛候、但私領之内古田畑川欠等_二相成居候分、前後村方之差障無之起返可取掛場所有之候ハ、御勘定_三江聞合得差圖可申候、難相分儀有之節者見分之差遣候而可有之候、且又一統水源より海口迄一領分籠候川筋之附測之儀も、本文之趣_二準し可相心掛候、右之通寛政十二年相觸置候處、其後年曆も相立候_二付、猶以相觸候間、弥以違失無之様可申渡候、

○九月九日、令_三前田新五兵衛宗誠讀_三法章_一、

○十一日、現和村庄司浦之甚七宅火、延及_三弥次郎・市五郎・作次・善次郎・休兵衛宅_一、甚七燒_二宗門手札一枚_一、其餘人馬無_レ恙、事聞_三于官_一、

○十二日、池田浦之太吉納_二科錢一貫文_一、且留_二旅行三年、竊積_三所_レ禁之莪述_二而到_三山川_一、及_二露頭_一、連及古田村嘉_三三次納_三科炭十俵_一、犯_レ法以_レ賣_二莪述池田浦之太吉_一也、

○廿八日、唐物方横目今村金次・附役清水盛右衛門

来、

○十月四日、以種子島次郎左衛門時習、為物奉行、

○七日、赦山野之稅、以二年不登也、

○九日、名代家老姓名不知詣于本源寺、盛祭宗祖之菓子、

○十一日・十三日、名代家老日高源右衛門為武詣于本源寺、祭宗祖日蓮、

○十七日、能野之三之進・定右衛門・孝八・万四郎、許夫役二年、以下峰崎助次郎於能野有病至死能保護也、

○廿六日、時任駒袈婆元服、名代家老平山傳一郎武世加冠、家老美坐七郎右衛門時敏理髮改字平八、獻賜如例、

○同月、賜木綿布一端于武田平藏、為覺府邸政府筆吏、當家老知覽行寬從病中至死諸事繁多、煩能勤勞、故賞之也、

○廿八日、叱山崎長次・山崎善之進・山崎半多、

釣大崎洋之時松材流來、則伐之為薪犯法、故及于茲、

○同月、以日高源藏為親、為組頭、市來勝之進・上妻新大夫馬役、

○十一月十一日、島間浦之甚右衛門・庄太郎納科錢五百文、為水手、載無信牌、茶上故也、

○十六日、以西村田代時和為用人、

○十七日、以第一女子久征徳美妊服、令三箇寺及松濤庵祈平産、

○十九日、賜扶持高五斗所鮫島與平次、以下常修行筆法、亦有精勤也、

○同月、家老西村次郎兵衛時之・美坐七郎右衛門時敏、船奉行羽生新十郎・河内六郎時然為異國方掛、

○同月、檢察一向宗聞于官、如例、

○同月、住吉村郷士上妻多十郎、以多年為僕勤仕、與高五斗、

○同月、平山村濱田ヶ浦之万次郎、為稻葉丸水

手_二赴_三于江府_一之日、欲_レ之_二外浦_一無_三券書_一、故避_レ關經_三山中_一行、事發覺、見_レ幽_三于上町會所_一、

○同月、高城郡上村門名子旧田島氏與市、尊_三崇_一一向宗_一見_レ放來、

○同月、國老島津但馬・島津石見・菱刈安房 命_三重出米_一、雖_三期既盡_一、以_三官庫費用多_一猶令_レ納_レ之、事開_三于左_一、

○三四七 菱刈隆觀外二名連署申渡書

重出米之儀、去年迄_二而答合候_一ニ付、御用捨被仰付答候得共、近年莫大之御入價致增長、逆茂其通ニも難被仰付吟味之訳有之、是迄之通可致上納候、左候而何分之儀、追而可申渡候、此旨向_レ江不洩樣可申渡候、

十一月

(島津久風) 但馬
(島津久明) 石見
(菱刈隆觀) 安房

○十二月十日、山崎六郎・池村孫七・中村小平太・牧長袈裟・上妻藤八・宮浦半藏初謁見、各獻_三火繩十曲_一、

○十三日、上妻新七獻_三斗搗餅_一、如_レ例、

○十八日、與_三日高周左衛門_一・大牟禮良七鷲羽_一、賞_三學_レ射不_レ怠也、

○廿三日、鮫島孫右衛門・日高周左衛門・西村藏多

為_三納殿役人_一、期_三二年_一役_三于覺府_一、

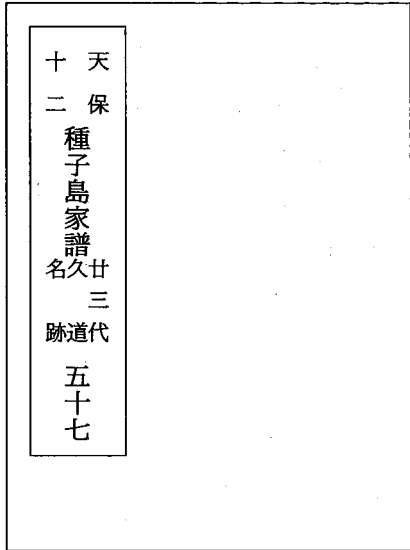
○廿七日、三箇寺及廿人家・鍛冶賀_(ツツ)歲暮_一獻上、

如_レ例、

○廿九日、持佛堂名代家老西村次郎兵衛時之、

○除夜、名代家老日高源右衛門為武詣_三于本源寺_一、

表紙



- 天保十二年辛丑正月元日、諸式、如_レ例、
- 同日、國上村獻_二野老_一、
- 二日、國上村獻_二瀬物、現和村・庄司浦鯨_一、
- 同日、覽_二馬廣間庭_一名代家老及、馬役失姓名
- 同日、八箇寺進上、如_レ例、
- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如_レ例、
- 同日、平山村足輕小川桑右衛門宅失火、延及_二徳

- 永貞右衛門・徳永直次郎宅_一、人馬無_レ恙、桑右衛門焼_二宗門手札六枚_一、事聞_二于官_一令_レ出_二科錢二百文_一、
- 六日、初狩、名代家老美座七郎右衛門時敏、組頭西村勇八郎時弘・森周右衛門友諒・羽生太左衛門能俊、山奉行東市郎右衛門・遠藤壯兵衛・知覽才之允、夕狩場、諸式如_レ例、種子嶋友之助政賢獲_レ鹿、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上、如_レ例、
- 十一日、甲冑之賀、如_レ例、
- 同日、蓮勝寺獻_二神酒・棗盛_一、如_レ例、
- 同日、在郷諸寺献上、如_レ例、
- 同日黄昏、的始、名代家老美座七郎右衛門時敏、用人前田新五兵衛宗誠、射手一番美座纒太郎、岩川十藏、二番下村要二、蛟島彌七、三番日高惣四郎、八板太平太
- 同日、本源寺軍陣・温坐祈念、如_レ例、
- 十五日、叱_二坂井村庄官柳田甚之進_一、七日賀_二年始之日受_レ疾、不_レ使_二横目代_一使_二己子代_一、故及_レ

茲、

○十九日、莖永村百姓彦四郎宅失火、延及彦平・

勇左衛門宅、燒宗門手札七枚、事聞于官、

○閏正月十五日、遠藤健太郎初謁見、獻征矢一

手、名代家老・三役失姓

○二月一日、以國上伴九郎為高奉行、

○同日、安城村足輕武田半右衛門・武田周六各納

科錢一貫文、坐伐制札場之松為圃也、

○三日、除定走番榎本善次三日之參、賞告急

於國上村速往來也、

○十八日、河野助市・榎本三友・柳田休五右衛門

納科錢一貫文、坐其僕伐列松平日教誨之

疎也、

○同日、叱増田村足輕西田傳次郎・坂井村河口才

之丞・嶋間村足輕岩坪次作・西之村足輕濱田彦十

郎、以下去歲為砂糖精製長權衡不_レ平於大坂斤

數有_レ差也、

○廿二日、以鮫嶋有右衛門為勝手方掛、

○廿三日、官赦竹之内万平・吉田與三次、

○同日、官使赤尾木之嘉太郎納科錢一貫文、

嘗從大坂歸之日、以逆風不入于内浦港、

故罪之也、

○同日、一世郷土西之村名越惣四郎・莖永村岩坪次

左衛門為代々郷士、以下當府庫窮之獻所自

製砂糖代製長質米錢及金子也、

○廿六日、以西村太平次為船奉行、

○廿九日、唐物方横目黒田猪兵衛、附役中村六之

進、締方横目有川惣次郎・鎌田清藏來、

○同日、日高平次初謁見、獻征矢、上妻孫助初

謁見、獻火繩、

○同日、鮫島次郎元服、獻太刀・馬代、賜字惣

次郎及盃酒・的矢、加冠名代家老前田太兵衛宗

周・家老日高源右衛門為武、理髮前田十九郎宗

恭、

○按察一向宗聞于官、如例、

○三月朔日、以物奉行上妻小左衛門定直為勝手

方掛^一、遠藤壯兵衛普請奉行、篠河九兵衛・池村五後右衛門山奉行、

○三日、令^三種子嶋友右衛門時大讀^三法章于廣間^一、

○同日、與^三艾餅于三箇寺^一、慈遠寺獻^三同品^一、

○同日、賀^三瀨引^一、西之表庄官獻^三酒肴^一、

○十八日、家老・物奉行・用人閱^三武于廣間庭^一、

鏡智流槍術師範種子嶋五郎衛門、天真流劍術遠藤

壯兵衛、示現流吉良甚助・宮浦半之允、水之流羽

生嘉右衛門^{大半禮良七代之}・下村要^二、金子流拳法鮫島

貞哉、十九日、鏡智流平山^{羽生紋九郎代之}二郎太夫、天

眞流日高源七郎、性一流西村惣次、水野流長野良

左衛門^{知賢才之九代之}、無双流拳法足輕大瀬源兵衛、

○廿七日、本源寺弓場射禮、上妻彌七郎軍勢書入束

矢、西村直之進・三浦平太金の束矢、各與^三鷲羽^一賞^レ之、

○同日、住吉丸運^三送砂糖于大坂^一、於^三日州日知屋

村濱脇^二遇^三大風^一破船、載貨盡沒、

○與^三木綿布一端于最上鹿之助^一、以下數役^三于慶府^一

勤勞也、

○與^三金子五兩于西村九左衛門^一、去秋為^レ議^三貨殖^一

家老・物奉行等出府之日為^三筆吏^一隨^レ之、時府物

奉行所筆吏遠藤宗兵衛有^レ病歸嶋、即令^三九左衛門代^レ之、而逾^レ期在^レ府且勤^三勞邸宅造營之事^一故

也、

○與^三金子三百足于羽生嘉右衛門^一、造^三森山氏船^一

之日令^三嘉右衛門與^三聰^一之、而為^レ定^三其價^一出府

焉、時府邸財用不^レ給故命^レ之運^三送米^一、嘉右衛

門速歸嶋載^レ米復到、賞^レ勞^三職事^一也、

○廿九日、以^三上妻七兵衛宗徳^一為^三異國方掛^一、

○四月六日、以^三府庫窮乏^一命^三儉約^一、且每^三世祿^一

石^一加^三賦米^一二升、官俸半減、扶持米減及賦^三牛

馬等^一、如^レ左、

○三四八 申渡書

一給分高尅斛^二付^一二升

一役料高平方減少

一役料高平方減少

一物成高

一現牛馬

一役人首尾好

一唐通事

一役所書役

一船頭年行司

一船手下部妻

一會所番人妻

一役人六人ニ而鹿兒嶋詰輪番を以罷上来候處、故

才兵衛定府ニ付、五人ニ而罷上候訳を以、巷詰

ニ米ニ斛ニ斗宛被下来候得共、半方減少被仰付

候、才兵衛代被召入六人ニ相成候節者、皆同引

取ニ而被下ニ不及候、

右條、相掛向、江可申渡候、

○八日、嶋津矢柄示ニ糸荷船漂來之處置及禁レ商ニ唐

貨、如レ例、

○十日、川口才之允寺入七日、坐レ伐ニ所レ禁松一

也、

○同日、鮫嶋九郎次僕・上妻七兵衛僕・肥後惣左衛

門僕・高崎九八僕・羽生彦八郎僕・池田浦之太八

・牧瀬傳之丞、各納ニ科錢一貫文、坐レ伐ニ小牧

坂上所レ禁松一也、

○十四日、家老前田太兵衛宗周致レ仕、猶朔望朝ニ

于政府ニ助ニ政事、

○十五日、以前田十九郎宗恭、為ニ家老、

○同日、國老傳ニ長崎奉行之令、示ニ異國船來處置

之法、如レ例、

○十八日、住吉村足輕深田仁助為ニ代々郷士、當ニ

府庫窮乏ニ賞レ献ニ錢五十貫四百七十二文一也、

○廿一日、坂井村郷士古市嘉左衛門寺入七日、以下

家貧不能レ納ニ賦稅一之故上、請下賣ニ禄地一以償上

之、許レ之、後勘ニ考村吏之筆書一不ニ全納ニ其賦

稅一、故及レ此、連及叱ニ村吏柳田甚之進・上妻惣

太郎・池山喜藤次・古市源助・徳永只次、

○與ニ高三石及廣瀬氏于前田良右衛門妹廣瀬一樹レ家

為「小頭」、以「多年勤」仕于松壽院殿「也、

○五月一日、定「中」之村・莖永村之境、「從」一陣之岩屋「至」聞悟之北峯、「

○二日、以「西村甚五兵衛」為「用人」、

○同日、以「遠藤喜右衛門」有「不正之說」免「內橫目」、

○五日、賜「粽各二束」于「三箇寺」、慈遠寺獻「同品」、

○十日、以「虫食」甘藷之葉「庶人患」之、使「山伏」讓「之分」與其札、「

○十一日、洪水、下之郡破「田地」、

○同日、下中之村百姓仲平母及娘採「薪」、歸路共溺「死于山神河」、翌日得「骸」于莖永村竹崎、「事聞」于「官」、

○十二日、小舟一艘漂「來」于莖永村竹崎、「載」杉材

木等、「締方橫目及吾橫目檢」察之、「聞」于「官」、

○十三日・十四日、修「放光院殿」十三年忌于本源寺、「初日八講、結日頓寫說道、名代家老西村次

郎兵衛時之、三女子名代河内六郎時然、法事奉行

下村惣太郎時憲・西村田代時和、靈膳奉行種子嶋友之助政賢・下村源之允、手長官浦藤九郎・河東

仲太夫、詰衆子嶋猪右衛門・前田平八・羽生岡右衛門・羽生紋九郎、出家三十五人、

○十七日、大風、

○十八日、現和村近政之竹次郎男子溺「死于田代河」、聞「于」官、「

○廿四日、以「羽生太左衛門」為「物奉行」、上妻才次郎宗敏勝手方掛、東市郎右衛門普請奉行、河東

仲太夫高奉行、中田宇平太山奉行、下村十藏馬役、

○廿八日、莖永村日高九十郎・岩坪次左衛門・百姓次郎吉、各納「科錢五百文」、坐「伐」所「禁樹」也、

○同日、莖永村古市五次助・日高市郎・柳田造右衛

門・馬場惣兵衛・百姓與三太・十五郎・兵七・喜三次・與四郎、各納「科錢一貫文」、坐「伐」中

村田地潮防場之樹也、

○御鳥方掛折田良右衛門携雉子四十一來、放諸國上村郊外禁射之、

○檢察一向宗聞于官、如例、

○六月十六日、樋口權藏納科錢三百文、坐於船長私載鹿皮事見、雖命卸之不受命而發港也、

○官見赦公儀流人安次郎・龜次郎、然請居住不歸、

○官令大壽丸船長休次郎納科錢二百文、運送砂糖于大坂歸之日、私乘大坂粟屋藤作外亦一人來故也、

○没取柳田市太郎高及家財、為學畫上京竊盜出亡、大煩官、且令府庫償其負債故也、

○晦日、賀夏越、西之表庄官獻上、如例、

○七月七日、飾日深公鑑於廣間、家老拜之、

○八日、以三岩河十右衛門時行為家老、西村甚五兵衛物奉行、

○同日、名代家老美座七郎右衛門時敏詣于大會寺、祭先祖・宗祖及戰死之靈、

○十三日、名代家老西村次郎兵衛時之詣于慈遠寺、祭先祖・宗祖及戰死之靈、

○十四日、名代家老日高源右衛門為武詣于本源寺、祭先祖、

○十六日、名代家老平山傳一郎武世詣于本源寺、祭祖先及戰死之靈、

○廿二日、阿高礪塩戸納科錢三百文、坐其一牧馬放逸于諸村食毛也、

○廿三日、山下寬齋寺入于滿徳寺、柳田善兵衛寺入于妙泉寺各七日、阿世知七郎・平瀬新六・名越與二・牧瀬覺太、納科錢三百文、東市祭禮之日犯法令婦女服彩衣故也、

○廿七日、馬追、名代家老前田十九郎宗恭、物奉行西村甚五兵衛、用人西村田代、馬役日高惣七郎・上妻新太夫・日高勘太郎・西村員右衛門、

○八月一日、賜中紙各二束于慈遠寺・大會寺、

二箇寺亦獻_二同品、

○十三日、莖永村足輕柳田與左衛門納_二科錢五百文、竹崎浦之長五郎・長藏・市助・庄五郎・彦助・市次郎各三百文、坐_下船漂_二到于竹崎_一之日有不正事也、

○十五日、蓮勝寺獻_二神酒・齋盛、

○廿三日、住吉村・莖永村・上里村以_二風損_一減_レ賦、有_レ差、

○同日、下西表村百姓岩吉納_二科錢五百文、坐_下對_二家老前田太兵衛宗周一失_レ禮也、

○同日、海士泊浦之嘉吉・住吉村之利兵衛各納_二科錢一貫文、坐_下嘉吉令_二利兵衛私伐_二櫻材_一也、

○九月五日、上里村百姓惣市宅火、人馬・手札無_レ恙、

○九日、令_二前田新五兵衛宗誠讀_二法章、

○十日、公儀流人筆吉死、事聞_二于官_一、

○十五日、以_二渡邊早右衛門兼重_一為_二用人_一、西村田代本源寺社奉行、知覽才之允普請奉行、日高

惣七郎山奉行、

○同日、賜_二上下一領于上妻七兵衛宗徳_一、賞_下往_二買_二物成高_一、定高某石稅入幾石、實他謂之物成高、今令土庶之有錢者償返之、以與米 十石、今察_二府庫之困窮_一、獻_レ之也、

○十六日、家老美座七郎右衛門時敏以_二世祿多_一辭_二俸祿_一、

○十七日、官令_二船長榎本新五郎納_二科錢一貫文_一、坐_下從_二大坂_一歸之日以_二風浪惡_一不_レ入_中于内之浦也、

○十月一日、横目東郷勇助護_二送_二公儀流人九人_一來、如_レ左、

○三四九 公儀流人書上

一一向宗 無宿江戸之 新兵衛 無宿穢多乏之 駒吉 無宿穢多

一右同 小重太

一右同 藤右衛門町浮田屋八郎左衛門支配 借屋河内屋 次兵衛

一淨土宗 無宿縫屋之 福蔵

築山茂左衛門御代官所攝州西
成都曾根輪村利兵衛

一一向宗

無宿摩之

若藏

一一向宗

無宿機多

久吉

一法華宗

無宿江戸之

栄三郎

流人御取計之仰渡御書付如例、

○二日、納官村濱津脇浦之常吉宅失火、延及二十四

七戸、醫者石黒雲仙及馬一疋死、燒宗門手札

三十二枚、事聞于官、

○四日、與米二石・味噌七貫目于濱津脇浦恤

急、令常吉納科錢二百文、坐失火也、

○同日、野間村百姓直四郎息松次郎以竊盜下獄

百日、

○五日、鳴間浦之喜藤太禁旅行、以下為水手久

不歸郷也、

○十日、與高二石于美座矢太右衛門、以下自

悟公在世至三名跡為定府有勤勞上也、

○十五日、美座增千代元服、字三十郎、名代家

老平山傳一郎武世、家老日高源右衛門為武、理髮

上妻小左衛門定直、獻賜如例、

○十八日、以西村休八為兵具奉行、

○廿日、東郷郷本土鬼塚氏龍右衛門・野田下名村郷

本土湯田氏宗兵衛・旧關山糺家來篠原氏休助、

以一向宗見放來、

○同日、異國船橋一本漂來于住吉村、縮方横目

種子嶋翁之助・早川清右衛門、吾横目西村田代時

和、船奉行河内六郎時然檢察之、長六丈餘、

廻五尺餘、中間有設架之跡、船功者云、此非

唐船・琉球船之橋、必阿蘭陀之類也、事聞于

官翌年六月官使贈之本府

○廿五日、以河内六郎時然為用人、

○十一月五日、大山五左衛門納科錢一貫文、坐

其僕盜平山傳一郎櫛實平日教誨不嚴也、

○六日、因火災除濱津脇浦之租稅、有差盡得者取三分之二、得半者三分之一、盡燒者十分之一

○十六日、與米六斗于日高周左衛門、官被

命_レ檢_ニ察嶋中之田地_一除_レ古田之日、令_ニ郡奉行周左衛門等預檢_ニ見之_一、時周左衛門喪_レ妻故辭_レ之、然不_レ聽、與_レ米以助_レ費、

○同日、以_ニ羽生新十郎・西村休八_一為_ニ組頭_一、平山唯七・西村城助無役番頭、河東仲助兵具奉行、岩河助七山奉行、前田平八・羽生七郎次馬役、

○廿三日、叱_ニ平山村庄屋上妻次左衛門_一、以_ニ幼子開_ニ文箱之封_一也、

○廿六日、横目千田傳左衛門歸、

○官令_ニ野町人太郎兵衛納_ニ科錢一貫文_一、海士泊浦_(土)之嘉次郎・徳次郎各二百五十文、坐_下自_ニ覺府_一歸之日不_レ入_中船于山川港_上也、

○與_ニ白銀一枚于下村源之允_一、役_ニ于覺府_一病歸_レ郷、先祖有_ニ勲勞_一今家貧故也、

○十二月十三日、令_ニ現和村田之脇浦之吉次・周次郎・孫次・長吉・庄太郎・彦藏・七太郎・虎次郎・金次郎・長太郎・周之允修_ニ治道路_一七日、坐_ニ犯_レ法為_ニ俳優_一也、連及叱_ニ庄官小山田九賀右衛

門・横目鮫嶋周之允・羽生市郎・鮫嶋休次、
○同日、叱_ニ東町之八板矢平次_一、以_レ令_下幼子附_ニ締方横目早川氏_一廻嶋_上也、

○同日、上妻新七獻_ニ斗搗之餅_一、如_レ例、

○十四日、納官村足輕徳永郷右衛門寺_ニ入于本隆寺_一七日、住吉村之彦市_(知覺氏家來)寺_ニ入于日輪寺_一七日、郷右衛門養_ニ彦市二男_一偽為_ニ己之子_一令_レ繼_ニ宗家徳永仙次郎家_一、事發覺、故及_レ茲、

○廿七日、止_ニ歲暮之規式_一、前太守中将公薨去之訃至故也、

| | |
|----|-------|
| 天保 | 廿四代 |
| 十三 | 種子島家譜 |
| | 久珍 |
| | 五十八 |

○天保十三年壬寅正月、以_二前中将公喪中_一諸規式止、

○三日、以_二森周右衛門友諒_一爲_二用人_一、

○同日、以_二妙乘院日詮_一爲_二本源寺方丈_一、

○十四日、野間村之松次郎出年、

○十五日、以_二三田上市郎義福_一爲_二船奉行_一、

○十八日、叱_二坂井村庄屋古一源助及横目徳永只次

郎・上妻惣太郎・池山喜藤大・柳田甚之進_一、坐_下村民許多不_レ納_二去々年之貢稅_一過_二期月_一而不_レ訴也、

○廿五日、流人猪之助病死、締方種子島翁之助・早河清右衛門、吾横目西村田代時和・渡邊早右衛門兼重檢_一見其骸_一、事聞_二于官_一、

○廿七日、西之表足輕川口水右衛門宅火、燒_二宗門手札三枚_一、事聞_二于官_一、

○廿八日、納_二三狩所獲鹿皮于官_一、

○二月九日、使_二島間浦善四郎納_二科錢三貫文_一、遣_二己舟于西目_一商_二材木_一之日載_下無_二信牌_一材木上_{故也}、

○同日、叱_二島間浦之甚五郎_一、坐_下欲_下載_二倉米於彼船_一賣_下他之日有_下請_レ載_レ米者上_一、私載_二其米於善四郎船_一不_レ告_二于其意彼船長_一也、連及叱_二同浦之榮吉・權吉_一、爲_二善四郎船水楢_一載_下不_レ記_二信牌_一米上_{故也}、

○同日、叱_二住吉村之上妻貞之進・平山友次・上妻

茂左衛門一、坐_下島間浦之善四郎於_二住吉港_一不_レ察_三知私載_二材於船_一也、

○同日、褒_三詞本法寺前番僧本守院、隆興寺番僧良運院、日輪寺番僧慶幸院、清淨寺番僧本妙院・顯壽院・淨光寺前番僧信行院、妙泉寺番僧昇全院・

自眼院、本隆寺番僧信成院、遠妙寺番僧信受院、慈遠寺造立之日盡_二力經營_一、故及_レ茲、

○十一日、以_三前中將公夷既終_一、是日行_二正月之式_一、

○同日、住吉村之與四郎納_三科錢三貫文_一、坐_三盜_二材賣_一于善四郎也、

○同日、在鄉諸寺獻上、如_レ例、

○同日、蓮勝寺獻_三神酒・黍盛_一、如_レ例、

○同日、甲冑之賀筵、如_レ例、

○同日、本源寺軍陣・溫座祈念、如_レ例、

○同日、的始、名代家老平山傳一郎武世、用人渡邊

早右衛門兼重、射手一番_{美座矢太郎}西村七左衛門、二番_{大牟禮良}七

弥、三番_{羽生宗藏}日高次郎、

○十五日、河内茂助初謁見、獻_二征矢_一、

○十七日、上妻小左衛門定直嫡子龜千代元服、改_二字新藏_一、名代家老美座七郎右衛門時敏、理髮種子島次郎左衛門時習、

○十八日、初狩、名代家老美座七郎右衛門時敏、物奉行種子島次郎左衛門時習、用人西村田代時和、組頭河内六郎時然、日高源藏爲親、前田新五兵衛宗誠、山奉行岩河九郎助・中田宇平太・篠河九兵衛・西村惣二、諸式如_レ例、西村惣二獲_レ猪、

○締方志岐正八郎・松崎十太郎來、

○十九日、禁_二洲之崎浦之仲次郎旅行三年、貿易大坂_一中途稱_二風不順_一不_レ受_三津口之檢察_一、且齋_下

呈_二大坂公邸_一之書不_レ達_レ之、其行不正故也、

○同日、納官村・油久村・上里村・莖永村・上西之表村・中西之表村、各村吏人民合_レ力禱_二慈遠寺經營_一、令_三寺社奉行褒_三詞_一之、

○同日、油久村之十之九・長吉・岩次郎・小太郎・

惣七・平太郎・源太郎・市太郎・與平太・豊次郎

・犬次郎、犯_レ法爲_二俳優_一、罪_レ之修_二道路_一。七日、

○同日、官使_三永徳丸船頭植原彦太郎納_二科錢_一

貫文、水手休太郎・新太郎・庄市・榮次郎・利三

次・直助・小市・仙兵衛・虎次郎各一貫文、

坐_下運_二送砂糖于大坂_一之時載_レ無_レ信牌_一、檣材_上也、

○廿日、種子島_三左衛門時元嫡子三千代_一元服、獻_二

太刀・馬代_一、加冠名代家老平山傳一郎武世、理

髮西村甚四郎時宴、賜_二字三七及的矢_一、

○廿四日、官船昌惠丸_{安達安右衛門支}從_二喜界島_一、歸

路遇_二逆風_一漂到、風浪惡不_レ能_レ入_二于港_一、乃到_二

石寺洋_一下_レ碇、即唐物横目相良角兵衛、縮方横

目松崎十太郎・志岐正八郎、附役篠崎正次郎、吾

横目上妻七兵衛・河内六郎、船奉行西村太平次及

船功者八板盛右衛門等、到_二石寺_一指_二揮_一之、風

浪益惡小船不_レ能_レ通、促_二八幡丸載_レ所_レ藏_二于船

手_一官庫之棕栢大索繩_上贈_レ之、廿五日又贈_二碇棕

栢索繩_一、申刻西風大起殆危、又贈_二棕栢繩索

碇_一、撰_二水手七人_一乘_レ之保護_レ之、到_二廿六日_一

風浪収、以_二小舟九艘_一引入_二于赤尾木港_一、以_レ飛
船_一聞_二于官_一、

○與_二銀五枚莖永村之岩坪伴五郎_一、數年爲_レ僕勤

仕、即今請_レ暇歸島、故與_レ之以助資、

○檢_二察一向宗_一聞_二于官_一、如_レ例、

○三月三日、使_二渡邊早右衛門兼重讀_二法章_一、

○同日、賀_二瀬引_一、西之表庄官獻_二酒肴_一、

○同日、以_二西村休八時乘_一爲_二船奉行_一、

○七日、古田村百姓金左衛門宅火、人馬・手札等

無_レ恙、

○同日、上妻源兵衛寺_三入于遠妙寺_一三年、以_レ有_二

不正之事_一也、

○同日、高尾野郷士故山下氏正右衛門、町田主馬故

家来旧中村氏仲兵衛、以_二一向宗_一見_レ放來、

○十二日、池田浦之休太郎下_レ牢百日、洲之崎浦之

新次郎・仙兵衛・休太郎、池田浦之新太郎、島間

浦之榮次郎入牢各六十日、爲_二永徳丸水手_一赴_二于

大坂_一、竊買_レ無_レ信牌_一檣材_上載_レ之、於_二山川港_一

事發覺、故及_レ茲、

○同日、叱_二櫛原彦太郎_一、爲_二船長_一之_二大坂_一之日、水梢等載_下不_レ記_二信牌_一卷捧_上於_二大坂_一發覺、雖_レ不_レ與_二知其事_一爲_二船長_一不_二省察_一罪無_レ所_レ逃、故及_レ茲、

○同日、仙師住吉村中宿湯田新次郎納_二科錢十五貫文_一、下西之表仙次郎五貫文_一、坐_下共盜_二櫻材_一竊賣_上永徳丸水手休太郎等_上也、

○同日、住吉村能野塩戸仲七納_二科錢三百文_一、坐_二湯田等連_一送所_レ盜材_一也、

○十六日、唐物方横目今村金次・附役宅間金之允來、

○廿五日、家老・物奉行・用人於_二本源寺弓場_一觀_レ射、上妻七郎左衛門軍勢書入束矢、日高周左衛門金の束矢、各與_二鷺羽_一、

○廿八日、以_二羽生岡右衛門・羽生半左衛門_一爲_二兵具奉行_一、平山直次納戸奉行、

○島間浦之惣助・庄市、増田村岩屋口浦之小市禁_二

旅行三年、洲之崎浦之利三次一年、共爲_二永徳丸水手_一盜_二櫻材_一載_レ之故也、

○安城村郷士長野太左衛門寺_二入于善福寺_一九箇月、坐_下狼對_二覺府之人_一談_二話田地之事_上也、

○四月七日、國老島津登傳_レ書_上命_下流_二猶原覺七于鬼界島_一、下西之表百姓岩吉妻_名妻_中納_中科錢二百文_上、事記_二于左_一、

○三五〇 島津久備久達書

喜界嶋遠島

猶原覺七

養子覺次を手強致打擲、夫故相果候、不審有之及問付候処、去戌十二月廿六日覺次江新伐_二差越候様申付候処_一、不埒いたし不差越、翌日馬屋之脇江臥居候を見當、不埒之儀共相叱、其邊江有之竹_二而致打擲_一、薪伐_二馬引越候様_一、自身_二者先_一差越相待候得共、不參付罷帰見申候処、近所明家棟木江致自縊候を見當、解卸申候、死跡數中江抱行召置候処、西之表村之岩吉妻けさ見當爲知候付、

櫛柑之木致自縊候筋申出可與旨、竊ニ相頼候段申出候、致自縊候場所爲致見分候処、梁木等煤之相積繩ニ而茂引渡候跡無之、横目糺方之節者右通不埒いたし候付、竹又者棒ニ而致打擲、過言申ニ付立腹之餘胸腹之辺踏候處相果候付、繩ニ而首をしめ近邊櫛柑下江召置候をけさしらせ候付、前文通相頼候旨申出一區さし候付、度々水間迄茂申付稠敷問詰候得共、色々口を替申通白状不致候得共、旁之次第を以手強打擲いたし相果候を、自縊之筋取繕候不審難遁者ニ付遠島申付候、

右申渡、便船無之内者、本之通入牢可申付置候、

四月七日

(島津久備)
登

○三五二 島津久備久達書

科錢貳百文

西之表岩吉妻

袈裟

猶原覚七養子を手強致打擲相果候を、自縊之筋竊ニ頼ニ逢、其通申出候段、横目糺方之上申出不

届之仕形ニ付、右之通申付候、

四月七日

(島津久備)
登

○八日、二階堂右八郎傳ニ公命、示下糸荷船漂流之處置且禁と商唐貨、如例、

○十日、家老日高源右衛門爲武致仕、

○十五日、以異國船來之候一國老猪飼央・島津登

・菱刈安房傳ニ長崎奉行之令、如例、

○十六日、賜銀二枚于慈遠寺宜圓院、青銅二百足

于辨壽坊、金子百足于扇樹院、青銅二百足于知性

院・榮承坊、賞各盡精力、造營慈遠寺也、

○廿一日、安城村之仁三太・五次郎各納科錢一貫

文、坐伐笠松之田尾之松爲園畑也、

○廿六日、初置之聚、斂諸人所借于府庫之錢財上

座、名ニ拜借調物奉行所、

○廿七日、流人知覽厚地村馬場園門名頭與八弟助右

衛門子仁左衛門病死、事聞于官、

○晦日、太守公侍女字浦贈書于松壽院殿、竊告之

令_三報七郎君爲_二養子_一嗣_下家系上之事議定_甲、

○五月一日、前田新六元服、名代家老平山傳一郎武世、理髮上妻小左衛門定直、賜_二字平二郎及的矢_一、

○同日、前田太郎次・瀨田盛之允初謁見、

○五日、賜_二粽各二束于三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、以_二西村十左衛門時弘・宮浦藤九郎爲_二船奉行_一、遠藤壯兵衛・知覽弥兵衛高奉行、

○十五日、公儀流人乙吉繫_レ牢百日、乙吉請_レ買_二

下中之村之彦四郎所_レ飼之牛、彦四郎許_下過_二播種之時_一賣_レ之、不_レ聽強牽_レ牛去、彦四郎使_二足輕二人追_レ之、於_二龜割坂_一擲_二執之_一、中之村・莖

永村村吏聞_レ之、然乙吉所爲甚不狀且有_二平素不正之說_一、故及_レ茲、

○廿二日、牧瀨傳之允寺_三入于本蓮寺_二廿七日、篠

河弥五右衛門寺_三入于隆興寺_二廿七日、共有_二科錢未_レ納之内犯_レ法、歛_レ髮故也、_(歛力)

○同日、現和村庄司浦之喜七以下於_二山川_一竊盜_上禁_二

旅行三年、

○廿三日、國老島津和泉竊奉_二公命_一來_二吾第一_一、告_レ令_三報七郎君繼_二家統_一、

○廿五日、東町中宿日高善次寺入七日、以_二停_二滯徇書_一也、

○檢察一向宗_一聞_二于官_一、如_レ例、

○六月四日、官召_二親族島津相馬_一竊見_レ命_二報七郎君入與_一、事開_二于左_一、

○三五二 藩達書

報七郎樣御事、種子嶋伊勢名跡相續被 仰出候儀、茂可有之候条、此旨内、伊勢親類江可申聞事、

○八日、名越船右衛門寺_三入于本隆寺_二三十五日、

小普請入五年、以下於_二島間村_一製_レ蠟之簿書甚不_レ正也、

○十二日、申刻異國之一大船漂_二到于西之村岬之洋_一、_{可一}、設_二檣四本_一掛_二中二本_一之帆薄赤、前後二本

之帆白、時山奉行岩河助七爲檢察櫛樹、在子西之村、即以飛札報之、夜寅刻達于政府、莖永村村吏亦然、卯刻異國方掛船奉行羽生新一郎・宮浦藤九郎、船功者八板盛右衛門發行、尋家老美座七郎右衛門、筆吏羽生七郎次、横目河内六郎・上妻七兵衛、締方松崎十太郎、會所横目前田新五兵衛、組頭西村源五右衛門・種子島五郎衛門、從士二十五人、兵具奉行野間龍之助、率輕卒一赴彼地、十三日、到油久村阿高磯、聞異國船向東南去、相議遣異國方横目及船奉行等于莖永村備不虞、其餘歸城、

○十五日、促飛船令上妻源左衛門・緒方吉兵衛聞異國船之事于本府、

○廿二日、寄附金子十兩・杉九十五本慈遠寺助造營、

○同日、以篠河九兵衛爲勝手方、

○廿三日、以上妻小左衛門定直爲家老、日高惣七郎・篠河九兵衛普請奉行、

○廿五日、山崎筑右衛門爲三代小頭、嘗以下役于覺邸盡給府庫之費用爲二代小頭、今又以內批蒙報七郎殿入興之命、故買衣服器物于江戸大坂、其價不少、筑右衛門能辨之故也、

○同日、以羽生新十郎爲組頭、

○廿八日、以廣瀬平太夫爲納殿役人、

○國老菱刈安房傳命賜青銅各二百疋于船奉行西村太平次、水手池田浦之嘉次郎・兵吉・孫次郎、蟹泊浦之庄太郎・嘉吉・甚太郎、洲之崎浦之仙兵衛・清太郎、賞昌惠丸及難船之日盡力救其難也、事記于左、

○三五三 菱刈隆觀達書

青銅貳百疋ツ、種子嶋伊勢名跡船方役西村太平次、水手池田浦之嘉次郎・兵吉・孫次郎、海士泊浦之庄太郎・甚太郎・嘉吉、すの崎浦之仙兵衛・清太郎江頂戴被仰付候、當二月喜界島登御用船於種子島沖及難船候節、太平次儀者船手江混与相

詰、浦人共召集牽船致手當、船場江茂走續、万端

無手拔行届、嘉次郎より清太郎迄者本船江乗付、

昼夜相働、拂切候綱碇差替、孫次郎儀者水入迄茂

いたし、乍漸本船繫留、皆共二別而奇特之心入之

段被 聞召上候、依之為 御褒美右之通被下候

条、難有頂戴可為仕候、

ヲ
六月 (兼刈盛徳 安房)

○廿九日、賀三夏越一、西之表庄官獻二西瓜・酒一、

如レ例、

○七月四日、御裁許方掛町田平覺傳レ書示二異國船

漂到之處置于締方一、締方又達二之家老一、如レ

左、

○三五四 裁許方掛町田平覺申渡書

吳國船与相見得候船見掛候節者、帆影其外影行則

届被申出候様先年被仰渡置候間、猶又右様相心得

無間違早々可被申越候、右二付而者是迄我々又者

(付脱)
御目宛二而被申越来候得共、吳國船漂着之儀者至

而隱密之御取扱有之事候間、向後白封二而我々又

者御目附江被申越候様可被取計候、且所横目江茂

同様白封二而申越候様可被相達候、尤白封之致様

委敷申教可被置候、左候而右越後年無間違後役二

可被次渡置候、此段大目附被仰候、

但
本文之成行飛脚又者飛船取仕立被申越候節

者、右者共江吳國船相見得候趣者手廣口外不

致様、分而申付可被差越候、所中之儀茂同様

手廣口外不致様、兼而可申渡置候、

ヲ
七月 御裁許掛 町田平覺

○五日、以上妻源左衛門一為二普請奉行一、

○同日、官以二上妻小左衛門定直・西村源五右衛

門時之・田上市郎義福一為二御菜園方掛一、事記レ

左、

○三五五 菓園方掛村田善太夫申渡書

上妻(定直)小左衛門

西村源(時之)五右衛門

田上市郎(義德)

唐菓種御取締者勿論、諸菓種出產出増候様、兼而懸心頭可相務候、尤所中御取締向之儀者何篇行届候様、掛役、中申談可相動、此段申渡候、

七月五日
御庭奉行
御菓園方掛
村田善太夫

○七日、當番家老拜三日深公之鏡于廣間、如例、

○八日、名代家老西村甚五太夫時員詣于大會寺、祭祖先及戰死之靈、

○九日、賜赤米二斗于西町之仁次郎、賞使下爲飛船船長告急於覺邸上七日而往來也、

○十日、以前田新五兵衛宗誠爲物奉行、上妻七兵衛宗徳文書方掛、

○同日、種子島五郎衛門爲昌惠丸上乘赴于山川

港之日、以急速借錢二貫文于府庫、今憐困窮賜之、

○十一日、賜眞米二斗于岩河九郎助、以勤勞于拜借方也、

○十三日、名代家老上妻小左衛門定直詣于慈遠寺、祭祖先・宗祖・戰死之靈、

○十四日、家老西村次郎兵衛時之死、

○同日、名代家老平山傳一郎武世詣于本源寺祭宗祖、

○十六日、名代家老西村甚五太夫時員詣于本源寺、祭祖先及戰死之靈、

○十八日、肥後渡前・西俣森之助以元服之禮初謁見、渡前・森之助共不請元服(敬力)私斂髮、今以上書謝罪、有怨之及茲、

○廿二日、収猶原覺七所_レ有之高八斗三升九合九撮、

○廿四日、賜赤米四斗于三箇浦、賞運送修造覺邸之第二材許多速而事不_レ留滯也、

- 同日、賜_三真米五斗於坂井村庄屋古市源助及横目古市八百次・上妻惣太・徳永只次郎・柳田甚之進・池山喜藤太_一、賞_下異國船漂_三來于西之村_一之日、多集_二人馬_一且具_レ飯辨_中急事_上也、
- 同日、油久村庄官羽生平助、横目西村甚兵衛・國上六右衛門・羽生金助・遠藤嘉左衛門、野間村庄官日高藤助、横目鎌田秀助・榎元伊十次・馬場藤太郎・河野休太郎各寺入七日、異國船漂_三到于西之村_一之日怠_三法令_二不_レ具_三乘馬役夫_一、乃至_レ歸漸出_二人馬_一、故罪_レ之也、
- 同日、西之村庄官河東新右衛門、横目名越市十郎・河東休次郎・名越宗四郎寺入一七日、坐_下異國船到來之日速_レ不_レ發_三飛使_二至_三翌日_一報_レ之也、
- 廿七日、牧瀬仁三太寺入廿一日、以下遣_三己舟覽_二府_一時不_レ待_三締方横目監察_二漫載_中貨物_上也、
- 廿八日、褒_三詞上西之表村之六七_一・利三次・庄次郎・嘉吉・市次郎・金太郎・三太郎・覺之允・善七・桑之允_一、修_三造覺邸之第宅_一之材自_三城之濱_一

- 運_三送于前筒浦之日、以_三自船轉_二運之_一、賞_三其志_二也、
- 八月一日、賜_三中紙各二束于慈遠寺・大會寺_一、二箇寺亦獻_三同品_二、
- 六日、吉良市次郎寺入於清淨寺廿一日、爲_三覺府普請方下吏_二簿書脫_レ載_三平木六千九百五十一_一故也、
- 七日、以_三渡邊早右衛門兼重_一・種子島友右衛門時大_一爲_三慈遠寺社奉行_一、森周右衛門友諒大會寺社奉行、
- 十五日、蓮勝寺獻_三神酒・粟盛_一、如_レ例、
- 廿日、以_三日高原蔵爲親_一爲_三納戸奉行_一、下村源之允山奉行、時任平八・平山佐一郎・羽生仙蔵無役番頭、
- 廿五日、今秋有_レ蝗、田地不_レ登、現和村・中西之表村・莖永村・下中之村・平山村・住吉村各減_レ賦、有_レ差、
- 廿八日、莖永村中間柳田和吉下_レ牢百日、役_三于

覺府盜馬之瘦隱及總故也、

○同日、莖永村十太郎入牢百日、役覺府盜米故也、

○同日、放長野次郎于莖永村、禁與世人交通、以有竊盜之說也、

○同日、下中之村百姓善作下牢三年、事博奕、且於處々竊盜、或帶腰刀徘徊世間、猥起爭論、或打擲兄弟、其行暴戾甚也、故及茲、

○同日、長野良左衛門僕市左衛門繫牢二百日、留守良左衛門家、駈催無賴之徒企博奕、故及茲、

○同日、公儀流人弥助下牢三年、於良左衛門宅博奕、以罪人之身無敬慎之意恣橫行、其行不正、故罪之也、

○同日、池田休太郎・西之村之八百次・上中之村之兵左衛門、現和村之清助・貞四郎、下中之村之善次郎・善助、野間村之才助、中西之表茂三太、

令修治道路二七日、坐於良左衛門宅博奕上例、

○廿九日、吉良市次郎寺入於清淨寺二廿七日、嘗以簿書之事寺入、期充命赦不受、橫目檢察自斂髮、故又寺入、

○九月七日、官平山村濱田浦之万次郎納科錢二百文、不知其故、

○九日、令河内六郎時然讀法章于廣間、如例、

○同日、以羽生紋九郎爲山奉行、

○十日、西之村庄官濱田万之進、橫目羽生十左衛門・日高曾十郎・鮫島藤市・名越宗四郎・羽生五郎右衛門、納官村村吏古市次郎・春田喜十次・日高源太郎・春田甚右衛門・春田甚藏・梶原元兵衛各寺入二七日、以年不登請檢地、隨例豫令題賦而試之失實大減、故及茲、

○十三日、叱笹河源七、坐爲船長之覺府之日有不正之行上例、

○廿二日、長野平太左衛門・遠藤茂左衛門嫡子遠藤茂平次寺入二七日、平太左衛門有_二男子_一既死、竊養_二茂平次_一、與_二死男子之宗門手札_一以爲_二己嫡子_一、事發覺、故及_レ茲、

○廿四日、以_二西村惣次_一爲_二勝手方掛_一、

○廿八日、高尾野雄助初謁見、獻_二征矢_一、

○廿九日、以下所放_二于上里村_一流人友吉竊盜上下_レ牢、

○傳_二縣官之令_一、示_二異國船渡來之日處置之法_一、且見_レ命_下正_二下民之風俗_一勸_中農業_上、事記_二于左_一、

○三五六 幕府触書

吳國船渡來之節取計方之儀今度被仰渡候、就夫而者向後若近海江渡來も有之、臨時警固并防禦等被仰渡候儀可有之候間、平常火炮之用意可被申付置候、蠻夷之諸國戰鬪之仕與、和漢之制度与ハ相違ニ付、利方軍器別段用意可有之候間、參勤之面々者覺悟_二而防禦之仕方兼而心掛置可被申候、乍

併右ニ付參勤之節是迄多人数召列候儀者無用いたし、江戸表有合之人数ニ而相心得候様可被致、定府之ものハ當地重候士之事ニ付、別而右心得ニ而弥手厚ニ用意可被申付候、都而人数并兵具等取飾無之候ハ、被書出、若只今迄銘々手薄之儀有之儀共、御沙汰之筋茂無之候間、可被得其意候、

右之通可被相觸候、
九月

○三五七 幕府触書

大目附江

吳國船渡來之節者二念なく打拂へく、文政八年被仰出候得共、何之別心も無之船風波之難ニあひ漂來候類者、格別御仁慮より狼打拂間敷、よつて武備之儀者弥嚴重ニ可被心掛旨、今度改而被仰出御事ニ付、諸国之廻船・漁船等船之乗筋を相考へ、海上ニおひて可成丈吳國之船ニ不出會様可心掛候、乍然餘儀なき場合ニ而出會候狀、又者吳國

の船よりなる事本ノマも有之候ハ、猶更之儀、他領たりとも着岸之節其所之役人江有躰届置可申候、尤御咎等者無之候、勿論吳國親候事本ノマハ前より御法度ニ候得者、其旨兼而船方漁民等相心得堅可相守候、若親しみ候儀を隠置、後日相頭候ニおひてハ、無用捨可被處敵科候、有躰ニ訴出候ハ、一旦用意之ものにて御科目者無之、時宜ニよつて御褒美を可被下候間、聊不相包可申出候、其旨相心得弥ゆるかせニすへからさるもの也、

十月

右之趣、文政八年被 仰出候浦々、建札ニ引替候而建置候様、向々江可相触候、

○三五八 幕府触書

大目附江

百姓之儀者、僊服を着し髮薰を以つかね候事、古来之風儀候処、近来奢ニ長し身分不相應之品着用いたし、髮茂油元結を用意候而已ならず、流行之

風俗を学ひ、其外雨具茂簑笠而已を用ひ候事ニ候処、當時傘・合羽を用ひ、其餘之儀萬端ニ準し、無益之費多、先祖より持来候田畑も人手ニ渡候儀歎しく事ニ候、一躰百姓之餘業之酒食商等いたし候類、又者湯屋髮結床ニ而有之候儀、早竟近年之儀ニ而、若者共自然よからぬ道ニ携、柔弱且放埒之基ニ候間、弥古代之風儀忘却不致、物毎ニ質素にいたし農業相励候儀肝要ニ候、且先達而菱垣廻船積問屋共、其外諸殊仲間組合一統停止之旨被 仰出、御府内ニおひて同商賣何軒ニ而相始させ手廣ニ相成候ニ付、自然在方江茂押移町人之商売を始候儀者、決而不相成事ニ候、

近年男女共作奉公人并少々、自然高給ニ相成、機掛下女与唱候者別而過分之給金を取候由、是又餘業ニ走候故之儀、本末取失候事共ニ候、元来百姓共商向當座之利潤を以宮候町人式者格別之儀ニ候条、是等之処能々弁別いたし、一途ニ農業情出情、銘々持傳候田畑不離様可心掛候、

○十月八日、熊野權現宮神領及賽錢等令_二松濤庵掌_レ之、備_二宮殿修補費用_一、

○同日、唐物方横目東郷元次・附役川畑甚兵衛來、

○九日、名代家老西村甚五太夫時員、十一日、名代

家老前田十九郎宗恭詣_二本源寺_一祭_二宗祖_一、

○十三日、納官村濱津脇之熊太郎妻自縊、事聞_二于官_一、

○十四日、與_二米二斗于池田浦之金助_一、爲_二能保_一護船_一也、

○十六日、以_二種子島友之助_一爲_二船奉行_一、美座織右衛門普請奉行、東嘉助馬役、

○賜_二永代高三石于廣瀬_一、自_二清孝院殿_一以來勤仕、且第二女_美及_美嫁_二于鎌田家_一爲_二之姆_一數年勤勞、故賞_レ之也、

○二分莖永村郷士馬場吉太夫祿地五石、以_二其一_一與_二于馬場淺治_一、淺治者馬場淺之進嫡子也、初淺之進無_二男子_一養_二其弟馬場藤右衛門男子吉太

夫_一爲_二嗣子_一、后生_二男子_一、淺治是也、以_二公道_一論_レ之則吉太夫以_二淺治_一須_レ爲_二嗣子_一、今無_二其事_一、故議及_レ茲、

○縣官改_二鑄金銀_一之令書今月達_二此地_一、開_二于左_一、

○三五九 幕府触書

文政度已來金銀吹直し被仰付候処、當時保字金銀・沓部銀・式朱銀等を以通用被成置候、右_二付文政度之文字金銀・草字沓部判・式朱銀・沓部銀等今度不殘通用停止被仰付候間、此旨相心得、凡古金銀是迄停止之品共致所持候者は、多少共_二右躰之員數銘_一より書付可差出候、數度引替之儀相觸候得共、引替殘高不少候得共、早竟金銀持困候餘力有之者共、品位宜數与存候方を宝与いたし隱置候故_二候哉_一、人情_二おひて難調_一者無之候得共、心得違候而、金銀者世上通用を以宝といたし候事故、品位何程宜數金銀たり共、既_二停止之上持困候者一己之宝与いたし候迄_一而、世上一同之宝た

る品、一己之私を以宝と持困居(タマ)隱置候者心得違

而、觸流候趣を背罪科不輕儀有之、世上之品、御改正被仰出、下々痛ニ相成候儀者相厭候様之御趣意ニ而、誠ニ難有御時節之所、一己之迷ニより違犯之罪科ニ陥り候者共有之候而者、其節ニ至り後悔致候而茂無詮不便之儀ニ而、兼而諭し示し、是迄停止より停止之金銀共連々觸流しニ應し、銘々持困之員数有之候書出者者、自己之冥加与辨、觸流相守奇特之段可被賞候、若世上通用之義理不願、一己之私情ニ迷を不悟有之候不書出、此上隱置候ハ、取揚之上嚴敷咎可申付候、此旨能々相心得、違犯致間敷候、

右之趣、諸國御代官所・諸奉行所・私領國主・地頭より不洩様相觸、前停止之金銀持困之有無致吟味、所持之者為書出、御勘定所江右書付可差出候、引替遣し方之儀者御勘定奉行可申達候、若隱置吟味不行届等閑之儀於有之者、面々可為越度候、

右之通可被相觸候、

八月

○十一月朔日、河東雄助所借于府庫之米二石七斗五升六合・綿十八把盡與之、為之聚(敏力)諸人借于府庫錢財上掾吏甲、能勤勞、故與之給資用、

○六日、下西之表兵之進納科錢五貫文、坐盜羽生六郎左衛門杉也、

○八日、渋谷左膳家來旧久松氏之金次郎以一向宗見放來、

○同日、官令蟹泊浦之喜三次・喜作、庄司浦之弥次郎・安次郎・新吉、濱津脇浦之庄市・十太郎、野町人嘉太郎・宗五郎・新五郎納科錢各一貫文、往琉球宮古島歸路寄船於大島、彼地人贈筵、受之不記信牌竊載船之咎也、

○十日、西恰之助純以妻卒字德、法諱清樹院殿即道妙身大姉、

○十六日、與_二池村五右衛門銀三枚_一、以_二逾_レ期役_一于_二覺府_一也、

○以_二知覽才兵衛_一爲_二近習役_一、西村直之進納戶奉行、廣瀬平太夫馬役、

○以_二家老上妻小左衛門定直_一爲_二異國方掛_一、

○官令_二島間浦之龜吉納_一科錢_二二貫文_一、坐_レ嘗運_二米于覺府_一之時載_中無_二信牌_一胡麻_上也、

○十二月三日、賜_二赤米四斗三箇浦_一、賞_レ修_二造覺邸之第宅_一材許多速轉送_上也、

○國老菱刈安房 傳_レ使_下

報七郎君爲_二嗣子_一繼_中家系_上之 公命_中、事開_レ左、

○三六〇 菱刈隆親達書

報七郎様

種子島伊勢名跡 相續被 仰出候、

十二月

○三六一 菱刈隆親達書

種子島伊勢名跡

親類

右者、

報七郎様御事、種子島伊勢名跡相續被 仰出候、

十二月

○國老島津石見傳 _レ命示_二 報七郎君入與之次

第一、事開_二于左_一、

○三六一 島津久浮申渡書

報七郎様御着御當日、種子島伊勢名跡相續被 仰

出、御旅服之俣 御城内御乘輿御免_二而、御供廻

之儀_二江戶より被召附候面_一、其俣被召列、直_二御

引越_二三付御次第等左之通_一、

一 爲御持相成候御道具等、向_レより可引渡候、

一 御家老耆人、御側御用人・御側役之間耆人、御廣

敷御用人耆人、御廣敷番頭耆人御先_二差越_レ可相詰

候、

一相掛候御役、并奥向着服熨斗目半袴又者十徳、御
廣敷與力以上着服麻袴、

一女中着服右三可準候、

一桜之間より御立、御中門外ニ而御乘輿、種子嶋伊

勢表門より御入、

一御道筋、北御門・御厩下・吉野橋・種子島伊勢名

跡表門、

一報七郎様江 松壽院殿より御年寄奉文を以御取替

有之候、

一報七郎様より 松壽院殿江右同断、

一太守様

少将様 其外様より

報七郎様江被遺物御使御引越相济候上可相勤候、

一太守様より 松壽院殿江被遺物之御使右同断、

一御引越相济且又被遺物等有之、爲御礼親類之内壹

人則日登 城、謁奏者番御礼可被申上候、

但退役候ハ、翌日、

一被差越候面々江吸物・取有一通可被差出候、

但居残候面々江者茶漬可被差出候、

右之通、種子島伊勢名跡親類江申渡、

十二月

(島津久浮)
石見

○三六三 島津久浮申渡書

御肴代三百疋

松壽院殿

右者、

報七郎様種子島伊勢名跡相續被 仰出候て、爲御

礼進上物有之候ニ付、

太守様より右之通拜領被仰付候条、此旨御使番江

申渡候、

十二月

(島津久浮)
石見

○三六四 島津久浮申渡書

一鯛巻折

太守様江

一御礼一通

少将様

御前様

隨信院様

勝姫様

寵姫様

宝鏡院様

松壽院殿

右者、此節

報七郎様種子島伊勢名跡相續被 仰出候て、右之
通御礼進上物被仰付候、左候而進上物之儀者、於
江戸御取替を以進上被仰付候、此旨申渡可承向江
茂可申渡候、

十二月

(島津久隆
石見)

○八日、報七郎久珍君自江府歸于府城、奉可
爲吾家之嗣子之命上、未刻入于邸、伊集院鐵次郎
・田上百治・押川乙五郎・村岡市、家老・物奉行・用人
郎次・村田玄佐從江府隨來近侍
・番頭・近習・納殿役人等拜迎于門外、親族
拜于中門外、門内北條織部奉裝導于書院之
階、於書院獻熨斗茶、市田右近導之入休

息所、脱旅服着吾家之衣服熨斗目、又出于

書院一見二門親族、后家老・物奉行・用人・番

頭・近習役・納殿役人・小姓之輩拜謁、右近又導

入二奧書院、島津安藝殿・松壽院殿迎之、侍女

拜謁、又右近導拜家廟及稻荷、入二休息所改

服不洗、又出二奧書院一開賀儀之宴、

時中

尚袈裟 八郎次

○寛政八年丙辰正月三日生、母同久道、

○文化二年乙丑十二月十五日、元服加冠日瑞公、理

髮種子島太郎兵衛時望、名八郎次時中、獻太刀

・馬代銀一枚・昆布一折・梅一荷、奉謁于

太守公大慈

○文化十二年乙亥十二月廿一日、八郎次時中爲種

子島雲次時庸養子、

○弘化二年乙巳二月三日卒、法諱梅園院林香日源居

士、

女子天婦

○享和二年癸亥六月廿二日生、母家女房新納氏女、
○文化十二年乙亥正月七日患痘卒、法諱春醒院殿
妙悅日解大童女、

女子

○文化十一年甲戌九月十五日生字歌、母

太守齊宣公第二女、

○文化十三年丙子六月十三日患驚風卒、法諱秋

玉院殿妙幼日厚大童女、

女子

○文化十四年丁丑二月十二日生字巖、母同前、

○文政元年戊寅二月九日患驚風卒、法諱春曉院

殿妙稚日桂大童女、

男子

○文政元年戊寅四月六日生、字鐵熊、母同前、

○同年八月十八日卒、法諱蓮玉知幼童子、

男子

○文政二年己卯十一月六日生、字知千代、母同前、

○文政三年庚辰八月廿五日患驚風卒、法諱知月
幻生童子、

女子

○文政四年辛巳十二月廿日生于種子島、母同

前、

○天保九年戊戌二月廿二日嫁島津又六郎久徵、

女子

○文政六年癸未九月廿二日生于種子島、母同

前、

○天保八年丁酉十二月十九日嫁鎌田木工之允、

女子

○文政八年乙酉三月晦日生于種子島、母侍妾

女楚、

○天保十一年庚子十月二十五日嫁關山札、後有故大

歸、

○弘化五年戊申四月二十九日嫁伊勢雅樂、

○嘉永二年己酉十一月十二日死、

久珍、

時珍 報七郎 彈正

○文政五年壬午二月四日生、實 前太守大慈公第十

二男、母 橘川次郎兵衛時吉女、

○天保十三年壬寅十二月八日、自江府歸于府

城上、午刻奉_下可_レ爲種子島氏嗣子_一之 命上、未

刻入_二于邸_一、

○國老菱刈安房傳_二家格及位階・禮席等之 命_一、

○三六五 菱刈隆觀達書

種子嶋報七郎殿

年頭・五節句、其外何そ_二付登 城之節者、島津

若狭一列上り口より被罷上候様被 仰出候、左候

而扣席者水仙之間下之休息所江被相扣候様被仰付

候、

一五節句并月次御礼席之儀者、御座之間_二之間末御

敷居より三重目_二而、御一門方家督・部屋栖一列

相濟候後、引續被罷出候様被仰付不及着座、御側

御用人名披露、

一御留主年者御座之間御礼準、於鶴之間御一門方謁
後、引續被罷出、謁御家老御祝儀御礼等被申上候
様被仰付候、

一年頭・八朔より家格通、於御對面所持參太刀_二而

御礼着座被仰付、若狭一列之頭_二被罷出候様被仰

付、扣席者若狭一列同席江被相扣候様被仰付候、

一_二一世此殿文字相用候様被仰付候_一、

一_二一世御一門方島津若狭一列頭_二被仰付候_一、

右者、別段之以 思召、右之通被仰付候旨被仰

出候、

十二月

(菱刈隆觀) 安房

(本文書ハ「旧記雜錄追録ハ」八七号文書ト同一文書ナルベシ)

○國老菱刈安房傳_二以_二女中初野・伊楚・阿左_一爲_二

報七郎侍女_一、以_二田上百_一・伊集院鐵次郎・村

岡一郎次_一爲_下近侍上之 公命_上、記_二于左_一、

○三六六 島津久浮申渡書

報七郎殿御附表使格

初野

右同御附御側女中

いそ

右同御次女中

あさ

右者、種子嶋報七郎殿江相附置候ニ付而者、何篇
家法通相心得候様被 仰出候、尤江戸向又者諸家
様御養子等江被為入候振合相心得候而者、決而不
相成候間、諸事實素ニいたし候様呉、御沙汰被
為在候条、聊取違之儀共無之様可申聞旨、御廣敷
御用人江申渡候、可承向江茂可申渡候、

十二月

(島津久浮
石見)

○三六七 島津久浮申渡書

田上百二

伊集院鉄次郎

村岡一郎次

右者、報七郎殿種子島伊勢名跡相續被 仰出候ニ
付、帰府迄之間彼方江相勤候様被 仰付候条、可

申渡候、

十二月

(島津久浮
石見)

○九日至十一日、詣于五社、且到國老・若年寄
・大目附之第謝繼家統、

○十三日、上妻源左衛門獻斗搗之餅、

○十四日、受先考放光院殿喪、土・足輕祭三月代

・殺生・音楽二十五日、普請作事三十日、漁釣・

商賈・家業有聲者七日、於本源寺廟所衆徒修

佛事、每七日使家老代行香、當七七箇

日則移神主于方丈、奠餅菓十六合、三箇寺

僧徒修佛事、如法、

○與金子三百足于岩河十右衛門時行、以輪番

役于覺府邸、踰期猶留滯司家統之事、

無停滯能辨諸事、故賞之也、又與金子百

足于西村甚五太夫時員、賞繼家系之故出府

能辨諸事也、

○止三歲暮規式、